医療法人社団

筑波記念会

2016年度年報

2016.4-2017.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

Fiscal year 2016

医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 2
基本理念・基本方針 …… 〃
筑波記念会 組織図 …… 〃
筑波記念病院 組織図 …… 3
沿革 …… 4
施設概要 …… 5
筑波記念病院 …… 〃
筑波総合クリニック …… 7
つくばトータルヘルスプラザ …… 〃
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 8
診療部門 …… 10
循環器内科 …… 〃
消化器内科 …… 12
血液内科 …… 14
神経内科 …… 16
代謝内科 …… 18
呼吸器内科 …… 20
消化器外科 …… 22
呼吸器外科 …… 24
心臓血管外科 …… 26
脳神経外科 …… 27
整形外科 …… 28
婦人科 …… 30
眼　科 …… 32
耳鼻咽喉科 …… 34
皮膚科 …… 36
小児科 …… 37
精神科 …… 38
麻酔科 …… 40
放射線科 …… 42
病理診断科 …… 44
リハビリテーション科 …… 46
救急科 …… 48
リウマチ・アレルギー科 …… 50
形成外科 …… 〃
血管専門外来 …… 〃
腎臓内科 …… 51
乳腺甲状腺外科 …… 〃
泌尿器科 …… 〃
もの忘れ診療科 …… 52
緩和ケア …… 〃
内　科 …… 〃
筑波記念病院　研修医 …… 53
業績集 …… 54
論文 …… 〃
学会・講演・セミナー等 …… 56
診療支援部門 …… 64
看護部 …… 〃
薬剤部 …… 68
放射線部 …… 70
リハビリテーション部 …… 72
臨床検査科 …… 78
臨床工学科 …… 80
栄養科 …… 82
医療相談室 …… 83
臨床心理 …… 84
地域医療連携部 …… 86
委　員　会 …… 89
運営会議 …… 〃
診療協議会 …… 〃
倫理委員会 …… 90
治験審査委員会 …… 92
医療安全管理委員会 …… 〃
リスクマネージャー部会 …… 93
感染対策委員会 …… 95
感染対策チーム委員会 …… 97
医療の質向上委員会 …… 100
臨床研修管理院内委員会 …… 〃
臨床研修管理委員会 …… 103
労働安全衛生委員会 …… 104
防火・防災委員会 …… 105
医療ガス安全管理委員会 …… 106
教育研修委員会 …… 107
輸血管理委員会 …… 108
褥瘡対策委員会 …… 〃
薬事委員会 …… 110
栄養委員会 …… 111
NST 委員会 …… 112
救急診療運営委員会 …… 113
外来診療運営委員会 …… 〃
手術部運営委員会 …… 114
ICU 運営委員会 …… 115
臨床検査管理委員会 …… 〃
クリティカルパス委員会 …… 116
がん化学療法検討委員会 …… 117
補助人工心臓管理委員会 …… 〃
地域医療従事者研修委員会 …… 118
地域連携患者サポートセンター委員会 …… 119
ＤＰＣ委員会 …… 120
診療録管理委員会 …… 121
地域医療サービス委員会 …… 122
ＩＴセキュリティ委員会 …… 123
企画広報委員会 …… 〃
筑波総合クリニック …… 125
つくばトータルヘルスプラザ …… 126
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 130
つくば訪問看護ステーション …… 131
筑波記念病院 統計 …… 132
患者統計 …… 〃
科別外来患者数 …… 〃
救急車搬送患者記録 …… 133
ドクターヘリ搬送患者数 …… 〃
平均在院日数（一般病棟）……134
入院延べ患者数 …… 135
新入院患者数 …… 136
手術件数（入院・外来） …… 137
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 138
病床利用率 …… 〃
主な指導料・管理料算定件数 …… 139
地域がん登録部位別件数 …… 140
研修・講演会一覧 …… 141

医療法人社団 筑波記念会　概要

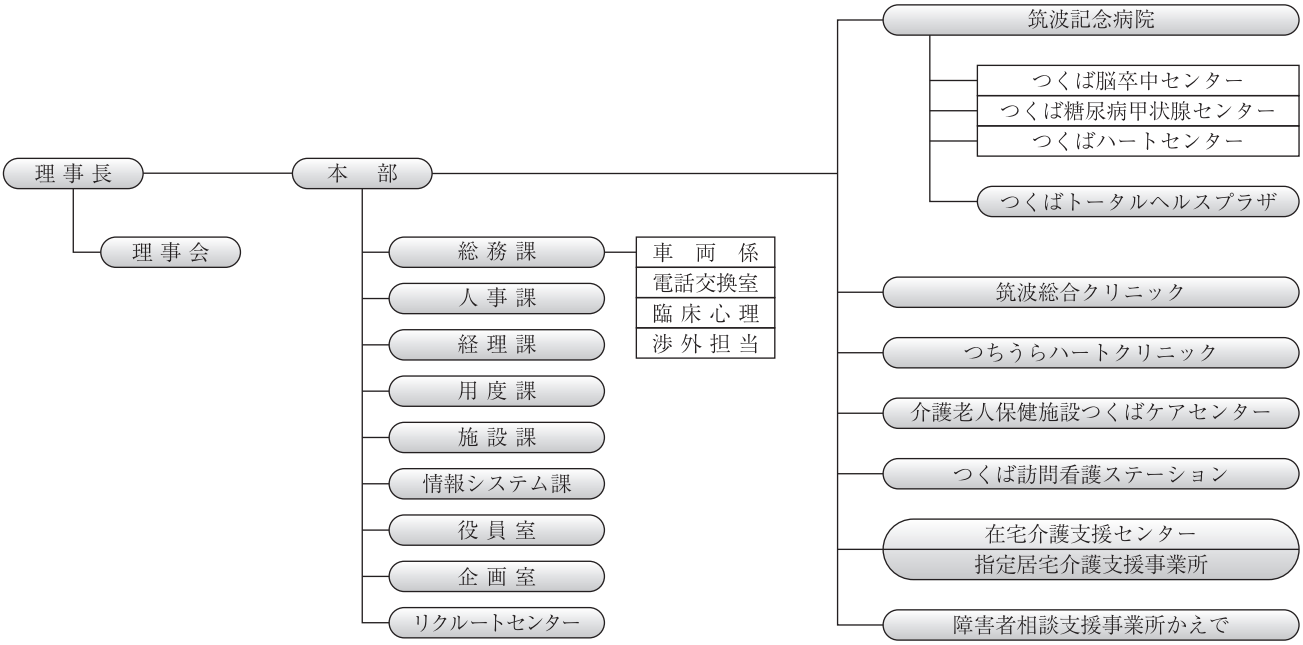
基　本　理　念

誠意を以って最善をつくす

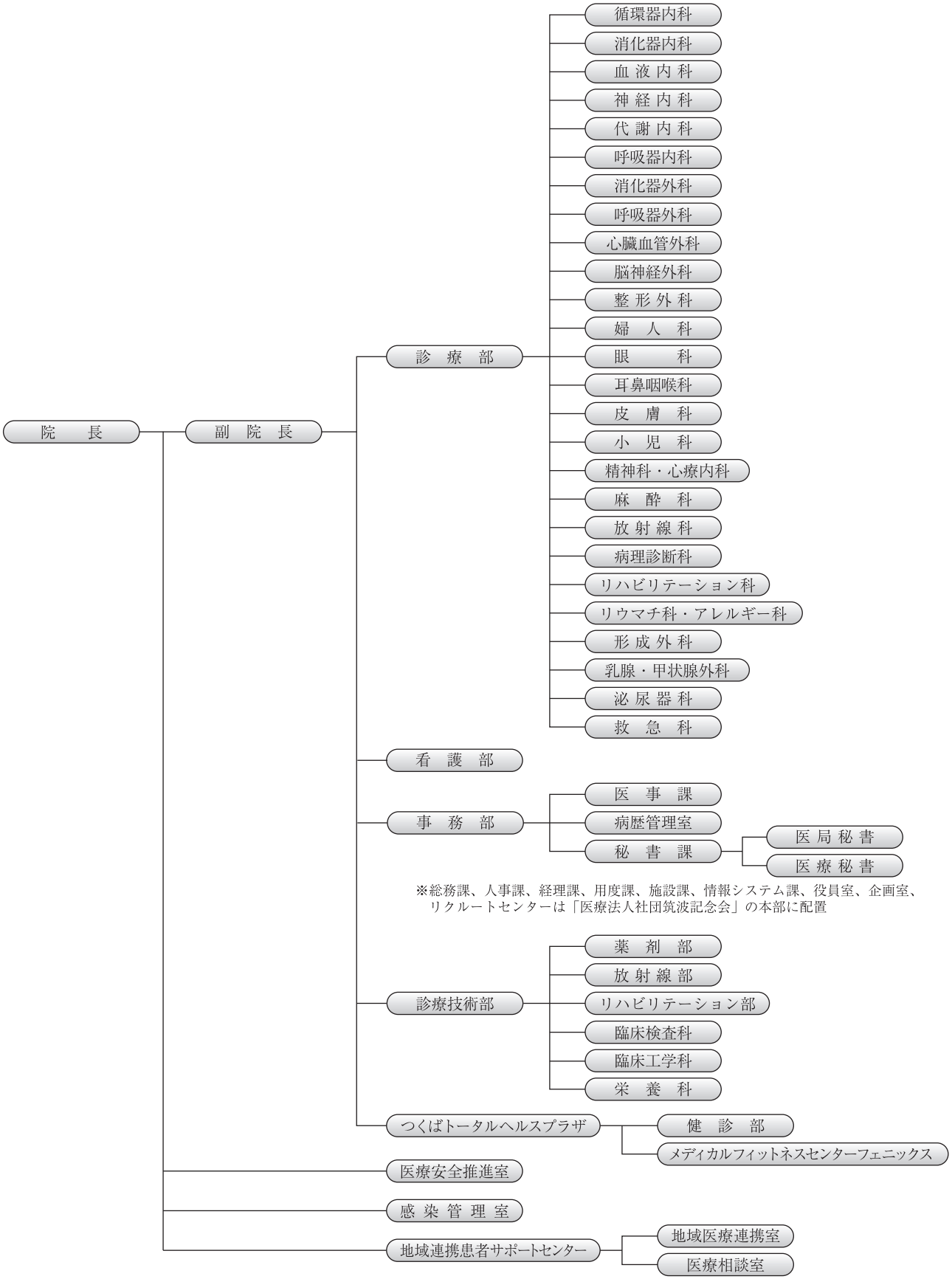
基　本　方　針

1．患者と社会に奉仕する
2．最新、最高の総合医療を提供する
3．患者の権利と意向を尊重する
4．地域の医療・保健・福祉に貢献する
5．地域社会での良好な職場環境を提供する

筑波記念会　組織図



筑波記念病院　組織図


院　長
副　院　長
診　療　部
循環器内科
消化器内科
血 液 内 科
神 経 内 科
代 謝 内 科
呼吸器内科
消化器外科
呼吸器外科
心臓血管外科
脳神経外科
整 形 外 科
婦　人　科
眼　　科
耳鼻咽喉科
皮　膚　科
小　児　科
精神科・心療内科
麻　酔　科
放 射 線 科
病理診断科
リハビリテーション科
リウマチ科・アレルギー科
形 成 外 科
乳腺・甲状腺外科
泌 尿 器 科
救　急　科
看　護　部
事　務　部
医　事　課
病歴管理室
秘　書　課
医 局 秘 書
医 療 秘 書
※総務課、人事課、経理課、用度課、施設課、情報システム課、役員室、企画室、
リクルートセンターは「医療法人社団筑波記念会」の本部に配置
診療技術部
薬　剤　部
放 射 線 部
リハビリテーション部
臨床検査科
臨床工学科
栄　養　科
つくばトータルヘルスプラザ
健　診　部
メディカルフィットネスセンターフェニックス
医療安全推進室
感 染 管 理 室
地域連携患者サポートセンター
地域医療連携室
医療相談室

沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	1	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院付属第一病院開設
1989	8	付属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟)」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上)）認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	7	「つくばクリニック（眼科)」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	4	臨床研修病院指定
	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：３）認定更新（ver.５）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	1	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：３）認定更新（ver.６）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工
2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構　認定基準（機能種別版評価項目３rdG:Ver.1.1）
		主たる機能：一般病院２　副機能：リハビリテーション病院
2017	1	DMAT 指定 医療機関指定

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

ベッド数　487 床　　一般病床：387 床（ICU 8 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）

療養病床（医療保険適用）：100 床（地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、アレルギー科、リウマチ科、血液内科、心療内科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

基準情報

地域医療支援病院	特定疾患（一般・小児）治療研究機関
ＤＰＣ対象病院	生活保護法第 49 条規定医療機関
日本医療機能評価機構認定 （主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）	難病医療協力病院
第二次救急指定病院	原子爆弾被爆者指定医療機関
臨床研修病院指定（基幹型）	自立支援医療機関（精神通院）
茨城県指定地域リハ・ステーション	医療機関検診実施指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関	DMAT 指定医療機関

日本医療機能評価機構 病院機能評価結果

訪問審査実施日　2016 年 7 月 26 日～ 7 月 27 日

■機能種類

機能種別版評価項目 3rdG : Ver.1.1

主たる機能種別「一般病院２」及び

副機能種別「リハビリテーション病院」の受審

■認定の種別

機能種別：一般病院２　　認定

機能種別：リハビリテーション病院（副）　認定

■改善要望事項

機能種別：一般病院２　　該当項目なし

機能種別：リハビリテーション病院（副）　該当項目なし

施設基準（基本診療料）

一般病棟入院基本料１（７対１）	医療安全対策加算１
療養病棟入院基本料２	感染防止対策加算１　地域連携加算
診療録管理体制加算２	患者サポート体制充実加算
医師事務作業補助体制加算２チ（100 対１）	総合評価加算
急性期看護補助体制加算３（50 対１）	病棟薬剤業務実施加算１
看護職員夜間配置加算１ロ（12 対１加算２）	データ提出加算２
地域加算２（２級地）	退院支援加算１
療養環境加算	特定集中治療室管理料３
療養病棟療養環境加算１	回復期リハビリテーション病棟入院料１
無菌治療室管理加算１	地域包括ケア病棟入院料２
栄養サポートチーム加算	

施設基準（特掲診療料）

がん性疼痛緩和指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
開放型病院共同指導料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
がん治療連携指導料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
薬剤管理指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
医療機器安全管理料１	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	補助人工心臓
持続血糖測定器加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
検体検査管理加算（Ⅰ），（Ⅱ）	頭蓋内腫瘤摘出術等
ヘッドアップティルト試験	肺悪性腫瘍手術等
画像診断管理加算１，２	経皮的カテーテル心筋焼灼術
ＣＴ撮影（64 列以上のマルチスライスＣＴ）	靭帯断裂形成手術等
ＭＲＩ撮影（３テスラ以上）	水頭症手術等
心臓ＭＲＩ撮影加算	肝切除術等
冠動脈ＣＴ撮影加算	食道切除再建術等
外来化学療法加算２	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術
無菌製剤処理料	人工関節置換術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設術
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算１
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	

諸指定

茨城県指定地域リハ・ステーション	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
茨城県広域スポーツセンター事業協力医療機関	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本整形外科学会専門医研修施設
日本血液学会認定血液研修施設	日本精神神経学会認定精神科専門医制度研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本消化器病学会認定専門医制度認定施設	日本乳癌学会関連施設
日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設	マンモグラフィー検診施設画像認定施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設	日本認知症学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設証	日本脳卒中学会認定専門医研修教育病院
日本内科学会認定教育関連病院	日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	日本脈管学会認定研修関連施設
植込型補助人工心臓実施施設	日本脈管学会認定研修指定施設
呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設	茨城県肝疾患専門医療機関
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設	血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本医療薬学会認定がん専門薬剤師研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本医療薬学会認定薬物療法専門薬剤師研修施設	日本消化管学会胃腸科指導施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	日本神経学会専門医准教育施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本内分泌学会認定教育施設
日本外科学会外科専門医制度関連施設	茨城県指定小児リハ・ステーション
日本呼吸器学会認定施設	茨城県指定訪問リハビリテーション・ステーション

筑波総合クリニック

院長：飯田　要

〒 300-2622　茨城県つくば市要 65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	厚生労働省指定運動療法施設
日本人間ドック学会認定優良二日ドック施設	日本総合健診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：小關　　迪

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
茨城県指定訪問リハ・老健ステーション
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	ターミナルケア加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	所定疾患施設療養費
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
短期集中リハビリテーション実施加算	認知症情報提供加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	入所前後訪問指導加算
栄養マネジメント加算	地域連携診療計画情報提供加算
療養食加算	退所前訪問指導加算
経口維持加算	退所後訪問指導加算
初期加算	退所時指導加算
口腔機能維持管理体制加算	退所時情報提供加算

外泊時費用	退所前連携加算
緊急時治療管理	老人訪問看護指示加算
在宅復帰・在宅療養支援機能加算	介護職員処遇改善加算（Ⅱ）

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	緊急短期入所受入加算
療養食加算	緊急時治療管理
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	認知症行動・心理症状緊急対応加算
夜勤職員配置加算	介護職員処遇改善加算（Ⅱ）

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
介護予防通所リハビリテーション費	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	社会参加支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅱ）

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算
介護予防訪問リハビリテーション費	社会参加支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
大久保歯科医院

診　療　部　門

循環器内科

【総括】

2016 年度の実績報告

2016 年度、循環器内科には、榎本強志（副院長・循環器内科部長）、井川昌幸（不整脈診療部長）、井藤葉子医師が在籍した。つくばハートセンターには、我妻賢司（つくばハートセンター・センター長）、新居秀郎（循環器内科診療科長・集中治療部科長）、内田靖人（循環器内科診療医長）が在籍した。筑波総合クリニックには、飯田要（同クリニック院長）、飯田啓治（同クリニック副院長）が在籍した。循環器内科は筑波大学附属病院循環器内科関連施設として、筑波大学と連携しつつ、不整脈、虚血性心疾患、心不全、心筋症の診療を行った。つくばハートセンターは虚血性心疾患、末梢動脈疾患を中心に診療を行った。循環器救急、特に虚血性心疾患の受け入れが 24 時間できる態勢をとった。新規患者の受け入れを強化するため、新たに、つちうらハートクリニックを開設して、管理者には、垣花昌明が就任し、4 月から診療を開始した。

虚血性心疾患部門では PCI 件数が 210 件と昨年度実績を若干、上回った。

不整脈部門の経皮的カテーテル焼灼術は 80 件と昨年度実績と同等であった。

しばらく休止していた心大血管リハビリテーションを再開した。

学会発表は海外の学会も含めて積極的に行えた。

2017 年度の課題・目標

近年、PCI を施行できる病院が増加したこと、薬剤溶出型ステントが改良されて再 PCI が減少したこと、虚血性心疾患患者の有病率は増加していないことから、近隣の病院はいずれも PCI 件数が伸び悩んでいる。当院も同様の傾向で、ここ数年は PCI 件数の大幅な増加を認めていない。今後も虚血性心疾患の新規発症患者の増加は見込めず、病院外来のみでの新規患者の獲得は困難な状況にあるため、地域支援病院の特性を生かして、協力診療所との関係をさらに強化して紹介患者を増やすこと、つちうらハートクリニックを活用することによって虚血性心疾患の新規患者の獲得を図りたい。

不整脈部門では、今後も筑波大学との連携を密にして紹介患者を獲得することは、勿論のこと、虚血性心疾患と同様に協力診療所からの紹介患者を増やす努力を行っていきたい。

学会発表は、今後も発表のレベルを維持しつつ、論文投稿も増加させたい。

［文責：榎本強志］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
小關　迪	会長・総院長	常（HP）
飯田　要	筑波総合クリニック管理者	常（HP）
飯田　啓治	筑波総合クリニック副院長	常（HP）
榎本　強志	副院長・循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター長	常（HP）
井川　昌幸	不整脈診療部長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内科診療科長・集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
井藤　葉子		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
垣花　昌明	つちうらハートクリニック管理者	常（HC）
青沼　和隆		非（HP）
宮内　卓		非（CL）
永井　直		非（HP）
林　孝典		非（HP）
芳賀　厚子		非（HP）
一戸　貴子		非（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	189
経皮的カテーテル心筋焼灼術	74
ペースメーカー移植術	32
経皮的冠動脈形成術	21
四肢の血管拡張術・血栓除去術	15
総手術件数	359

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
050050　狭心症、慢性虚血性心疾患	360	5.1
050130　心不全	145	23.4
050070　頻脈性不整脈	108	7.2
050030　急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	28	14.1
050210　徐脈性不整脈	27	12.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,774	2,716	2,803	2,606	2,796	2,633	2,667	2,546	2,792	2,763	2,592	2,897	32,585

消 化 器 内 科

【総括】

1．2016 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2016年度の当科入院のべ患者数は19,460であり、2015年度16,127と比して約20％増加した。なお外来受診者数は、前年度とほぼ同じ規模に留まった。

②内視鏡診療では、2015年に新規オープンした内視鏡室の運用が軌道に乗り、安定した検査・治療が遂行できた。2016年度も前年度同様大腸鏡内視鏡の検査件数は2000件超を維持し、上部消化管内視鏡検査では年間4000件を突破した（健診部門で施行した保険適応検査分を含む）。

③学会での発表数は、例年とほぼ同レベルであった。

④論文執筆では、添田敦子医師が「Prog.Dig.Endosc.」誌（日本消化器内視鏡学会関東支部オフィシャルジャーナル）へ症例報告を上梓し、池澤が薬剤起因性上部消化管粘膜傷害の診断と予防に関する総説を「胃と腸」へ投稿した。

⑤学会専門医関係では、岩井健太郎医師が「日本消化器病学会・専門医」を、小林真理子医師が「日本消化器内視鏡学会・専門医」「日本肝臓学会・専門医」を、越智大介医師が「日本内科学会・総合内科専門医」「日本消化器内視鏡学会・指導医」をそれぞれ取得した。池澤は「日本消化管学会・専門医」を取得し、「日本消化器内視鏡学会」および「日本ヘリコバクター学会」学会誌投稿論文の査読を担当した。

2．2017 年度の課題・目標

①来年度は、胃内視鏡4000件以上および大腸内視鏡2000件以上の維持を、第一目標とする。また、食道・胃・大腸など消化管悪性腫瘍に対するESDの年間100件達成、ERCP年間300件を目標に励んでいく。

②病-診連携・病-病連携を向上させ、紹介患者数年間1000例を目指し（2016年度：927例、2015年度：781例）、さらに多くの紹介が受け入れられるような体制への整備を図る。

［文責：池澤和人］

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
060020　胃の悪性腫瘍	130	17.4
060340　胆管（肝内外）結石、胆管炎	97	11.6
060102　穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	50	8.6
06007x　膵臓、脾臓の腫瘍	45	17.5
060140　胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	44	12.3
060300　肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	42	19.0
060035　結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	42	18.9
040080　肺炎等	38	17.8
060050　肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	37	18.3
060335　胆嚢水腫、胆嚢炎等	37	17.7

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
池澤　和人	副院長・消化器内科診療部長・内視鏡センター長	常（HP）
添田　敦子	消化器化学療法診療科長	常（HP）
大塚公一朗		常（HP）
越智　大介	消化器内科診療医長・内視鏡副センター長	常（HP）
小林真理子		常（HP）
岩井健太郎		常（HP）
池田　貴文		常（HP）
山浦　正道		常（HP）
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	常（HP）
設楽佐代子	消化器内科科長	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	常（HP）
白石　貴久		非（HP）
杉山　弘明		非（HP）
山本　祥之		非（HP）
山田　武史		非（CL）
山浦　正道		非（CL）
廣瀬　　優		非（CL）
山口　雄司		非（CL）
池田　貴文		非（CL）
中森　　容		非（HP）
福田由紀子		非（HP）
俣野　大介		非（HP）
田島　大樹		非（HP）

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡検査	総数	4036
	（経口）	3663
	（経鼻）	243
治療内視鏡	食道 ESD	6
	胃 ESD	49
	胃 EMR	6
	EVL	19
	止血術	39
	胃瘻造設・交換	11

下部消化管内視鏡検査	総数	2105
治療内視鏡	ESD	16
	EMR	697
	止血術	20

ERCP	総数	250
治療内視鏡	EST	67
（重複あり）	EPBD	29
	ステント留置	132
	砕石除去術	47

全内視鏡検査総数	6391

【手術件数】　※ ESD は除く

名　　称	件　数
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	697
内視鏡的胆道ステント留置術	132
内視鏡的乳頭切開術	67
内視鏡的消化管止血術	39
内視鏡的胆道結石除去術	23
内視鏡的膵管ステント留置術	13

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,902	1,913	2,100	1,941	2,106	2,062	2,011	1,924	2,092	2,119	2,097	2,205	24,472

血　液　内　科

【総括】

血液内科はスタッフも増えたこともあり入院・外来患者とも増加している。他院からの受け入れ要請に対してベッド状況が許す限りは受けるというスタンスをこれからも堅持する方針であり、かつ「総合内科」の区分から回ってくる患者もあるため、今後も患者数は増加するものと思われる。他の診療科も同様であるが、高齢患者比率が増しているため平均在院日数が伸びる方向への圧力となり、ベッドコントロールについては更なる努力が必要である。

患者数は増加しているが疾患構成においては大きな変化はなかった。今後も大きな変化は無いものと思われる。造血幹細胞移植は別紙のごとく2016年度は実施症例数が例年より多かった。日本造血細胞移植学会の移植認定施設を目指すためには今後も骨髄移植を含む毎年6例以上の同種移植が求められている。初期研修医教育に関しては別紙に示すように内科学会関東地方会で2例の学会報告を行い、内1例で学会奨励賞を受賞した。研修医の励みにもなるため、今後も質の高い学会報告を心掛けるつもりである。一方、血液専門領域では内輪の研究会レベルでの発表はあったが血液学会・造血細胞移植学会など主要学会での発表・論文執筆が無かったことは反省される。当院で研修した中から久しく血液内科入局者が出ていなかったが、2016年度は一名が筑波大学血液内科への医局入局を決め、喜ばしいことである。今後も当院の研修医からの入局者を生みだしたいと考えるところである。

2017年度の課題・目標

先に述べたようにまずは造血細胞移植認定施設維持を目標の第一とする。そのために骨髄移植を含む同種移植を6例以上実施することが必要であり、移植関連の論文執筆も求められている。スタッフも増えたこともあり、2017年度は学術的飛躍が期待される。

［文責：佐藤祐二］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長澤　俊郎	管理者・院長	常（HP）
佐藤　祐二	副院長・血液内科診療部長	常（HP）
長山　人三		常（HP）
鈴木　幸恵		常（HP）
田岡　謙一		常（HP）
福田　匡芳		常（HP）
小松　恒彦		非（HP）
小林　一彦		非（CL）
一色　雄裕		非（HP）
服部圭一朗		非（CL）
宮本　佳奈		非（CL）
小原　　直		非（HP）
鈴木　幸恵		非（HP）
坂本　竜弘		非（HP）
馬場　直子		非（HP）
福本　浩太		非（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
自己末梢血幹細胞移植	3
臍帯血移植	4
同種末梢血幹細胞移植	3
総手術件数	10

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
130030　非ホジキンリンパ腫	235	19.8
130060　骨髄異形成症候群	89	24.8
130040　多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	72	29.4
130010　急性白血病	51	38.6
040080　肺炎等	37	22.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
750	763	752	751	764	745	786	749	818	906	730	796	9,310

神　経　内　科

【総括】

1．病棟診療

前年度と同様に常勤医１人体制であり、回復期リハビリテーション病棟と長期療養病棟を主に担当し、てんかん、内科疾患に伴う神経系障害等の急性期病棟の入院は他科に担当していただき、神経内科で併診する形式を継続させていただいた。2016 年度の入院診療数と疾患内容は次のようになった。

神経内科入院患者数は６名、他科との併診患者数は 112 名であった。 疾患内容は内科疾患に伴う神経系障害（44％）、てんかん（12％）パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、認知症（２％）、脳炎・髄膜炎であった。

高度な専門的治療が必要な急性期神経内科疾患は、適切な診療体制の医療機関へ紹介した。

他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療連携室、リハビリテーション部と共に定期的に判定会議を行なった。

前年度に比べて主担当症例は数は減少したが、併診症例は、神経内科専門治療が必要な症例数が増加した。

2．外来診療

神経内科専門外来（年間 4760 人、月平均 396 人）では、神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、運動ニューロン疾患、認知症）、末梢神経障害てんかんを始めとする神経内科疾患全般を診療した。

3．学術、教育活動

第 57 回日本神経学会学術大会において２題発表し、これまでの発表を論文にした。 また、日本神経学会準教育施設として、コンサルテーションを通じて初期研修医の診療指導を随時行なった。

4．次年度へ向けて

総合病院の神経内科であり、神経疾患だけでなく他科疾患に伴う神経障害を含む全般的診療が必要とされる。現在の体制で、可能な限り高い専門性を維持するように努力する。

［文責：星野幸子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
星野　幸子	神経内科診療医長	常（HP）
白岩　伸子		非（CL）
寺田　　真		非（CL）
三宅　善嗣		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
010080　脳脊髄の感染を伴う炎症	2	52.0
010060　脳梗塞	1	757.0
010155　運動ニューロン疾患等	1	136.0
040080　肺炎等	1	159.0
110310　腎臓または尿路の感染症	1	6.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
386	413	382	416	449	432	410	386	382	382	357	365	4,760

代　謝　内　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①外来診療は、開業等の外来枠減少で前年度より受診者数は減少したが、入院患者受け入れ再開により、退院後も当院外来で継続的治療可能となった。糖尿病療養指導士の増加で、全曜日で看護相談を実施し、外来インスリン導入を始めより多くの糖尿病療養指導を行った。24時間持続血糖測定を在宅で行うCGM外来も受診患者数を伸ばし、のべ40症例を超えた。病診連携で他院通院患者にCGMを装着、検査結果を送付している。外来でインスリンポンプ療法の新規導入を実施し、より高度で専門的な診療を施行した。

②病棟診療は、常勤医増加で緊急入院可能となり入院業績は大幅に改善した。糖尿病教育入院の継続に加えて、糖尿病性ケトアシドーシス等の緊急入院、内分泌疾患の負荷試験の精査入院も実施し、放射線科の協力により副腎静脈サンプリングも施行可能となった。他科入院患者のコンサルテーションを受け併診として診断、治療方針の作成および治療効果の判定、評価を行い、退院後の外来診療への継続指導を行った。

③教育・研究は、初期研修医２名の受け入れを行い、診断、加療のための知識および実際の治療技術の指導を行なった。学会・専門医関係では、藤原淳医師が「日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医」を取得した。定例の糖尿病連絡会が糖尿病チーム医療連携会議となり、医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士に検査技師も加わり、症例検討や勉強会を行い、知識や意見を交換しより良い糖尿病診療を模索した。

2．2017 年度の課題・目標

①入院症例を増やすとともに、外来予約患者枠がどの曜日もほぼ満員であるため、外来担当医の増員があれば外来枠の増加を検討する。

②初期研修医の指導の受け入れを増やし、教育基幹病院としての役割を果たす一助とする。また症例報告および研究業績の発表の増加に努める。

［文責：藤田利枝］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
藤田　利枝	代謝内科診療部長	常（HP）
藤原　　淳	代謝内科診療医長	常（HP）
片山　暁子		常（HP）
清水　郁子		常（HP）
山下亀次郎		非（CL）
松島　照彦		非（CL）
竹越　一博		非（CL）
千勝　典子		非（CL）
石垣　直美		非（CL）
松田ひとみ		非（CL）
岡田　純代		非（HP）

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
100070　２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	46	14.2
100040　糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	11	16.6
080011　急性膿皮症	5	16.2
100180　副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	5	5.2
100210　低血糖症	5	6.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,115	1,031	1,218	1,160	1,066	1,131	1,055	1,014	1,114	1,047	1,069	1,131	13,151

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

呼吸器内科は、2015 年 4 月から常勤医師による入院診療を開始し、2016 年度は 2 年目となった。肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、間質性肺炎などの入院および外来診療を行った。本年度は、石川宏明医師（2016 年 4 月 1 日～ 9 月 30 日）、北澤晴奈医師（2016 年 10 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日）、渡邉裕子医師、折居美波医師、大塚盛男が常勤医師として、松野洋輔医師が筑波大学呼吸器内科からの非常勤医師として勤務した。入院患者数は年間延べ 299 名で、昨年度に比較し 76 名増加した。病院・クリニックの外来受診者は 5,596 名で、昨年度より 419 名増加した。

気管支内視鏡検査や胸腔鏡検査は呼吸器外科医師の協力を得て行った。気管支内視鏡検査は 24 件、胸腔鏡検査は 4 件であった。

学会活動としては、日本内科学会第 627 回関東地方会および第 57 回日本肺癌学会学術集会で発表を行った。

学会専門医関係では、石川宏明医師、北澤晴奈医師、渡邉裕子医師が「日本呼吸器学会・専門医」を、折居美波医師が「日本内科学会・総合内科専門医」を、それぞれ取得した。また、当院が「日本呼吸器学会・認定施設」として認められ、呼吸器疾患に対するより専門的な医療提供や専門医資格取得を目指す若手医師の教育支援に対する体制が整った。

2．2017 年度の課題・目標

2016 年度も当直可能な医師数は 2015 年度と同じ 1 名であり、増加した入院患者に対応するにはマンパワー不足であったため、2015 年度と同様に誤嚥性肺炎等の患者について当該診療科にご協力を頂く場合もあった。2017 年度は当直可能な常勤医師が 2 名となり、「日本呼吸器学会・認定施設」となったが、現在のマンパワーでは実施できる医療内容に限度があるため、最適な医療が提供できるよう筑波大学附属病院や筑波メディカルセンター病院等の呼吸器内科とより連携を強めて行く予定である。

［文責：大塚盛男］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大塚　盛男	呼吸器センター長	常（HP）
折居　美波		常（HP）
渡邉　裕子		常（HP）
石川　宏明		常（HP）
北澤　晴奈		常（HP）
松野　洋輔		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	症例数	平均在院日数
040080　肺炎等	74	14.7
040040　肺の悪性腫瘍	43	14.7
040081　誤嚥性肺炎	26	23.6
040100　喘息	20	11.1
040110　間質性肺炎	13	29.5

【外来件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
457	401	509	483	472	510	470	465	487	449	441	452	5,596

消　化　器　外　科

【総括】

1．概要

地域のニーズに幅広く応えるべく、救急を含めた腹部消化器疾患に対する外科手術を担当している。消化管穿孔（胃・十二指腸・小腸・大腸）、急性虫垂炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓（鼠径／大腿／閉鎖孔など）、外傷による腹腔内臓器損傷などに対しては緊急手術にて対応し、悪性疾患（胃癌・大腸癌・肝臓癌・胆道癌など）や良性疾患である胆石症、ヘルニアなどに対しては待機的な予定手術にて対応している。

2．診療方針

地域から信頼される外科診療の確立を基本方針としており、幸い直接受診される患者さんに加え、近隣の開業医の先生方から多くの紹介を頂いている。

また、院内の消化器内科・放射線科などの各科との密な連携を図り、手術治療のみならず、患者さんの病状に即した幅広い治療の選択を心掛けている。

3．外来診療

1年間の延べ外来患者総数は、概ね例年通り推移している。

4．手術件数

近年、早期の胃癌・大腸癌に対する内視鏡的治療が確実に進歩していることから、この領域において手術適応となる件数は減少傾向にあり、特に胃癌症例において顕著であった。

1年間の手術総数は426件であり、救急を含めた紹介による手術症例数が確保されている。

5．学術活動

数編の論文発表を予定している。

6．次年度に向けて

標準手術を確実に施行することを継続すると共に、腹腔鏡下手術については、安全性に充分な配慮を置きつつ、適応を拡大している。

［文責：坂本俊樹］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
齋藤　　節	大腸外科センター長	常（HP）
坂本　俊樹	副院長	常（HP）
松井　　聡	消化器外科診療部長・副医局長	常（HP）
佐々木量矢	消化器外科診療医長	常（HP）
井関　陽平		常（HP）
小田　竜也		非（HP）
下田　　貢		非（CL）

【手術件数】

分　　類	件　数
胃切除術（悪性腫瘍手術）	24
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	39
直腸切除（悪性腫瘍手術）	18
肝切除（悪性腫瘍手術）	2
腹腔鏡下胆嚢摘出	48
胆嚢摘出術	32
虫垂切除術	36
ヘルニア手術（鼠径、大腿など）	90
その他の手術を含めた総数	426

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
060020　胃の悪性腫瘍	69	19.9
060035　結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	111	12.6
060040　直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	80	13.5
060050　肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	12	13.5
060060　胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	11	13.6
060330　胆嚢疾患（胆嚢結石など）	10	10.1
060335　胆嚢水腫、胆嚢炎等	57	15.9
060102　穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	16	10.6
060150　虫垂炎	51	9.5
060160　鼠径ヘルニア	83	5.4
060210　ヘルニアの記載のない腸閉塞	51	19.1

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
913	848	968	961	938	880	903	809	903	790	852	863	10,628

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．実績報告

2016 年度の呼吸器外科総手術件数は 70 件で昨年度の 70 件と同数であった。うち原発性肺癌の件数が 15 件と昨年度より減少したが、代わりに転移性肺腫瘍や自然気胸、前縦隔腫瘍の手術件数が多かった。気管支鏡検査件数も 41 件と昨年度とほぼ横ばいであった。

学会発表は総会 1 件、地方会・研究会 2 件であった。

2．次年度目標

ここ数年、病院常勤医師は神山、木村の二人体制（+ 外科ローテートの研修医）で診療している。他科と比較して医師数は少ないがキャパシティにはまだ余裕があるつもりでいる。この数年横ばい状態の手術件数を少しでも増加させられるように努力してゆきたい。

［文責：木村正樹］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
神山　幸一	副院長・医局長・手術室室長	常（HP）
木村　正樹	呼吸器外科診療部長	常（HP）
川島　光明		非（HP）
高橋　剛史		非（HP）
佐伯　祐典		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
原発性肺癌	15
転移性肺腫瘍	5
自然気胸・嚢胞性肺疾患	18
前縦隔腫瘍	4
膿胸	4
胸膜腫瘍	3
気管切開術	1
縦隔リンパ節生検	2
体表リンパ節生検	7
皮下腫瘍	4
中心静脈ポート植え込み	3
乳癌	4
総手術件数	70

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
040040　肺の悪性腫瘍	89	12.7
040200　気胸	24	8.5
040080　肺炎など	21	16.6
090010　乳房の悪性腫瘍	9	15.4
160400　胸郭・横隔膜損傷	9	15.2
160450　肺・胸部気管・気管支損傷	8	17
040150　肺・縦隔の感染、膿瘍形成	5	21.4
040020　縦隔の良性腫瘍	4	9.5
040050　胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	2	15.5
040010　縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	1	11
040190　胸水、胸膜の疾患（その他）	1	20

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
403	367	460	442	404	415	439	427	409	357	365	405	4,893

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2016年度の手術患者数は昨年と比較して飛躍的に増加し、茨城県内トップクラスを維持している。

②無駄のない正確かつスピーディーな低侵襲手術および最先端の心筋保護法の導入、INVOS、術中リアルタイム三次元経食道エコーの導入、心臓血管外科コーディネーターの導入、心臓リハビリテーションの積極介入など様々な新しい取り組みを行っている。また、手術の低侵襲化に関しても積極的に取り組んでおり、患者の年齢、状態に応じたベストな治療を選択するようにしている。

③学会活動としては全国学会をはじめ多くの学会にて報告、発表を行っている。

④論文執筆では、8編の論文が掲載された。学術活動を含めた、修練医および学生の指導を積極的に行っている。

2．2017 年度の課題・目標

今後も 24 時間 365 日迅速に対応する体制を維持し、循環器内科とともに北関東の心臓血管外科治療の拠点として地域の患者様に貢献していけるように診療を継続していく。

［文責：吉本明浩］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
末松　義弘	統括診療部長・心臓血管外科診療部長	常（HP）
森住　誠	心臓血管外科診療科長・集中治療部科長	常（HP）
藤﨑　正之		常（HP）
吉本　明浩	心臓血管外科診療医長	常（HP）
西　智史		常（HP）
井上　堯文		常（HP）
星　葵		常（HP）
髙木　理央		常（HP）
内藤　敬嗣		非（HP）
岡村　賢一		非（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
下肢静脈瘤手術	164
大動脈瘤切除	22
弁置換・形成術	23
ステントグラフト内挿術	57
心房内血栓除去術	22
冠動脈、大動脈バイパス移植	29
総手術件数	423

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
050180　静脈・リンパ管疾患	159	2.9
050050　狭心症、慢性虚血性心疾患	68	9.7
050163　非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	61	11.9
050080　弁膜症（連合弁膜症を含む。）	54	13.0
050070　頻脈性不整脈	52	5.9
050161　解離性大動脈瘤	48	20.5
050170　閉塞性動脈疾患	23	10.91304348
050130　心不全	13	11.76923077
050210　徐脈性不整脈	8	4.25
050030　急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	5	24.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
395	307	484	466	445	424	399	383	436	389	385	467	4,980

脳　神　経　外　科

【総括】

平成 28 年は異動がなく、渡部、中村、谷中の３人体制が継続した。リハビリテーション専門医が常勤となり、回復期に移行する患者さんはリハビリテーション科と併診になるため、常時 80 人を超えていた入院患者は 50 人程度となり、急性期治療に集中できる体制ができつつある。手術件数は昨年の 141 件より 164 件に増加した。手術は、血管障害の手術を中心に、脳腫瘍や外傷、脊椎、微小血管減圧術まで、専門性の高い悪性脳腫瘍と脳下垂体、小児脳神経以外のほぼ全種類の手術が可能である。特に、脳動脈瘤に対するクリッピング術や頚動脈内膜剥離術（CEA）、血管吻合（バイパス）術の質と件数は、かなり高いレベルにあると自負している。平成 29 年１月からは血管撮影装置を PHILIPS 社製の Allura Clarity に更新した。筑波大学と連携し、脳血管内治療の症例も増やしていきたい。

手術件数と研修体制の整備に伴い、平成 29 年４月からは後期研修医のローテートも決まり、３人体制から４人体制になった。今後も各研修医の年数や技量に応じて、血管外科を中心に、脳卒中診療や手術、脳血管造影の他、論文作成や学会発表等の学術活動のサポートを継続していく。引き続き、筑波大学附属病院や筑波メディカルセンター病院と連携し、つくば市と周辺地域の脳卒中診療に寄与できるよう取り組む。

［文責：中村和弘］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	常（HP）
谷中　清之	脳卒中センター長	常（HP）
中村　和弘	脳神経外科診療部長	常（HP）
渡部　大輔		常（HP）
三原　忠紘		非（CL）
鯨岡　裕司		非（HP）
佐藤　博明		非（CL）
滝川　知司		非（CL）

【手術件数】

分　　類	2015年度	2016年度
脳腫瘍	9	7
脳血管障害	52	51
血管内手術	18	22
外傷	37	58
奇形	1	0
水頭症	13	13
脊髄・脊椎	6	4
機能的手術	3	7
その他	2	6
合計	141	164

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
010060　脳梗塞	174	24.9
010050　非外傷性硬膜下血腫	46	15.0
010040　非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	38	24.2
010030　未破裂脳動脈瘤	37	9.6
160100　頭蓋・頭蓋内損傷	32	22.3
010070　脳血管障害	31	11.4
010230　てんかん	17	17.2
010061　一過性脳虚血発作	14	4.9
010020　くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	13	48.2
010010　脳腫瘍	9	15.8

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,715	1,579	1,693	1,691	1,701	1,484	1,676	1,480	1,630	1,537	1,536	1,761	19,483

整　形　外　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

入院患者数・筑波総合クリニックでの外来患者数は、2015 年度と比較してともに増加した。

筑波総合クリニックからの待機手術・外傷等の緊急手術は毎月安定して行えているが、回復期及び療養病棟30床を維持した上で、急性期病棟52床の利用率を90%以上で維持するのはなかなか大変である。これまで同様に、入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多く、平均在院日数を減少させるのにも苦労している。

筑波総合クリニックでの外来は昨年度から予約制としたが、夜間・休日に救急外来を受診された患者・紹介患者・他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応している。このためか患者数は減少せず、むしろ増加した。

手術に関しては、これまで同様に筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に 2・3 日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、兵頭・長谷川と股関節・膝関節を専門とする常勤医が赴任したこともあり、人工股関節全置換術（人工骨頭置換術を含む）が 170 件 / 年（昨年度 147 件）・人工膝関節全置換術が 85 件 / 年（昨年度 71 件）・膝関節の鏡視下手術が 97 件 / 年（昨年度 79 件）と、引き続き県内トップレベルの件数を達成した。脊椎手術は、110 件 / 年（昨年度 145 件）と減少した。県内の他施設では行われていない脊椎矯正固定術等の長時間手術が増加したことで、脊椎を専門とする医師が相野谷・箱岩のみではこれ以上増やすことは難しい状態である。

2．2017 年度の課題・目標

回復期及び療養病棟 30 床を維持した上で、急性期病棟 52 床の平均利用率を 85% 以上（可能なら 90% 以上）で維持する。

関節の手術は、2016 年度同様に県内トップレベルの件数を維持する。

脊椎に関しては、脊椎専門医を志す医師が赴任したこともあり、脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数を増やす努力をする。

手術が必要な患者を紹介していただけるように、開業医の先生方に信頼していただけるような医療をしていきたい。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相野谷武士	整形外科診療部長	常（HP）
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常（HP）
兵頭康次郎		常（HP）
長谷川隆司		常（HP）
山本　晴楽		常（HP）
桂　　健生		常（HP）
向井　直樹		非（CL）
三島　　初		非（CL）
金森　章浩		非（CL）
和田　大志		非（CL）
谷口　　悠		非（HP）

【手術件数】

分　　類	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭も含む）	170
脊椎（頸椎、胸椎、腰椎）手術	110
四肢骨折接合術	94
膝関節鏡視下手術	87
人工膝関節置換術	85
	772

【科別 MDC 件数】

MDC	入院件数	平均在院日数
07040x　股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	141	24.9
160620　肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	119	11.2
070230　膝関節症（変形性を含む。）	93	27.9
160800　股関節大腿近位骨折	92	29.4
070343　脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　腰部骨盤、不安定椎	49	25.9
160690　胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	47	21.6
070341　脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　頸部	29	22.2
160850　足関節・足部の骨折、脱臼	21	15.0
070350　椎間板変性、ヘルニア	20	18.1
160700　鎖骨骨折、肩甲骨骨折	17	10.1

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,300	2,328	2,553	2,289	2,499	2,523	2,371	2,204	2,490	2,271	2,230	2,614	28,672

婦　人　科

【総括】

外来に関しては、前年度一時増設した外来枠に若干の縮小があった影響を懸念したが、受診者数自体はほぼ前年度同等だった。人員的に当日受診希望者を無制限に受けるのは難しいため、トリアージを図り、緊急性があるケース以外は外来枠を融通して、なるべく近日で予約を入れるなどして原則予約制としているが、診察日の２週間程度前の時点で医師専用枠に余裕がある場合は随時オープン枠に切り替えて、なるべく無駄なく枠が埋まるよう配慮している。

手術件数に関しては前年度より増加したが、元々、原因ははっきりしないが前年度のみ例年より手術件数が少なかったため、今年度増加に転じたというよりは例年並みに復したものと考えている。外来及び入院の診療体制に当面変更予定はなく、また外来受診者の中から手術適応となるケースの割合自体は大きな変化はないと思われるため、外来受診者数自体に大きな変化がなければ、手術件数も当面は同水準で推移するものと考えている。またそれを維持できるよう外来診療にあたりたいと考えている。

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常（HP）
小關　　剛	副院長	常（HP）
小松あかね	婦人科科長	常（HP）
小貫麻美子		非（HP）
中村　優子		非（HP）

【手術件数】

分　　類	件　数
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）　開腹によるもの	35
子宮全摘術	32
子宮頸部（腟部）切除術	16
子宮筋腫摘出（核出）術　腹式	5
子宮脱手術　腟壁形成手術及び子宮全摘術（腟式、腹式）	2
バルトリン腺嚢胞腫瘍摘出術（造袋術を含む。）	1
総手術件数	91

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
120060　子宮の良性腫瘍	31	8
120070　卵巣の良性腫瘍	20	8
12002x　子宮頸・体部の悪性腫瘍	16	2
120110　子宮・子宮附属器の炎症性疾患	5	17
120090　生殖器脱出症	2	10

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
830	709	904	827	788	845	885	842	818	775	738	884	9,845

眼　　科

【総括】

① 2016 年度の実績報告

1．クリニック外来に関して

外来総患者数は昨年度とほぼ同数であった。地域医療連携病院として、近隣の先生方から数多くの患者を紹介していただけるようになってきている。

また、昨年立ち上げた小児眼科・斜視専門外来にも県内外から多くの患者を紹介していただいており、認知度が上がっていると思われる。

2．手術に関して

総手術件数は昨年度並であった。最近では瞼の手術件数が増加している。

白内障手術など、高齢患者の局所麻酔手術では術中不穏になる例が時々見受けられる。その場合でも、麻酔医と連携し術中鎮静をかけて局所麻酔で無事手術を終了している。

② 2017 年度の課題・目標

臨床では、中長期計画に掲げている白内障手術の多焦点眼内レンズの導入に向けて準備を行う。具体的には光学式眼軸帳測定器の機種を決定する。小児領域では、スポット ビジョンスクリーナーを導入し生後 6 か月の乳幼児から大人まで、遠方から 1 秒で屈折異常が検出できる機械を導入予定である。

研究では、放射線科との連携をもとに 3DMRI での強度近視に伴う斜視患者の外眼筋の評価を引き続き行っていく予定である。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
佐藤　由香		常（HP）
長井　恭子	眼科診療科長	常（CL）
本村　幸子		非（CL）
品川　樹美		非（CL）
坂田　千穂		非（HP）
森　悠大		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
水晶体再建術	239
斜視手術	141
眼瞼内反症手術	27
眼瞼下垂症手術	25
翼状片手術	8
角膜・強膜縫合術	4
内眥形成術	2
結膜肉芽腫摘除術	2
先天性鼻涙管閉塞開放術	1
結膜縫合術	1
総手術件数	450

【科別 MDC 件数】

MDC	症　例　数	平均在院日数
020150　斜視（外傷性・癒着性を除く。）	137	2.1
020110　白内障、水晶体の疾患	99	4.2
020320　眼瞼、涙器、眼窩の疾患	8	2.3
140100　眼の先天異常	7	2.0
020250　結膜の障害	4	2.8
020230　眼瞼下垂	3	2.7
02006x　眼の良性腫瘍	1	3.0
020290　涙器の疾患	1	2.0
020380　眼球運動障害	1	2.0
060035　結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	1	4
180040　手術・処置等の合併症	1	1

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,213	1,064	1,413	1,213	1,013	1,313	1,226	1,187	1,221	1,133	1,137	1,302	14,435

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．病棟診療

2016 年度の入院患者数（転科加療を含む）は 219 例、入院手術症例は 106 例であった。2015 年度はそれぞれ 191 例、115 例であったので入院患者数は 14.7％増加、入院手術症例は 7.8％減少である。めまい・突発性難聴・顔面神経麻痺などの神経耳科疾患の入院が増えた一方で手術症例が減少しており、2017 年度の課題と考える。

これらの平均在院日数は 6.6 日であり、前年度の 6.2 日と比して増加を認めた。当科は他院耳鼻咽喉科にて頭頸部癌治療を受けた後の嚥下リハビリテーション目的の転院などを受けており、そういった長期入院の影響もあると考えられた。

2．外来診療

筑波総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は 12109 例と前年度の 11863 例と比して約 2％の増加であった。

外来手術症例数は 101 例（前年度 106 例）であった。入院手術件数・外来手術件数とも減少傾向にあり、2017 年度は件数を増やせるように努力していきたい。

3．2017 年度に向けて

2016 年度は入院患者数を増やすことが出来た。2017 年度は引き続き積極的に入院症例に対応しながら、入院手術症例を増やしていきたい。

外来診療では常勤医 2 名で対応できる症例数に限りがあり、外来診療待ち時間も長くなってしまっている状態である。総合病院での加療の必要がなく開業医対応で治療可能な症例は積極的に逆紹介を行い、その分、当院での加療が必要な症例にはきめ細やかな対応を行っていきたい。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常（HP）
中森　暁子		常（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
口蓋扁桃手術	25
鼻・副鼻腔手術	19
扁桃周囲膿瘍切開術	7
喉頭腫瘍摘出術	6
声帯ポリープ切除術	3
総手術件数	91

【科別 MDC 件数】

MDC	症例数	平均在院日数
030400　前庭機能障害	51	5.5
030240　扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	43	6.4
030428　突発性難聴	11	7.0
030150　耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	10	9.2
030350　慢性副鼻腔炎	9	6.3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
995	953	1,156	973	966	977	1,048	996	1,018	817	1,011	1,199	12,109

皮　膚　科

【総括】

1．診療内容

筑波総合クリニックで一般皮膚科外来診療をおこなうとともに、筑波記念病院入院中の患者の皮膚トラブルに関するコンサルテーションを診療各科から受けている。火曜日午後には待機的手術をおこなっている。また、水曜日を除く月曜日から金曜日の午後には美容皮膚科の診療をおこなっている。さらに、院内に設置された褥瘡対策委員会の活動を通して、入院患者の褥瘡リスク評価、予防および治療に携わっている。

2．診療実績

年間 6,473 件の一般皮膚科外来診察（外来臨時手術を含む）と、29 件の待機的手術を施行した。また、年間 162 件の美容皮膚科診療（自由診療）をおこなった。

3．診療科の特色

今日の長寿社会においては、皮膚癌の予防と早期発見の必要性が増している。そこで、当科の外来診療では患者本人や家族が気にしている「ほくろ」や「できもの」の診断と治療に力を入れている。また、2015 年 12 月には美容皮膚科外来を開設し、皮膚の老化や癌化を予防するお手伝いをしている。2016 年度からは美容皮膚科外来の治療メニューを拡充して、より多くの方に肌の健康と若返りの機会を提供している。

［文責：照沼　篤］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
照沼　篤	皮膚科診療部長	常（HP）
住大　京香		非（CL）
石井亜希子		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	29

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
507	492	584	542	615	580	595	523	528	513	480	514	6,473

小　児　科

【総括】

現在、小児科診療の主な活動として、一般小児科外来を筑波総合クリニックで行っている。主な診療領域として、小児感染症、アレルギー疾患（気管支喘息等）、小児神経疾患（てんかん等：専門外来）、予防接種（専門外来）、発達障害などがあげられる。下に掲げた外来患者数には、筑波総合クリニックにおける一般外来診療受診数と筑波記念病院における外来リハビリテーション受診数が含まれている。

少子化の進行のなか、小児医療周辺の環境が大きく変化している。予防接種の普及や、衛生環境の改善などに伴い、従来、小児科外来診療の主座を占めてきた感染症による受診が大きく減少した。代わって小児診療の主な対象となる疾患として、喘息や食物アレルギーなどのアレルギー性疾患と、発達障害に関連する病態が大きなウエイトを占めてきている。

当院は、リハビリテーションを担当するスタッフが多数在籍しており、全国的に見ても最大規模のリハビリテーション体制を持っている。この利点を生かして、発達障害児の外来リハビリテーションを数多く行っている。最近では、１ヶ月の外来リハビリテーション受診延べ人数が６００人を超えることもある状況である。発達障害児の発達を促す作業療法や、言語発達遅滞のある子どもたちに対する言語聴覚療法などについて、当院以外では、小児のリハビリテーションを担当できるスタッフが不足しており、実施出来ない施設が多く、当院への小児リハビリテーションの依頼がたいへん多くなっている。

小児リハビリテーション活動の一環として、医療・教育・福祉行政の代表が参加する「茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会」の事務局が当院リハビリテーション部内におかれ、小児科の右田がこの会の代表世話人を務めている。

対外業務として、右田は茨城小児科学会理事、茨城県小児科医会理事などの業務も行っている。

２０１４年１０月に岩松雅子医師が着任し、常勤医２名体制となった。岩松医師は、一般小児科外来診療とともに、小児リハビリテーションを担当し、専門性を生かした診療を行っている。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	副院長・小児科診療部長	常（HP）
岩松　雅子		常（HP）
堀米　ゆみ		非（CL）
竹田　一則		非（CL）
宮川惠美子		非（CL）
野中美喜子		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
704	637	729	756	838	775	855	864	850	786	814	912	9,520

精　神　科

【総括】

精神科は、2014年4月よりリハビリテーション部門は廃止となっており、記念病院外来と総合クリニックでの外来の診療部門のみの体制となっている。常勤医師2名と非常勤医師1名（月1～2回、土曜日半日、再診のみの診療）のスタッフで、病院では再診患者は週6日、他院からの紹介状持参の初診患者は毎週月曜日午後に常勤医師2名で診療を行い、また専門外来として山里医師が高次脳機能外来を週に1日午後に担当している。筑波総合クリニックでは､紹介状のない初診患者を週に2～3日午後に沼倉医師が担当している。他につくばケアセンター（老人保健施設）で月1回沼倉医師が、認知症の利用者を対象に精神科コンサルテーションを行っている。

業務実績としては、病院の初診・紹介外来患者数はそれぞれ115名・164名と前年度に比べ約1割の増加、再診の外来患者数は、延べ7160名と前年度に比べ約1割の増加、筑波総合クリニックの初診患者数は、172名と前年度に比べ約1割の減少であった。高次脳機能外来は、初診・再診患者数は、15名・48名と前年度とほぼ同様であった、他科からの依頼の精神科コンサルタントは101名と前年度に比べ約2割の増加、沼倉医師が担当しているつくばケアセンター（老人保健施設）利用者の診察は、22名であった。他に、山里医師が筑波総合クリニックで物忘れ診療外来の診療を週1日午後に担当している。教育・研究では、2016年8月に2年目の臨床研修医を、地域医療分野として精神科臨床を沼倉医師が1ヶ月間指導した、また、沼倉医師が中心となり、最新の精神科診断マニュアルであるDSM-5（英語版）の輪読会を他科の医師2名、臨床心理士1～2名で週2回行っている。

2016年度の目標として、一例一例に丁寧に向き合い当科への地域からの信頼をより高めるとしたが、今年度より訪問看護部門との協力関係が始まり、症例数を少しずつ増やしている。臨床心理士の仕事は、物忘れ診療外来からの依頼の心理検査が主となってきており精神科からの検査依頼は減少しており協力体制は弱まってきている、精神保健福祉士との連携は余りない、今年度の外来患者総数及び他科からの精神科コンサルタントの依頼は増加してきており、チーム医療の構築は今後の課題だが、総合病院の無床精神科としての役割の更なる発展が次年度の目標となる。なお、2017年7月に山里医師が退職することが決まっており診療体制の縮小は必須となる。

［文責：沼倉泰二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
沼倉　泰二		常（HP）
山里　道彦	精神科診療科長	常（HP）
佐藤　晋爾		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	15	15	7	7	12	12	10	6	9	10	6	6	115
紹介	20	21	12	14	15	15	14	8	14	14	8	9	164
再診	642	543	633	627	614	614	611	576	614	565	501	620	7,160

【外来患者数（高次脳機能外来：山里医師担当】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	3	1	2	0	1	3	1	0	0	3	1	0	15
再診	3	3	5	4	6	2	5	4	4	3	5	4	48

【外来患者数（筑波総合クリニック：沼倉医師　紹介状不要】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新患	12	15	17	19	18	11	16	13	9	11	13	18	172

【精神科コンサルテーション（他科依頼）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神科コンサルト	9	10	10	8	9	6	7	3	9	8	8	14	101

【つくばケアセンター精神科コンサルテーション：沼倉医師】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神科コンサルト	2	3	1	3	2	1	2	1	2	1	3	1	22

麻　酔　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

①常勤医３名と、非常勤医２名、筑波大学からの非常勤で手術麻酔を行ってきた。24時間、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

麻酔管理実績：心臓外科手術をはじめとしたすべての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。前年度より全手術件数で167件、全身麻酔件数で 115件増加した（詳細は別項参照）。

集中治療管理：集中治療室の管理運営に関与している。

③外来診療

麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に、予定手術患者を対象に行っており、全身麻酔症例の33.5 %であった（症例数は別項参照）。また高リスク患者のコンサルトも兼ねている。

ペインクリニック外来：入院中の患者と退院後の患者に限り、診察やブロック注射を行っている。

④術後鎮痛

硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行っている。全身麻酔の危険性が高い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。

⑤自己評価

全ての麻酔科管理を安全に実施できた。麻酔科術前外来により術前管理を向上させ、手術室での安全で質の高い麻酔を提供することに貢献した。集中治療室の管理運営に貢献した。

2．2017 年度の課題と目標

①周術期の安全性を再確認し、確実な麻酔管理を行う。よりよい術後鎮痛を提供できるよう様々な方法を追求する。

②麻酔科術前外来の利用率の向上を図るとともに、各科の協力を得ながら効率の良い手術室運営を目指す。

③重症患者に対して、先進的な医療も行う。

④全身麻酔症例や重症症例が増加しており、継続的な麻酔科医の増員を目指す。

⑤定期的なペインクリニック外来の開設を目指す。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
田島　啓一	副院長・麻酔科診療部長	常（HP）
髙瀬　　肇	麻酔科診療科長	常（HP）
箱岩　沙織		常（HP）
高橋　　宏		非（HP）
石丸美都彦		非（HP）

【麻酔科外来件数 2016】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
54	37	46	35	58	55	45	37	32	36	41	51	527

【麻酔管理料件数 2016】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
84	65	88	94	94	75	85	84	92	94	94	107	1,056

【麻酔手技内訳（ＯＲ分）】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
全身麻酔	2015 年度	116	94	128	130	128	105	111	121	131	129	130	134	1,457
	2016 年度	141	128	129	110	126	128	145	142	130	118	123	152	1,572
腰椎麻酔	2015 年度	5	11	6	4	5	3	3	6	5	2	2	5	57
	2016 年度	2	4	5	2	4	3	1	0	4	0	4	2	31
その他	2015 年度	27	24	27	22	14	21	32	27	32	33	29	47	335
	2016 年度	22	35	38	39	31	33	32	29	38	32	47	37	413
総手術件数	2015 年度	148	129	161	156	147	129	146	154	168	164	161	186	1,849
	2016 年度	165	167	172	151	161	164	178	171	172	150	174	191	2,016

放　射　線　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

2016 年度は常勤の放射線診断専門医 3 名、非常勤診断専門医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は昨年の 14,484 件から 16,611 件と増加、専門医による年間の読影率は 98.5% と昨年度より若干低下した。翌日までの読影レポート完成率は 90% でありこちらも低下しているが目標である 90% を保つことができた。地域連携関連病院・医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は、2015 年度 367 件、今年度は 456 件と 1 か月あたり 7 例ほど増加した。

初期研修医 4 名がそれぞれ 2 ～ 3 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT、MRI の読影を中心に、各研修医の進路の希望に基づいて、超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。11 月 24 日の地域連携公開講座では「乳がん検診の現状と動向」について、鯨岡と技師の吉原が講演を行った。

2．2017 年度の課題・目標

検査数の増加に伴う読影率、レポート完成率の低下に対し、休日の検査の読影体制を見直しを行い、翌診療日までの読影レポート完成率を保てるようにする。地域連携病院の先生方には、画像診断のトピックスをお話することに加えて、症例に関する検討等を含めた交流の機会も設けられるようにしたい。

部署内での技師の教育（マンモグラフィ認定技師、超音波検査士の育成等）を引き続き行う。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長・放射線科診療部長	常（HP）
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常（HP）
岩田　　賢	放射線科診療医長	常（HP）
楊川　哲代		非（HP）
宮坂　祐輔		非（HP）
小竹　文雄		非（HP）

【読影数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	924	939	945	927	952	981	1006	911	998	1041	995	1129	11748
MRI	309	332	402	367	379	358	386	401	390	405	398	459	4586
RI	25	24	19	18	19	21	30	18	21	24	25	33	277
合計	1258	1295	1366	1312	1350	1360	1422	1330	1409	1470	1418	1621	16611

専門医による読影率	99.3%	98.7%	98.3%	98.3%	98.6%	98.4%	98.4%	98.3%	98.6%	98.4%	98.0%	98.3%	98.45%
翌日までのレポート完成率	92.1%	90.3%	93.3%	90.3%	91.4%	89.7%	90.0%	91.9%	91.1%	86.3%	91.8%	90.7%	90.74%

【紹介検査数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015年度	23	18	24	21	37	34	39	31	36	31	37	36	367
2016年度	47	38	44	43	47	39	32	31	34	29	40	32	456

病　理　診　断　科

【総括】

2016 年度は、筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,067 件、細胞診 10,919 件、術中迅速組織診 19 件、病理解剖 5 件があり、CPC では前年度までのものを含め、以下の 7 例について症例検討を行った。

①胸部大動脈瘤人口血管術後の心タンポナーデ解除後、肺炎を来した症例（88 歳男性）
②うっ血性心不全に大量腹水を併発した症例（85 歳男性）
③好酸球増多症と右肺腫瘤を認めた多発性脳梗塞の症例（67 歳男性）
④濾胞性リンパ腫からびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に形質転換した症例（51 歳男性）
⑤大動脈弁置換術後、間質性肺炎急性増悪を来たした症例（78 歳女性）
⑥急激に進行した粟粒結核の症例（83 歳男性）
⑦骨髄癌腫症で小細胞癌マーカー高値であった症例（66 歳男性）

症例①では人工血管置換術後に心タンポナーデを発症し、複数回の再手術によって一時は食事可能となったものの、びまん性肺胞傷害（DAD）が線維化期に移行し換気不全を来たしていた。症例②では回旋枝ステント留置を行った陳旧性心筋梗塞、肝硬変、腎硬化症、肝性 IgA 腎症、コレステロール塞栓症による腎機能低下の関与した多量の腹水・胸水が貯留していた。症例③では右肺小細胞癌が認められ、腫瘍随伴症候群による好酸球増多症から全身の微小血栓と多発脳梗塞を来したものと考えられた。症例④では形質転化したびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫が上縦隔腫瘤を形成し、誤嚥性肺炎と肺膿瘍を来すと共に、両側副腎の壊死を含む全身のサイトメガロ感染症を併発していた。症例⑤では水害を契機として見つかった大動脈狭窄に対する弁置換術後、間質性肺炎の急性増悪を来したが、剖検時肺の含気は改善しており、何らかの心機能低下、良性腎硬化症と軽度の慢性糸球体腎炎の関与した腎機能障害、および投薬再開による出血傾向が死因に影響したものと思われた。症例⑥では全身の粟粒結核とＳ状結腸憩室穿孔による汎発性腹膜炎が認められた。症例⑦では骨髄癌腫症が胃内分泌細胞癌の転移であったことが判明し、初診時既に十分な検査・診断が困難で、胃癌は想定し難い状況であったが、原発不明癌の貴重な症例として参加者から活発な意見交換がなされた。

［文責：臺　勇一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　　勇一	病理科診療部長	常（HP）

【筑波記念病院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	262	220	337	273	229	279	272	273	230	287	288	326	2770	230.8
迅速病理	1	1	2	3	1	1	1	4	1	1	2	1	19	1.6
剖検	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	5	0.4
細胞診	258	314	508	561	542	658	665	607	523	558	538	664	6396	533

【筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	28	14	31	22	27	23	36	30	27	17	23	19	297	24.8
細胞診	387	345	433	345	348	388	410	382	381	345	368	391	4523	376.9

【筑波記念病院・筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	290	234	368	295	256	302	308	303	257	304	311	345	3067	255.6
迅速病理	1	1	2	3	1	1	1	4	1	1	2	1	19	1.6
剖検	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	5	0.4
細胞診	645	659	941	906	890	1046	1075	989	904	903	906	1055	10919	909.9

リハビリテーション科

【総括】

1．2016 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

最大の変化は、リハ科専門医が常勤で３名入職したことである。

①４月：平島富美子医師がリハ科診療部長として着任し、回復期の専従医として業務を始めた。リハ科医が主治医としての患者受けもち、カンファレンスのシステムなどチームリハの推進、ベッドコントロールで患者の流れを整え、他院からの紹介患者の定期的受け入れなど、回復期リハの整備を行い実現した。リハ科受け持ちの入院患者が定常化し、順調に増加した。

②６月：海老原一彰医師が医長として着任し、検査（VE、VF）と摂食嚥下チームの流れや、摂食嚥下認定看護師と共に摂食機能療法実施体制など作り嚥下診療を整備した。

③７月：伊佐地 隆医師がリハ統括部長として着任し、診療科とリハ部を統括する立場で、急性期他科診療との連携、療養病棟や地域包括ケア病棟（１月から）の支援業務、つくばケアセンターでの診察指導を行った。

④関 寛之医師はつくばケアセンターの所属となり、入所者の管理に就いた。

⑤小児リハを週1回担当する非常勤大黒春夏医師と合わせて、常勤４名、非常勤1名の陣容になった。

⑥外来ではリハ科の特殊外来として、義肢装具・車いす外来を週１回定例化し、神経ブロックも合わせて痙縮診療を担当するボツリヌス治療外来も開設した。

通常の外来は週２コマ開設し、９月から順調に増加した。

⑦教育面では、帝京大学医学部の実習指定病院として学生臨床実習を請け負った。全16グループの学生すべてが１日来院し、主に回復期患者のリハ診療を経験した。また筑波大学生、ハンガリーの大学卒の国試受験生の実習も行った。

2．2017 年度の課題・目標

①特殊外来を地域に広報し件数増加と充実を図る。

②回復期での成果をさらに維持向上させるため、地域包括ケアを含めて生活期リハへの関与を強める。

③県指定の地域リハ支援体制の活動を活発化する。

［文責：伊佐地　隆］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
伊佐地　隆	リハビリテーション統括部長	常（HP）
平島富美子	リハビリテーション科診療部長	常（HP）
関　　寛之		常（HP）
海老原一彰	リハビリテーション科医長	常（HP）
大黒　春夏		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	10	11	2	6	26	30	49	73	68	81	107	465

【特殊外来患者数（筑波記念病院）】

義肢装具・車いす外来

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	16	10	13	15	20	17	20	12	20	28	18	200

ボツリヌス治療外来

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
					1				1		1	3

【入院件数（筑波記念病院）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	49	199	356	599	548	647	747	696	619	724	5,184

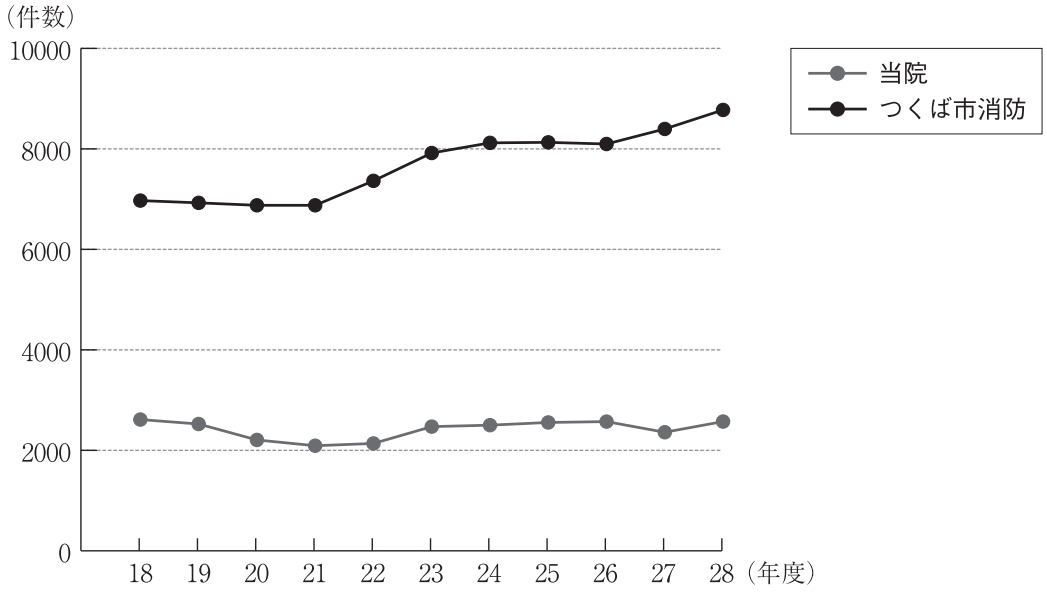
救　急　科

【総括】

①2016年度の救急車搬送件数は、前年度に比べ213件の増加である。しかし、当院に救急搬送する主な消防（つくば市消防・茨城西南地方消防・筑西消防など）の救急搬送件数は年々増加している中、当院での救急車受け入れ件数は年間2,000～2,500件を維持しているといった状況である。

また、ドクターヘリ（消防防災ヘリも含む）による患者搬送件数は、前年度と比べて転院搬送については年間10 → 8件と横ばいであるが、現場からの搬送は年間3 → 9件と増加した。

当院及びつくば市消防の救急搬送件数の推移（過去10年）



平成27年9月関東･東北豪雨による常総市水害があり、当院でのDMATの必要性が認識され、平成28年1月に医師1名、ロジスティックス1名、平成28年12月には看護師1名が茨城県からの推薦を受け、日本DMAT研修に参加した。平成29年1月19日、茨城県で17番目となる「DMAT指定医療機関」として当院が指定された。また、平成28年11月に当院から医師1名、看護師2名、ロジスティクス2名が茨城DPAT研修に参加、今後、「茨城DPAT協力医療機関」に認定される予定である。

また、全日本病院協会のAMAT隊員研修に、医師3名、看護師3名、ロジスティクス2名が参加、AMAT隊も発足した。平成28年2月には、徳島県で南海トラフ地震を想定した大規模災害訓練にAMAT隊として参加した。

②2017年4月から、つくば・常総地区メディカルコントロール協議会（以後、「つくば・常総MC」とする）の検証医師となり、つくば・常総MC内での救急搬送事案について事後検証に関わる予定である。また、7月からはつくば・常総MCの救急救命士の特定行為に対する指示医療機関登録される予定であり、救急隊の現場活動にも関与していく。

［文責：立川法正］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
立川　法正	救急科長	常（HP）
菊地　　斉		非（HP）
稲葉　健介		非（HP）

【ドクターヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015年度	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
2016年度	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	6

【ドクターヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015年度	2	1	0	0	1	1	1	2	1	0	0	1	10
2016年度	0	1	0	1	0	1	1	0	1	2	0	0	7

【防災ヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2016年度	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3

【防災ヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2015年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

【救急車搬送患者数】

	患者数（搬送台数）	症度別		診療科別			交通事故
		入院	外来	内科系	外科系	救急科	
27年 合計	2398名	1007名	1391名	1494名	904名		334名
	2360台	42％	58％	62％	38％		14％
28年 合計	2596名	1218名	1378名	1470名	872名	254名	284名
	2573台	47％	53％	57％	34％	10％	11％

リウマチ・アレルギー科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	常（HP）
柏木平八郎	筑波記念会顧問	非（HP）
佐藤　泉		非（HP）
近藤　裕也		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
327	304	365	321	294	380	325	296	340	289	304	329	3,874

形　成　外　科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
内田　彰子		常（HP）
川井　啓太		非（HP）
遠藤　隆志		非（CL）
畑　寿太郎		非（CL）
藤田　悠気		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
68	68	76	95	72	53	32	36	82	74	78	64	798

血管専門外来

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
岩井　武尚		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	32	27	24	34	32	45	45	36	29	26	28	382

腎　臓　内　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
戸村　成男		非（CL）
藤田亜紀子		非（CL）
永井　　恵		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
107	115	119	124	109	112	118	87	127	114	97	118	1,347

乳 腺 甲 状 腺 外 科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相吉　悠治		非（CL）
原　　尚人		非（CL）
岩淵　　裕		非（HP）
市岡恵美香		非（HP）
岡﨑　　舞		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
507	449	607	538	497	467	526	499	513	440	516	539	6,098

泌　尿　器　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
滝澤　一晴		非（CL）
和久　夏衣		非（CL）
権藤　立男		非（CL）
田中　　建		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
358	304	351	342	407	325	349	376	385	382	346	396	4,321

もの忘れ診療科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ科診療部長	常（CL）

緩　和　ケ　ア

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長岡　広香		非（HP）

内　　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
東田　俊彦		非（CL）
金津　赫生		非（HP）
廣瀬　千尋		非（HP）
柳　　久子		非（HP）
島　さつき		非（HP）
赤石　聡子		非（HP）
江辺　厚子		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
293	232	362	345	411	496	387	335	346	377	317	338	4,239

筑波記念病院　研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	赤星　　南	筑波記念病院	産婦（JA）	産婦（JA）	小児・総合（筑大）	小児・総合（筑大）	精神（地域・CL）	血内	放射線	放射線	循内	救急	救急	救急
2	倉橋　果南	筑波記念病院	眼（地域・CL）	育休			産婦（JA）	産婦（JA）	心外	心外	心外	心外	心外	心外
2	黒坂　徳子	筑波記念病院	整外	整外	産婦（JA）	産婦（JA）	放射線	放射線	眼（地域・CL）	小児・新生児（筑大）	小児・新生児（筑大）	脳外	脳外	救急
2	神野　和志	筑波記念病院	心外	心外	心外	小児（地域・CL）	産婦（筑大）	産婦（筑大）	消外	消外	消外	消外	呼外	呼外
2	岩元　博史	筑波記念病院	耳鼻（筑大）	産婦（筑大）	産婦（筑大）	脳外	脳外	神内（日医）	血内	血内	呼外	放射線	放射線	小児（地域・CL）
2	柴田　靖美	筑波記念病院	放射線	放射線	代内	呼外	呼外	麻酔（筑大）	麻酔（筑大）	産婦（JA）	産婦（JA）	小児（地域・CL）	脳外	脳外
2	清水　知明	筑波大学附属病院	麻酔	麻酔										
2	河村千登星	筑波大学附属病院			麻酔	麻酔								
2	芥川　和樹	筑波大学附属病院					麻酔	麻酔						
2	長島さやか	筑波大学附属病院			整外	整外	脳外	脳外	麻酔	麻酔	麻酔			
2	松永　宇広	筑波大学附属病院											麻酔	麻酔
2	坂下孝太郎	筑波大学附属病院	整外	整外										
2	園部　藍子	筑波大学附属病院				循内	循内	循内	脳外	脳外				
2	岡本　千尋	筑波大学附属病院				消内	整外	整外						
2	石塚幹太郎	筑波大学附属病院					消外	消外	皮膚	救急	血内	血内	消内	消内
2	内田　直宏	筑波大学附属病院									脳外	脳外		
2	矢口　拓実	筑波大学附属病院										循内	消内	
2	岩田　裕貴	筑波大学附属病院											循内	循内
1	粕谷　英暢	筑波記念病院	消外	消外	麻酔	麻酔	循内	循内	救急	救急	救急	血内	血内	消内
1	黒江　崇史	筑波記念病院	循内	循内	血内	血内	消内	消内	消外	消外	麻酔	麻酔	救急	救急
1	横山　昌平	筑波記念病院	消内	消内	消外	消外	麻酔	麻酔	血内	血内	心外	救急	救急	救急
1	石川　陽子	筑波記念病院	循内	循内	消内	消内	消外	消外	麻酔	麻酔	救急	救急	救急	血内
1	大河内咲波	東京大学附属病院	消内	消内	循内	循内	血内	血内	救急	麻酔	救急	消外	消外	消外
1	垣野内　航	筑波大学附属病院	血内	血内	循内	循内	消内	消内						
1	小和田恵以	筑波大学附属病院							血内	血内	消内	消内	循内	循内

後期研修医

年次	氏　名	管理病院	所　　属	期　　間
6	山本　晴楽	筑波大学附属病院	整形外科	2016.4.1 ～ 2017.3.31
5	星　　葵	筑波大学附属病院	心臓血管外科	2016.4.1 ～ 2016.5.31
4	池田　貴文	筑波大学附属病院	消化器内科	2016.4.1 ～ 2016.9.30
4	髙木　理央	筑波大学附属病院	心臓血管外科	2016.7.1 ～ 2016.9.30
4	山浦　正道	筑波大学附属病院	消化器内科	2016.10.1 ～ 2017.3.31
3	沼田るり子	筑波記念病院	循環器内科	2016.4.1 ～ 2016.6.30、2017.1.1 ～ 2017.3.31
3	桂　　健生	筑波大学附属病院	整形外科	2016.4.1 ～ 2016.9.30
3	井関　陽平	日本医科大学附属病院	消化器外科	2016.10.1 ～ 2017.3.31

業　績　集

【論　文】

循環器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
井川昌幸、服部　愛、會田　敏、他	Paclitaxel 溶出ステント留置 6 年後に bevacizumab を含む癌化学療法を施行され、超遅発性ステント血栓症をきたした 1 例	心臓	48(5)	555-560	2016.5

消化器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
池澤和人、溝上裕士、杉山弘明	NSAIDs・LDA による消化管粘膜傷害 ―NSAIDs（LDA を含む）起因性上部消化管粘膜傷害の診断と予防	胃と腸	第51巻4号	432-441	2016.4
添田敦子、池澤和人、黒坂徳子	S 状結腸穿通による腸腰筋膿瘍を合併したアミロイドーシスの 1 例	Prog.Dig.Endosc.	第89巻1号	58-61	2017.1

神経内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
白岩伸子、保坂孝史、榎本強志、他	可逆性の MRI 病変が認められた高齢初発複雑部分発作の 1 例	臨床神経	56巻7号	472-476	2016
白岩伸子、玉岡　晃、大越教夫	高齢者てんかんと認知症	神経内科	85巻3号	289-292	2016

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Akihiro Yoshimoto, Takafumi Inoue, Masayuki Fujisaki, et al.	Efficacy of Vacuum-Assisted Closure Therapy on Rehabilitation during the Treatment for Surgical Site Infection after Cardiovascular Surgery	General thoracic and cardiovascular surgery			
Akihiro Yoshimoto, Takafumi Inoue, Satoshi Nishi, et al.	Ascending aorta plication for moderately dilated ascending aorta combined with aortic valve replacement	Annals of thoracic and cardiovascular surgery / under review			
西　智史、野中崇夫、松本春信、他	上肢静脈性血管瘤の 1 例	静脈学			
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	繰り返す心原性塞栓症に対し胸腔鏡下左心耳切除を施行した 1 例	胸部外科			
Takafumi Inoue, Satoshi Nishi, Akihiro Yoshimoto, et al.	Thoracoscopic Left Atrial Appendectomy and Thoracic Endovascular Aortic Repair in a Patient with Cardiogenic Stroke due to Atrial Fibrillation Combined with Acute Aortic Dissection	Innovations: Technology and Techniques in Cardiothoracic and Vascular Surgery / under review			
倉橋果南、井上堯文、吉本明浩、他	弁膜症性心房細動に対し胸腔鏡下左心耳切除術を施行した一例	胸部外科			
倉橋果南、井上堯文、吉本明浩、他	急性大動脈解離術後の小腸穿孔に対し至適時期の開腹手術により救命した一例	胸部外科			
沼田るり子、井上堯文、藤崎正之、他	パッチ閉鎖術にて救命した嚢状腹部大動脈瘤破裂の 1 例	臨床外科学会雑誌			

整形外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Tomohiro Yoshizawa, Hajime Mishima, Takeshi Ainoya	Rehabilitation in a convalescent ward following an acute ward improves functional recovery and mortality for hip fracture patients	The journal of physical therapy science	2017-131		2017.3

リハビリテーション科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
佐々木千穂、吉村　恵、伊佐地 隆	スキューバダイビングにおける循環生理学的指標の変化　－ 深呼吸の影響 －	保健科学研究誌	第 13号	127-134	2016

病理診断科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
添田敦子、池澤和人、黒坂徳子、他	S 状結腸穿通による腸腰筋膿瘍を合併したアミロイドーシスの 1 例	Progress of Digestive Endoscopy	89(1)	58-61	2016

【学会・講演・セミナー等】

循環器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Kenji Wagatsuma	(Discussant) CTO Live 2016: Live Case Session Ⅱ	21st Cardiovascular Summit TCTAP 2016	Seoul, Korea	2016.4
Kenji Wagatsuma	(Panelist) Left Main Disease: Morning Round-table Forum: Meet the Experts over breakfast	21st Cardiovascular Summit TCTAP 2016	Seoul, Korea	2016.4
Yasuto Uchida, Kenji Wagatsuma, Ai Hattori,et al.	Treatment of Distal Left Main True Bifurcation Involving LAD CTO Lesion by the Retrograde Approach and Culotte Stenting	21st Cardiovascular Summit TCTAP 2016	Seoul, Korea	2016.4
内田靖人、我妻賢司、新居秀郎、他	冠動脈造影にて冠攣縮性狭心症と診断後に冠動脈血腫を発症、第3世代DES(Ultimaster)を留置しBail Outした1例	第48回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京	2016.5
我妻賢司	よくわかるIVUS	第48回日本心血管インターベンション学会 関東甲信越地方会	東京	2016.5
新居秀郎、我妻賢司、服部　愛、他	工夫によりGuide Liner使用下でLADをプロテクトしながらLCx入口部にステント留置が可能となった1例	第240回日本循環器学会　関東甲信越地方会	東京	2016.6
新居秀郎、我妻賢司、服部　愛、他	工夫によりGuide Liner使用下でLADをプロテクトしながらLCx入口部にステント留置が可能となった1例	第118回日本シネアンジオ研究会	松山	2016.6
大河内咲波、新居秀郎、我妻賢司、他	心電図による診断が困難であった起始異常を有する左回旋枝を責任病変とする急性冠症候群の1例	第626回日本内科学会　関東地方会	東京	2016.9
Kenji Wagatsuma	(Lecturer) Luncheon Symposium II Transradial High-Speed Rotational Atherectomy for Heavily Calcified Lesions	14th Gwangju Interventional Cardiology Symposium (GICS2016)	Gwangju, South Korea	2016.6
新居秀郎	Ad-hoc PCIを施行したことがbestなstrategyだったのか？	Clinical Cardiology Seminar	つくば	2016.6
Yoko Ito, Masayuki Igawa, Tsuyoshi Enomoto,et al.	What is the Useful Parameter for Effective Clinical Ablation in Atrial fibrillation with Contact Force Catheter at each points?	第63回日本不整脈心電学会学術大会	札幌	2016.7
Masayuki Igawa, Yoko Ito, Ai Hattori,et al.	Three cases of ventricular tachyarrhythmias storm in ACS with heart failure;Impact of ablation therapy system and mechanical support	第63回日本不整脈心電学会学術大会	札幌	2016.7
Kenji Wagatsuma, Toshiya Muramatsu, Tsutomu Fujita,et al.	Long term clinical results of percutaneous coronary intervention for chronic total occlusions:Latest report from Retrograde Summit Registry.	ESC 2016	Rome, Italy	2016.8
新居秀郎	(パネリスト)：心血管イベントの予知マーカーとしての頸動脈エコーの意義～糖尿病患者さんにおいて～	地域医療連携公開講座「糖尿病治療スキルアップセミナー～糖尿病と動脈硬化を中心に～	つくば	2016.9
新居秀郎	LCxの有意狭窄に対する待機的PCI時のファーストショットでLMTからLAD及びLCx方向への解離をきたしたが迅速な対応にて救命できた1例	第4回つくばハートカンファレンス	つくば	2016.10
井藤葉子、井川昌幸、野上昭彦、他	左心耳を起源とする心房頻拍に対し左心耳内の最早期部位への通電で頻拍を根治しえた1例	日本不整脈心電図学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2016	福岡	2016.10
大河内咲波、新居秀郎、我妻賢司、他	心電図による責任血管の推測が困難であった起始異常を有する回旋枝を責任病変とする急性冠症候群の1例	第119回日本シネアンジオ研究会	東京	2016.12
新居秀郎	当院におけるサムスカの使用経験から	平成28年度 第14回筑波記念病院地域医療連携公開講座	つくば	2017.2

消化器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
池澤和人、金森毅繁、長澤俊郎、他	リハビリテーション職員におけるピロリ菌感染の現況	第 18 回医療マネジメント学会学術集会	福岡	2016.4
友常哉子、飯島洋子、池澤和人、他	当院における看護必要度監査体制と現状	第 18 回医療マネジメント学会学術集会	福岡	2016.4
赤星　南、添田敦子、新里悠輔、他	洪水被災後に急性十二指腸粘膜病変をきたした 1 例	第 622 回日本内科学会関東地方会	東京	2016.5
田島大樹、新里悠輔、小林真理子、他	SEMS（胆管金属ステント）内腔に肝動脈瘤形成をきたした 3 例	第 102 回日本消化器病総会	東京	2016.5
菅沼大輔、田島大樹、小林真理子、他	平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に関連した十二指腸潰瘍の 3 例	第 91 回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2016.5
池田貴文、小林真理子、岩井健太郎、他	胃十二指腸ステント留置後の動脈出血性ショックに対して血管塞栓術で救命し得た一例	第 340 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2016.7
横山昌平、小林真理子、池田貴文、他	血球貪食症候群を合併し潰瘍性大腸炎類似の病理組織像を認めたサルモネラ腸炎の一例	第 340 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2016.7
越智大介、池田貴文、岩井健太郎、他	イマチニブによる 5 年間の術後補助化学療法中止後に再発した消化管間質腫瘍（GIST）の 1 例	第 340 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2016.7
田島大樹、菅沼大輔、小林真理、他	幹細胞因子受容体（c-Kit）が陽性であった脂肪肉腫に対しパゾパニブ塩酸塩で著効が得られた 1 例	第 14 回日本臨床腫瘍学会	神戸	2016.7
越智大介、菅沼大輔、田島大樹、他	当院における胃 Group2 病変の検討	第 58 回日本消化器病学会大会	神戸	2016.11
添田敦子、大塚公一朗、菅沼大輔、他	市中病院における IgG4 関連疾患および類似疾患の診断と治療の現状	第 58 回日本消化器病学会大会	神戸	2016.11
田島大樹、菅沼大輔、小林真理子、他	下部消化管内視鏡検査において新世代スコープがもたらした挿入時間短縮および腺腫発見率（Adenoma Detection Rate：ADR）向上に関する比較検討	第 92 回日本消化器内視鏡学会	神戸	2016.11
垣野内航、添田敦子、大塚公一朗、他	血液培養にて α -streptcoccus を検出した化膿性門脈炎の一例	第 342 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2016.12
添田敦子、大塚公一朗、黒江崇史、他	アダリムマブによる治療を行った腸管ベーチェット病 3 症例の検討	第 13 回日本消化管学会学術総会	名古屋	2017.2
小林真理子、池田貴文、岩井健太郎、他	上部消化管悪性閉塞に対して金属ステント留置後に出血性ショックをきたし IVR で救命し得た 2 症例からの検討	第 13 回日本消化管学会学術総会	名古屋	2017.2

血液内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
黒江崇史、佐藤祐二 ※学会奨励賞受賞	インフルエンザ迅速検査陰性化まで 37 日間を要した悪性リンパ腫例	第 625 回　日本内科学会　関東地方会	日本都市センター	2016.7.10
石川陽子、長山人三、福田匡芳、他	骨髄癌腫症と播種性血管内凝固を来した大細胞型神経内分泌癌 LC-NEC の 1 例	第 631 回　日本内科学会　関東地方会	日内会館	2017.3.11

神経内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
星野幸子、白岩伸子、鯨岡結賀	進行性核上性麻痺、パーキンソン病での中脳被蓋 MRI 測定値への影響因子	第 57 回日本神経学会学術大会	神戸	2016.6
白岩伸子、星野幸子、玉岡　晃、他	頭痛及び頭痛の共存症に対する呉茱萸湯の効果	第 57 回日本神経学会学術大会	神戸	2016.6

代謝内科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
藤原　淳、藤田利枝、千勝典子、他	インスリン多量投与でも血糖管理不良であった２型糖尿病症例において睡眠時無呼吸症候群に対する治療により改善した一例	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都	2016.5.19
藤原　淳	糖尿病の合併症の予防と対策	市民公開講座　茨城県生活習慣病予防対策推進事業　地域フォーラム	つくば	2016.11.13
藤原　淳	糖尿病治療最近の話題	龍ヶ崎･牛久市医師会牛久支部学術講演会	牛久	2016.11.15
藤原　淳	頸動脈エコーによって予見された脳梗塞	第 11 回茨城県糖尿病合併症治療研究会	つくば	2016.11.25
藤原　淳	近頃の糖尿病治療薬選択と専門医への紹介について	筑七会	つくば	2017.1.11

呼吸器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
藤田純一、藤原啓司、石川宏明	原疾患の治療が Trousseau 症候群に奏功した肺腺癌の２例	第 56 回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2016.4
石川宏明、渡邊裕子、折居美波、他	気管支周囲のスリガラス影を呈し、比較的短期間にびまん性気管支拡張が進行した Good 症候群の１例	日本内科学会第 627 回関東地方会	東京	2016.10
山田　豊、大塚盛男、折居美波、他	局所麻酔下胸腔鏡検査で診断がつかず腫瘍摘出術にて診断確定した石灰化を伴う sacomatoid mesothelioma の１例	第 57 回日本肺癌学会学術集会	福岡	2016.12

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
木村正樹、柴田靖美、神山幸一、他	ＣＡＢＧ・ＰＣＩ後の 90 歳肺癌患者に対する手術経験	第 41 回茨城肺癌研究会	つくば	2016.10
神山幸一、木村正樹	経鼻気管支鏡で摘出した下咽頭異物（魚骨）の１例	第 159 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会	東京	2016.11
神山幸一、木村正樹、臺　勇一	左肺異時性多発肺腺癌初回手術じから 21 年経過観察中の右肺ＧＧＯ	第 57 回日本肺癌学会学術集会	福岡	2016.12
山田　豊、神山幸一、木村正樹、他	局所麻酔下胸腔鏡検査で診断がつかず腫瘍摘出術にて診断確定した石灰化を伴う sacomatoid mesothelioma の１例	第 57 回日本肺癌学会学術集会	福岡	2016.12

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
吉本明浩、井上堯文、藤崎正之、他	心臓血管外科周術期呼吸機能の向上を目的としたチームアプローチ	第 116 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2016.4
末松義弘、井上堯文、吉本明浩、他	リコンビナント活性型第Ⅶ因子製剤（rFVIIa）は血栓塞栓症を引き起こすのか？	116 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2016.4
吉本明浩、井上堯文、西智史、他	胸腔鏡下癒着例に対する完全胸腔鏡下左心耳切除術の経験	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会	岡山	2016.9
西　智史、清水寿和、山本貴裕、他	腹部大動脈人工血管置換術後吻合部仮性瘤に対し EVAR を施行した３例	第 44 回日本血管外科学会学術総会	東京	2016.5
西　智史、清水寿和、山本貴裕、他	腹部大動脈瘤術後吻合部仮性瘤に対する EVAR 後に開腹手術を要した１例	第 57 回日本脈管学会総会	奈良	2016.10

Takafumi Inoue, Yoshihiro Sematsu, Akihiro Yoshimoto,et al.	Our Experience of Thoracoscopic Left Atrial Appendage Resection for Atrial Fibrillation Patients	The 24th Annual Meeting of Asian Socoety for Cardiovascular and Thoracic Surgery	Taiwan	2016.4
井上堯文、末松義弘、吉本明浩、他	心房細動患者における脳梗塞リスクへの左心耳の寄与、および胸腔鏡下左心耳切除術の有効性についての展望	第 116 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2016.4
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	急性大動脈症候群緊急手術時の凝固能障害に対する、凝固第 VII 因子製剤投与の凝固能適正化効果の検討―素早く効き、素早く消える	第 44 回日本血管外科学会学術総会	東京	2016.5
沼田るり子、井上堯文、吉本明浩、他	感染性動脈瘤と限局性腎動脈下大動脈解離の鑑別に難渋した一例	第 240 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2016.6
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	脳梗塞を合併した StanfordA 型急性大動脈解離に対し、TEVAR で加療し得た一例	第 171 回胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2016.6
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	逆行性の Stanford A 型急性大動脈解離に対する血管内治療	第 3 回東京心臓外科クリニカルカンファレンス		
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	脳梗塞と心タンポナーデを合併した Stanford A 型急性大動脈解離に対し、心嚢ドレナージのみで軽快した一例	第 241 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2016.9
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	心臓大血管手術後の認知機能の経時的変化の検討－早期リハビリテーション介入プログラムの有効性について	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会	岡山	2016.9
井上堯文、西　智史、吉本明浩、他	CABG can be safely performed for patients with severe cardiac dysfunction by optimal use of cardiopulmonary bypass	第 20 回日本心不全学会学術集会	札幌	2016.10
井上堯文、吉本明浩、藤崎正之、他	Stanford A 型急性大動脈解離に対し、適切な保存加療を選択し救命し得た 3 例の報告	第 57 回日本脈管学会総会	奈良	2016.10
井上堯文、西　智史、吉本明浩、他	当科における胸腔鏡下左心耳切除術の経験：非弁膜症性心房細動患者の脳梗塞予防への新たな外科的アプローチ	第 96 回茨城脳神経外科集談会		
井上堯文、西　智史、吉本明浩、他	心原性脳梗塞と B 型急性大動脈解離の合併に対し、胸腔鏡下左心耳切除と TEVAR の二期的手術を施行した一例	第 242 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2016.12
井上堯文、西　智史、吉本明浩、他	EF20% 以下の超低心機能患者に対する CABG の検討	第 30 回 日本冠疾患学会学術集会	東京	2016.12
堂本　優、井上堯文、吉本明浩、他	受傷機転から予測困難であった外傷性心損傷の一例	第 171 回胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2016.6
藤崎正之、末松義弘、井上堯文、他	特発性大動脈破裂の TEVAR による救命例の検討	第 44 回日本血管外科学会学術総会	東京	2016.5
藤崎正之、末松義弘、井上堯文、他	急性逆行性 A 型大動脈解離の TEVAR 治療－急性期 TEVAR の有用性－	第 241 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2016.9
藤崎正之、末松義弘、井上堯文、他	大動脈分岐部狭小・両側総腸骨動脈狭窄を伴う腹部大動脈瘤に対する腹部ステントグラフト内挿術－ AFX 使用経験例の報告－	第 24 回茨城循環器研究会		
森住　誠、井上堯文、吉本明浩、他	ステントグラフト内挿術後に発症した大動脈解離症例の検討	第 116 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2016.4
森住　誠、井上堯文、吉本明浩、他	TEVAR 術後に逆行性 A 型大動脈解離をきたした 1 例	第 44 回日本血管外科学会学術総会	東京	2016.5
森住　誠、井上堯文、吉本明浩、他	硬化療法を施行した血管奇形の 2 例	第 36 回日本静脈学会総会	弘前	2016.6

倉橋果南、井上堯文、吉本　明、他	外傷性大動脈損傷に対しドクターヘリ搬送し緊急ステントグラフト内挿術を施行して救命し得た一例	第 40 回茨城県救急医学	つくば	2016.9
神野和志、井上堯文、吉本　明、他	頸椎固定具装着下で手術した腕頭動脈瘤の一例	第 241 回茨城外科学会	つくば	2016.6
神野和志、森住　誠、井上堯文、他	胸腺内出血を伴った特発性大動脈破裂の一例	第 241 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2016.9
神野和志、森住　誠、井上堯文、他	弓部分枝異常に嚢状動脈瘤を認めた一例	第 57 回日本脈管学会	奈良	2016.10

脳神経外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
中村和弘	筑波記念病院地域連携公開講座 座長	筑波記念病院地域連携公開講座	筑波記念病院	2016.4
渡部大輔	出血を繰り返し増大した Frontal epidermoid cyst の 1 例	第 129 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会	東京	2016.4
渡部大輔	Bow hunter's syndrome に対して頚椎前方固定術を施行した 1 例	第 41 回日本脳卒中学会総会	札幌	2016.4
中村和弘	動脈硬化性脳主幹動脈 tandem occlusion に対する急性期血栓回収療法の治療戦略	第 41 回日本脳卒中学会総会	札幌	2016.4
中村和弘	第 13 回茨城ブレインアタックフォーラム 座長	第 13 回茨城ブレインアタックフォーラム	つくば	2016.6
渡部大輔	内頚動脈急性閉塞に対して頚動脈ステント留置術を急性期に施行した症例からの考察	第 13 回茨城ブレインアタックフォーラム	つくば	2016.6
中村和弘	当院における頚動脈狭窄病変に対する治療方針	第 17 回脳神経血管内治療琉球セミナー	糸満	2016.6
中村和弘	筑波記念病院地域連携公開講座 座長	筑波記念病院地域連携公開講座	筑波記念病院	2016.8
松井智世	重症くも膜下出血後の嚥下障害に対して長期的にバルーン拡張法を施行した 1 例	第 22 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会	新潟	2016.9
中村和弘	第 3 回脳神経外科血管吻合ハンズオンセミナー 主催	第 3 回脳神経外科血管吻合ハンズオンセミナー	筑波記念病院	2016.10
中村和弘	第 96 回茨城県脳神経外科集談会 当番世話人	第 96 回茨城県脳神経外科集談会	水戸	2016.10
渡部大輔	CEA 後再狭窄に対する CAS 後数日で閉塞に至った 1 例	第 96 回茨城県脳神経外科集談会	水戸	2016.10
松井智世	遷延する嚥下障害に対するバルーン拡張法が有効であった 3 例	第 75 回日本脳神経外科学会学術総会	福岡	2016.10
渡部大輔	脳脊髄液漏出による低髄液圧症に対し硬膜外生理食塩水持続注入法が奏功した 4 例	第 75 回日本脳神経外科学会学術総会	福岡	2016.10
渡部大輔	脳脊髄液漏出による低髄液圧症に対し硬膜外生理食塩水持続注入法が奏功した 4 例	第 44 回日本頭痛学会総会	京都	2016.10
中村和弘	CEA 後再狭窄に対する CAS 後数日で閉塞に至った 1 例	第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（JSNET2016）	神戸	2016.11
中村和弘	第 3 回つくば脳血管内治療デバイスセミナー 主催	第 3 回つくば脳血管内治療デバイスセミナー	筑波記念病院	2017.2
中村和弘	脳卒中の予防と治療	つくば抗血栓療法講演会	つくば	2017.2

中村和弘	CEA 後再狭窄に対する CAS 後数日で閉塞に至った 1 例	第 46 回日本脳卒中の外科学会（Stroke2017）	大阪	2017.3

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
相野谷武士	腰仙椎非固定例における隣接椎間障害の検討	第45回日本脊椎脊髄病学会	幕張メッセ	2016.4
兵頭康次郎	Fundamental research on tissue repair using bone marrow aspirates	17th EFFORT congress	Geneva	2016.6
長谷川隆司	人工股関節全置換術における J-Taper stem の接触様式ｔｐ３年成績の検討	第43回日本股関節学術集会	大阪国際会議場	2016.11
山本晴楽	EXCIA ステムの術後成績	第47回人工関節学会	沖縄コンベンションセンター	2017.2
長島さやか	アプローチの違いによる MIS-THA の手術侵襲・周術期合併症の比較検討	第47回人工関節学会	沖縄コンベンションセンター	2017.2
桂　健生	抜去に苦慮した大腿骨近位部骨折術後髄内釘折損の２例	第121回茨城県整形外科集談会	つくば	2016.5
坂下孝太郎	大腿骨近位部骨折術後髄内釘折損に　Interference Fit Guide Wires を用いた１例	第681回関東整形災害外科学会	東京	2016.6
吉沢知宏	骨粗鬆症性脆弱骨折患者の入院治療成績	第18回骨粗鬆症学会	仙台	201610

眼科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
森田由香、鯨岡結賀、平岡孝浩、他	近視眼の内斜視および外斜視における脱臼角の検討	第 72 回日本弱視斜視学会総会（JASA）/ 第 41 回日本小児眼科学会 総会（JAPO）合 同学会	横浜	2016.6
森田由香、髙橋信幸、鯨岡結賀、他	神経線維腫に伴う硬膜動静脈瘻が原因と考えられた片眼性眼瞼下垂の１例	第 72 回日本弱視斜視学会総会（JASA）/ 第 41 回日本小児眼科学会 総会（JAPO）合 同学会	横浜	2016.6

麻酔科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
田島啓一、富田絵美、猪股伸一	上前腸骨棘内側からの腸骨筋膜下ブロックは人工股関節全置換術の術後鎮痛に有効である	日本区域麻酔学会第 3 回学術集会	弘前	2016.4
高瀬　肇 、富田 絵美 、田島啓一	僧帽弁形成術中、人工心肺離脱後に左房－冠静脈洞間交通が判明した一例	日本心臓麻酔学会第 21 回学術集会	横浜	2016.9
田島啓一、箱岩沙織	デスフラン、レミフェンタニルによる全身麻酔中にデルタ波が発現し覚醒後消失した間欠性ＷＰＷ症候群の症例	日本臨床麻酔学会第 36 回大会	高知	2016.11

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
伊佐地隆	スキューバダイビングにおける循環生理学的指標の変化 －測定がうまくいかなかったケースの検討－	“アダプテッド /医療 /障がい者” 体育･スポーツ合同コングレス in 北海道	岩見沢	2016.7
伊佐地隆	摂食・嚥下へのリハビリテーションの関わり	第 8 回　地 域 連 携 PEG の会	つくば	2016.10

伊佐地隆、平島富美子、海老原一彰、他	障害者とともにスキューバダイビングをするということ	リハビリテーション・ケア合同研究大会茨城 2016	つくば	2016.10
伊佐地隆	IBARAKI Session「ハビリスの河・茨城」指定発言茨城の地域包括ケアをあたりまえにするためにこれから必要なこと	リハビリテーション・ケア合同研究大会茨城 2016	つくば	2016.10
伊佐地隆	リハビリテーションと栄養	日本静脈経腸栄養学会認定 NST 臨床実地修練	東京（帝京大学医学部附属病院）	2016.12
冷岡朋美、唯野　真、木村恵理、他	くも膜下出血後脳幹梗塞による四肢麻痺・気管切開症例に対する回復期でのコミュニケーションエイド導入の経験	回復期リハビリテーション病棟協会 第 29 回研究大会 in 広島	広島	2017.2
伊佐地隆、佐々木千穂、山見信夫	スキューバダイビング中の循環生理（心電図、血圧、酸素）の変化－血圧の変化を中心に－	第 18 回潜水医学講座小田原セミナー	小田原	2017.2

病理診断科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
臺　勇一	上部消化管内視鏡 ESD 検体病理報告	第 5 回つくば ESD 病理カンファランス	つくば	2016.6
臺　勇一	症例 1, 2 病理診断	第 100 回茨城県早期胃・大腸癌研究会	つくば	2017.2

診療支援部門

看　護　部

【総括】

1．看護体制

平成28年度は、一般病棟（７：１）の継続取得とともに、看護の質担保のために看護職の定着と人材育成の強化をした。採用にむけ、病院見学は７回開催。インターンシップは４回実施し、参加者９名中８名が就職となっている。この活動には、リクルート部門の細やかな対応が欠かせない存在である。

その結果、４月に46名の新入職員（新卒38名:既卒６名）をむかえ、全体で406名の看護師数でスタートをきった。また、年間退職率は8.2%（全国平均は10.5%※日本看護協会2016年病院実態調査より）で、例年同様であった。結婚による転居等が一番多い理由であるが、継続教育とキャリア開発・職場環境の調整は定着を図るための継続課題である。

2．業務

2016年の診療報酬改定とともに、病院機能評価3rdG：Ver1.1の受審もあり看護部として、保険診療の厳しい現実と当院の医療の方向性の変化にいかに対応していくかが問われた一年だった。７月の審査にむけては、当院のチーム医療について改めて考え、医師の治療方針に基づき、看護師が関係する職種との連携役としてのコーディネート役割を発揮することの意識を高める機会となった。また、「退院支援加算１」の基準取得は、各病棟に退院支援看護師が配置され、入院時から、医療・看護・介護・福祉等の相談に対応することができ、患者さんの安心とスムーズな院内、院外連携につながっている。９月には、１号棟２階病棟（23床）が開設され、これで487床すべての部署が整った。当院の特徴である予防から急性期医療、リハビリテーション医療、在宅医療の提供に看護部としても、効果的、効率的な人員配置や救急外来への応援体制などを推進してきた。

2017年１月に開設された「地域包括ケア病棟」（療養病棟２病棟のうち１病棟を転換）は、国の政策である地域包括ケアシステムの一翼を担う病棟である。高齢者を取り巻く情勢は年々変化し、急性期治療や看護の対象やそのあり方も変わってきている。この変化に対応できるよう、教育を充実するとともに、今後とも他部門との連携が必要である。

3．教育

看護現任教育は、ラダーを再構築し５年目となる。クリニカルラダー研修参加者は、延べ1464名。教育担当者にとっては、負担も大きいが、かなり積極的に計画に取り組めていた。事前課題、事後課題（研修の評価にもつながるので重要）には、しっかり目を通し受講者の評価とともに、研修担当者の評価にもつながっている。受講者が興味のある研修を企画し、学習意欲やモチベーションについても悩み、参加者と一緒に学ぶことは、教育担当者の成長となり、看護の質向上にも寄与している。

また、臨床実習指導施設として、７校の看護学生教育を実施している。臨床指導者講習会終了者も４８名に増え、丁寧な指導は、クリニカルラダーによる現任教育と同様、看護師のリクルート活動の柱となっている。

［文責：飯村もと子］

【業務実績】

資格取得状況

認定資格等	人　数	前年度増減	認定資格等	人　数	前年度増減
看護教員養成講習会	8	－3	介護支援専門員	25	－1
認定看護管理者：セカンドレベル	3		消化器内視鏡技師	10	2
認定看護管理者：ファースト	38	4	呼吸療法指導師	2	
認定看護師（摂食・嚥下障害看護）	1		医療安全管理者等研修終了者	2	
認定看護師（糖尿病）	1		臨床指導者講習会終了者	48	
認定看護師（救急看護）	1		人工心臓管理技師認定士	1	
認定看護師（感染管理）	1		介護教員講習会	1	
認定看護師（緩和ケア）	(1)	1	糖尿病療養指導師	3	－2
回復期リハビリテーション看護認定者	1	1			

2017年3月31日現在

実習受け入れ実績

月	学　校　名	人　数	実　習　領　域
4	茨城県きぬ看護専門学校	2	在宅看護論実習
5	アール医療福祉専門学校	6	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
	つくば国際大学	4	在宅看護論実習（ケアセンター）
	茨城県きぬ看護専門学校	4	在宅看護論実習（ステーション）
	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	8	看護の統合と実践
6	つくば国際大学	4	在宅看護論実習（ケアセンター）
	つくば国際大学	4	在宅看護論実習（ステーション）
	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	8	看護の統合と実践
	茨城県きぬ看護専門学校	2	在宅看護論実習（ステーション）
	アール医療福祉専門学校	6	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
7	東京衛生学園専門学校	5	成人看護学実習
	アール医療福祉専門学校	12	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
	筑波大学	1	総合実習
	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	12	看護の統合と実践
	つくば国際大学	2	在宅看護論実習（ケアセンター）
	つくば国際大学	4	在宅看護論実習（ステーション）
8	つくば国際大学	37	総合実習
9	つくば国際大学	37	総合実習
	つくば国際大学	6	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
	東京衛生学園専門学校	5	在宅看護論実習（ステーション）
	東京衛生学園専門学校	5	老年看護学
	国際メディカルテクノロジー専門学校	6	基礎看護学実習
	茨城県きぬ看護専門学校	2	在宅看護論実習（ステーション）
	筑波大学	72	高齢者看護学実習Ⅰ
10	つくば国際大学	6	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
	筑波大学	55	高齢者看護学実習Ⅱ
	茨城県きぬ看護専門学校	2	在宅看護論実習（ステーション）
	土浦看護専門学校 (2 年課程)	2	在宅看護論実習（ステーション）
	東京衛生学園専門学校	5	統合実習
11	筑波大学	35	高齢者看護学実習Ⅱ
	アール医療福祉専門学校	5	老年看護学実習Ⅰ（ケアセンター）
	アール医療福祉専門学校	10	基礎看護学実習ⅠB

11	つくば国際大学	6	成人看護学実習Ⅱ
	土浦看護専門学校（2年課程）	2	在宅看護論実習（ステーション）
	茨城県きぬ看護専門学校	33	基礎看護学実習Ⅰ－3
12	アール医療福祉専門学校	8	統合実習
	茨城県きぬ看護専門学校	33	基礎看護学実習Ⅰ－3
	国際メディカルテクノロジー専門学校	6	成人護学実習
	東京衛生学園専門学校	6	基礎看護学実習
1	アール医療福祉専門学校	8	成人看護学実習Ⅰ（回復期）
	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	18	成人看護学実習
	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	18	成人看護学実習
2	茨城県立岩瀬高等学校専攻科　衛生看護科	18	老年看護学実習
3	アール医療福祉専門学校	8	成人看護学実習Ⅰ（回復期）
	国際メディカルテクノロジー専門学校	6	老年看護学実習
	合計	544	

非常勤講師派遣

講　師	内　　容	依　　頼　　元	開催年月
星　　豪人	看護の統合と実践「国際看護」	茨城県立岩瀬高等校専攻科衛生看護科	2016.1.11 ～ 1.25
吉田恵美子	看護の統合と実践「看護管理」	同上	2016.1.20 ～ 2.17
久保田静子	看護の統合と実践「医療安全」	同上	2016.9.2 ～ 10.7
藤森　早苗	在宅看護論「在宅看護方法論Ⅱ」	同上	2016.9.5 ～ 12.12
山下　　彩	「災害看護」	同上	2016.6 ～ 7
飯島　洋子	人体と看護・疾病と看護「消化器」	同上	2016.11.24 ～ 29
別所　早美	人体と看護・疾病と看護「乳房」	同上	2016.1.24 ～ 1.31
安達さゆり	「看護管理」2年課程2年生	桜水会　土浦看護専門学校	2016.9.8 ～ 12.22
小林　純子	「看護管理」3年課程3年生	同上	2016.8.18 ～ 12.1
野口　里美	血液・造血疾患看護2章	土浦市医師会附属准看護学院	2017.1.30 ～ 2.14
小林　千恵	耳鼻咽喉疾患看護2章	同上	2017.1.10 ～ 1.24
猪瀬　里美	脳疾患患者看護2章	同上	2017.1.6 ～ 1.27
下村　真一	循環器疾患看護	同上	2016.12.13 ～ 2017.1.7
萩谷　久枝	アレルギー疾患・膠原病疾患患者の看護」	同上	2016.11.7 ～ 11.14
木内　亮子	内分泌・代謝疾患看護2章	同上	2016.9.20 ～ 10.4
萩谷　久枝	成人看護学援助論Ⅳ「アレルギー・免疫障害」	茨城県結城看護専門学校	2016.11.10 ～ 11.17
宮澤久美子	成人看護学援助論Ⅴ「血液造血器」	同上	2016.9.25 ～ 10.30
星　　典子	看護の基本となる技術Ⅱ「感染予防技術」	同上	2016.4.9 ～ 5.7
阿部真由美	老年看護学援助論Ⅱ「摂食嚥下障害・低栄養」	同上	2016.9.8
菊池　由香	看護専任教員	同上	20.16.4 ～ 2017.3
中根登志子	看護専任教員	温知会（仁愛看護専門学校）	2016.4 ～ 2017.3
鶴見　幸子	リハビリテーション部初期研修「ライン管理･各種モニター」	当院リハビリテーション	20164.14
久保田静子	H27年度地域看護職員再就職支援「医療安全」	茨城県きぬ専門学校	2016.8.19
星　　典子	感染予防対策	介護付有料老人ホームサンテーヌ土浦	2016.9.21･10.19･11.23
阿部真由美	H27年度地域看護職員再就職支援「経管栄養と栄養管理」	茨城県きぬ専門学校	2016.8.21
阿部真由美	H27年度地域看護職員再就職支援「摂食・嚥下障害」	茨城県看護協会	2016.8.10・10.1
阿部真由美	「安全な食事介助方法と口腔ケア」職能委員会Ⅱ研修	同上	2016.9.28
星　　豪人	日本救急看護学会　H28年度社員総会	一般社団法人日本救急看護学会	2016.10.15
星　　豪人	災害看護初期対応セミナー	同上	2016.5.21
星　　豪人	災害看護初期対応セミナー	同上	2017.1.15
櫻井江利子	ICLSワークショップコースインストラクター	JAとりで総合医療センター	2016.5.17

櫻井江利子	「プレホスピタルにおける外傷の観察と処置について」	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会	2016.7.11
櫻井江利子	脳卒中患者の初期評価他	同上	2016.7.18
櫻井江利子	ICLS ワークショップコースインストラクター	同上	2016.8.23
櫻井江利子	「プレホスピタルにおける外傷の観察と処置について」	稲敷地区メディカルコントロール協議会	2016.9.20
櫻井江利子	ICLS 若竹講習会ワークショップ	医療法人光潤会平間病院	2016.10.25
櫻井江利子	「突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応」	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会	2016.12.20

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
友常　哉子	当院における看護必要度監査体制とその現状について	第18回　日本医療マネジメント学会	福岡国際会議場	2016.4
山中　俊輔	より良い手術看護を目指して ～新人教育として患者体験を取り入れた事による気づき～	第17回　日本医療マネジメント学会 茨城支部学術学会	茨城県立 県民文化センター	2016.9
小林　朋子	車椅子定期点検の標準化が転倒のインシデント報告減少へ及ぼす効果	第17回　日本医療マネジメント学会 茨城支部学術学会	茨城県立 県民文化センター	2016.9
大和田道代	完全内視鏡下左心耳切除術患者パス	第17回　日本医療マネジメント学会 茨城支部学術学会	茨城県立 県民文化センター	2016.9
寺田　　綾	当院における心房細動に対する完全内視鏡下左心耳切除の医療経済効果の検討	第17回　日本医療マネジメント学会 茨城支部学術学会	茨城県立 県民文化センター	2016.9
星　　豪人	関東・東北豪雨災害を経験して ～災害時の EMIS の必要性～	第17回　日本医療マネジメント学会 茨城支部学術学会	茨城県立 県民文化センター	2016.9
星　　豪人	学会評議委員	第18回　日本救急看護学会学術集会	幕張メッセ	2016.10
吉葉　瑛子	災害訓練が行えない現状からの脱却を試みて ～当院 DMAT チーム誕生が及ぼした影響～	第40回　茨城県救急医学会	つくば国際会議場	2016.8
吉葉　瑛子	医療事務を含めたトリアージ訓練から見えてきた当院の課題	第18回　日本救急看護学会学術集会	幕張メッセ	2016.10
下村　真一	CentralECMO を装着した患者の集中ケアの経験	第40回　茨城県救急医学会	つくば国際会議場	2016.8
木内　亮子	外来インスリン導入における継続教育に向けての取り組み ～指導用紙改訂を試みて～	第21回　日本糖尿病教育・看護学会学術集会	山梨県立大学 池田キャンパス	2016.9
吉村　真衣	患者の「家に帰りたい」を叶えるために	第40回　日本死の臨床研究会年次大会	札幌コンベンションセンター	2016.10
皆川　隆志	多職種連携による転倒転落防止対策の効果	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば国際会議場	2016.10
阿部真由美	座長：摂食・嚥下・口腔ケア 2 セッション	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば国際会議場	2016.10
太田　和子	座長：病棟、組織運営 4	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば国際会議場	2016.10
大野真理恵	嚥下リハビリテーションにおける多職種連携	回復期リハビリテーション病棟協会 第29回研究大会 In 広島	広島国際会議場	2017.2
坂本　真樹	当院における健康教室の効果と現状 ～女性対象者における食事指導の工夫～	日本総合健診医学会 第45回大会	東京ベイ舞浜ホテル	2017.1

薬　剤　部

【総括】

1．2016 年度の実績報告

1）薬剤業務実施加算を含めて、薬剤部の保険収入は 2016 年度が 4476 万円であったものを、2017 年度は 4711 万円と 5.3％増加させることができた。病棟業務評価の指標となる薬剤管理指導料算定件数は 2016 年度がⅠおよびⅡを合わせて 9203 件から 2016 年度は 10203 件で 10.9％増。年度目標の月平均 750 件を大きく上回り、月平均 850 件とすることができた。

2）病棟薬剤業務実施加算Ⅰは､それを維持することが精一杯の状況であり､加算Ⅱへのステップアップは困難であった。その理由として年度内の退職者が４名おり、２名の増員が叶う前に完全なマンパワー不足に陥ったことがあげられる。

3）「自動アンプル払出し装置を導入し、夜間運転させることにより、注射薬供給業務の効率化をはかる」計画に関しては、機器の導入をすることができず、実現できなかった。

4）これらの状況下で病棟薬剤業務実施加算を維持し、薬剤管理指導料算定件数を増加させたことは、大いに評価できる。一方で、薬剤部員の超過勤務時間が過去最大（600 時間 / 月）を超える月が連続している現状がある。

2．2017 年度の課題・目標

1）病棟薬剤業務の充実と、薬剤部の保険収入の維持

2）目標達成のための人員確保（薬剤師 27 名体制）と残業時間の短縮

3）業務効率化のための機器（自動アンプル払出し装置、散薬調剤ロボット等）の導入

4）SPD を導入して薬剤師の業務軽減をはかり、その時間を病棟薬剤業務にあてる

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数（入院）	抗癌剤無菌調製件数（外来）	薬剤管理指導(I) 件数（380 点）	薬剤管理指導(II) 件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2015年度	48513	1787	1043	1255	7948	1843	2945	12506
2016年度	65788	1885	857	1619	8584	2152	3013	11125

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2015年度	¥4,769,000	¥25,831,000	¥1,658,700	¥1,182,700	¥12,506,000	¥45,947,400
2016年度	¥6,152,200	¥27,898,000	¥1,936,800	¥1,736,200	¥11,125,000	¥48,848,200

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
岡　陽子、渥美弘美、川嶋慎也、垣内祥宏	当院の睡眠剤の処方状況および転倒・転落を起こした患者の処方薬について	第 18 回 日本医療マネジメント学会 学術総会	博多	2016.4
岡　陽子、渥美弘美、小林朋子、垣内祥宏	転倒・転落を起こした患者における睡眠剤の処方状況について	日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会	幕張	2016.8
緑川拓也、高野美穂、山下　篤、垣内祥宏	抗癌剤注射薬の暴露防止を目的とした閉鎖式混合調製器具導入について－経済性と作業性の両面から－	第 17 回日本医療マネージメント学会茨城県支部学術集会	水戸	2016.9

放　射　線　部

【総括】

1．2016 年度の実績報告

4 月に診療放射線技師 3 名の入職、9 月に 1 名の入職で診療放射線技師 28 名、臨床検査技師 2 名で CT、MRI、超音波、消化管造影、血管造影、心臓カテーテル、単純 X 線、核医学、出張検診（胸部、胃部）の画像診断検査を行った。技師の増員による検査効率がアップした為 2015 年度と比べ、病院で CT・MR が 15%増加し、クリニックで CT・MR が 6%増加した。

7 月に病院機能評価更新にあたり、前回審査より高い評価であったが、修正点の改善・見直しを行い更なる努力をしていき、次回は今回以上の評価でクリアしていきたい。

職員の教育として茨城県立医療大の臨床実習生の受け入れにあたり、マニュアルを作成し新人教育に応用した。ヒヤリハット事例は週 1 回の連絡会で職員間の情報共有に努めた。

また造影剤使用時における急変時の対応として、副作用に対するシミュレーショントレーニングを定期的に行った。（5 月、11 月）

学会活動は、つくば放友会に 1 演題を発表した。

2．2017 年度の課題・目標

女性技師の増員（3 名）にあたり今以上に教育環境を整え検診マンモグラフィー認定技師、超音波検査士（体表領域）の習得していき、乳がん検診の増加に対応していきたい。

学会活動は、乳腺甲状腺超音波医学会に演題発表を行っていく。

［文責：星野建仁］

【業務実績】

筑波記念病院（2016.4 ～ 2017.3）

	CT	MRI	上部消化管造影	注腸	超音波	血管造影	心臓カテーテル	単純 X 線撮影	マンモグラフィー	核医学
2015 年度	10,284	3,931	43	50	4,047	90	516	41,782	4,950	269
2016 年度	11,748	4,586	70	39	4,191	108	555	42,918	5,068	277

筑波総合クリニック（2016.4 ～ 2017.3）

	CT	MRI	単純 X 線撮影	骨密度
2015 年度	5,812	3,838	19,010	822
2016 年度	6,114	4,094	19,295	910

つくばトータルヘルスプラザ（2016.4 ～ 2017.3）

	施設内での健診		出張検診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2015 年度	22,178	13,423	12,589	2,616
2016 年度	22,601	13,323	12,551	2,436

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
平井雄大	造影剤検査におけるリスクマネジメント	つくば放友会	筑波メディカルセンター	2016.5.17

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新入職員 23 名（理学療法士 15 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 3 名）を迎え、常勤リハ専門職 205 名（理学療法士 131 名、作業療法士 47 名、言語聴覚士 27 名）、非常勤リハ専門職 3 名（理学療法士 1 名、作業療法士 2 名）の計 208 名で、役職者として部長 1 名、科長 4 名、主任 9 名、副主任 20 名の体制でスタートした。常勤リハ専門職 160.5 名（理学療法士 101 名、作業療法 37.5 名、言語聴覚士 22 名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。茨城県立健康プラザへの理学療法士 1 名の出向は前年度で終了した。2017 年 2 月に主任 6 名が係長に、副主任 10 名が主任に、一般職員 2 名が副主任に昇進し、部長 1 名、科長 4 名、係長 6 名、主任 12 名、副主任 11 名の体制となった。2016 年度の退職者は常勤 19 名（理学療法士 11 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 3 名）であった。2017 年度は 4 月から常勤 45 名（理学療法士 28 名（内、中途 1 名）、作業療法士 14 名、言語聴覚士 3 名）、10 月から常勤 1 名（理学療法士、中途）が入職見込みである。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は 13.2％増、外来は 1.3％増であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は 16.2％増、外来は 23.0％増であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より 1.3％減であった。診療点数に換算すると 0.4％増であった。勤務するリハ専門職の職員数は前年度より 4 名減少し、業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より 6.1％減であった。今年度も昨年度に引き続き医療の質を維持しつつ診療実績の向上に努め、セラピスト 1 人あたりの 1 日あたりの診療実施単位数を前年度より 5.2％増となった。

その他に人材育成のための取り組みとして、前年度に再構築した人材育成のための臨床教育体制を 1 年間運用した。今後、教育効果や教育目標の達成状況、業務効率などの観点から評価し、改善を重ねていく。また、今年度に着任した 3 名のリハ科専門医と共同して、リハ部職員の人材育成に取り組んだ。

2017 年度の課題は前年度に引き続き医療サービスの質の向上及び業務効率の向上である。医療サービスの質の向上のために人材育成のための各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践し、その効果を検証することに取り組んでいく。また臨床の質の向上のために臨床研究を推進していく。業務効率の向上については、医療サービスの質を担保しつつ、業務改善を図り、専ら診療に従事するセラピストについては 1 人あたり 1 日あたりの診療実施単位数の目標を 17 単位以上として取り組んでいく。また患者の病態に応じてリハサービスを提供する体制を一層強化し、患者 1 人あたり 1 日あたりの診療実施単位数の向上を図っていく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを多くの患者へ提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　　）内の数値は 2015 年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	121,202（107,031）
外来	14,616（14,425）
訪問	254（269）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	リハビリテーション	3,644（3,135）
	内、理学療法	3,366（2,874）
	内、作業療法	1,967（1,549）
	内、言語聴覚療法	1,031（832）
外来	リハビリテーション	385（313）
	内、理学療法	199（182）
	内、作業療法	180（115）
	内、言語聴覚療法	109（90）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	237,386（230,928）
	回復期リハ病棟	128,081（134,511）
	医療療養病棟	61,931（69,359）
外来		44,746（43,359）
訪問		540（628）
計		472,684（478,785）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	17,019（17,188）
	回復期リハ病棟	8,566（9,284）
	医療療養病棟	4,195（4,954）
外来		3,585（4,104）
計		33,365（35,529）

患者 1 人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位 / 人）

入院	一般病棟	3.7（4.0）
	回復期リハ病棟	7.3（7.4）
	医療療養病棟	2.6（3.3）
外来		3.0（3.0）
訪問		2.1（2.3）
計		3.9（4.3）

その他の業務実績（件）

嚥下造影検査	63（77）
嚥下内視鏡検査	17（22）
聴力検査	65（67）
リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 5,077（4,600） 2,100（2,338）
退院前訪問指導	266（247）
退院時リハ指導	1,800（1,553）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年 7 回
	つくば特別支援学校	つくば	年 29 回
	土浦特別支援学校	土浦	年 2 回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	常総市児童デイサービスセンター	常総市	年 24 回

【論文】

著　者	論文タイトル	誌　名	巻（号）	ページ	発行年月
松井智世	レビー小体型認知症（Dementia with Lewy Bodies: DLB）における認知機能障害の年次変化率：MMSE および ADAS の 1 年目年次変化率と 2 年目年次変化率の比較	神経心理学	32（2）	194-202	2016.6
椎名勇人	7．介護老人保健施設つくばケアセンター	理学療法いばらき	20	30-32	2016.6
飯塚　陽	Part2　初期教育の最重要点項目　1 ポートフォリオ、OSCE リフレクションを導入　自ら考え学び、行動できる自律した療法士を育てる	回復期リハビリテーション	15（3）	15-17	2016.10

【書籍】

著　者	書　籍　名	監修・編集	担当項目	出　版　社	ページ	発行年月
新井明香	上肢の理学療法	地神裕史、斉藤秀之	第 5 章　脳卒中片麻痺③麻痺側肩、手、手指	三輪書店	130-141	2016.6.1
藤原祐介	上肢の理学療法	地神裕史、斉藤秀之	各疾患への理学療法アプローチ　脳卒中片麻痺②高緊張	三輪書店	130-141	2016.6.1
上木祐介	上肢の理学療法	地神裕史、斉藤秀之	パーキンソン症候群	三輪書店	154-164	2016.6.1
秋山泰蔵	地域包括ケアにおける PT、OT の役割	田中康之、清水順市	シルバーリハビリ体操指導士養成事業	文光堂	105-109	2016.6.1

学会発表

発表者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
宮崎　仁	当院理学療法士に対する mini-CEX による臨床技能評価の試み	第 18 回日本医療マネジメント学会	福岡市	4.22、23
大沢　誠	当院の理学療法士に対する客観的臨床能力試験の試み	第 18 回日本医療マネジメント学会	福岡市	4.22、23
指田高宏	自宅訪問調査の実施における多職種連携の有効性について	第 18 回日本医療マネジメント学会	福岡市	4.22、23
神保敦史	心電計を用いることにより屋外歩行練習が継続できた慢性心不全の一例	第 8 回訪問リハビリテーション協会学術大会 in 東京	江戸川区	6.17、18
鈴木　賢	心臓血管外科手術患者における呼吸機能の経時的回復について	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	千代田区	7.16、17
中根昌城	心大血管術後感染に対する Vacuum-assisted closure が理学療法に及ぼす影響	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	千代田区	7.16、17
土橋　梓	心臓血管手術後における認知機能評価に関する検討	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	千代田区	7.16、17

鈴木　賢	当院心臓血管外科手術患者における入院経過の特徴　後期高齢者での検討	第 17 回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	水戸市	2016.9.3
相原佑樹	学童期に自傷行為が問題となった症例の作業療法を経験して	第 50 回日本作業療法学会	札幌市	9.9～11
多田隈彩織	脳梗塞発症により社会との関わりが狭小化したクライエントに対する支援	第 50 回日本作業療法学会	札幌市	9.9～11
小島奈穂	摂食障害を呈したびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の症例を経験して−がん患者における言語聴覚士の役割−	第 22 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	新潟市	9.23、24
松井智世	重症くも膜下出血後の嚥下障害に対して長期的にバルーン拡張法を施行した 1 例	第 22 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	新潟市	9.23、24
松井智世	遷延する嚥下障害に対してバルーン拡張法が有効であった 3 症例	日本脳神経外科学会第 75 回学術総会	福岡市	9.29～10.1
西巻智貴	上腕骨人工骨頭置換術を施行した患者の肩関節可動域を獲得して	第 4 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10.3
冷岡朋美	回復期リハ病棟入棟時に低栄養であった患者の栄養状態の推移	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.28
梁瀬翔矢	胸腰椎圧迫骨折患者の在院日数長期化の要因について	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.27
小野亮介	当院における大腿骨頸部骨折患者の入院期間に及ぼす要因について	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.27
土橋　梓	当院心大血管手術前後の後期高齢者における認知機能の変化	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.27
渕田隆洋	当院の急性期整形外科病棟における THA 患者の早出介入の現状と課題	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.27
唯野　真	急性期理学療法効果と臨床経験年数との関係	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.28
藤沢　遼	維持期脳卒中患者の下腿三頭筋の痙性に対する電気刺激療法の経験	第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会	横浜市	2016.10.29
田中直樹	Effect of gait training using a foot-pad type locomotion interface compared with body weight support treadmill training in chronic stroke patients.	American Congress of Rehabilitation Medicine 93rd Annual Conference	Chicago	2016.11.3
山崎成美	頸部クリッピング術後嚥下障害を呈した一症例	つくば圏 ST 症例検討会	つくば市	2016.11.20
細田菜穂子	くも膜下出血と脳幹梗塞を発症し、スピーチカニューレでの発声に苦渋した一症例	つくば圏 ST 症例検討会	つくば市	2016.11.20
小林俊平	閉じこめ症候群を呈した症例に対する嚥下訓練の経験	つくば圏 ST 症例検討会	つくば市	2016.11.20
八木みゆき	特別支援学校の現場実習における作業療法士評価の有効性	第 2 回北関東信越ブロック学会、第 19 回群馬県作業療法学会	前橋市	2016.12.3
木村恵理	症例と家族の思いに寄り添った退院支援～真意を見極める関わりとは～	茨城県作業療法学会	阿見町	2017.2.19
渡辺恵美子	化学療法中に骨折を呈した症例	茨城がん学会	水戸市	2017.2.19
飯野和徳	当院のアウトカム評価における算出対象除外患者の実績指数について	回復期リハビリテーション病棟協会第 29 回研究大会 in 広島	広島市	2017.2.10
冷岡朋美	くも膜下出血後脳幹梗塞による四肢麻痺、気管切開症例に対する回復期でのコミュニケーションエイド導入の経験	回復期リハビリテーション病棟協会第 29 回研究大会 in 広島	広島市	2017.2.10
中根昌城	103 歳の腹部大動脈瘤破裂患者に対して緊急 EVAR を施行した一例	日本心臓リハビリテーション学会第 1 回関東甲信越支部地方課胃	大宮市	2017.2.25
菅生真行	当院開心術後における術前身体機能の指標と術後リハビリテーションの相関性の検討	日本心臓リハビリテーション学会第 1 回関東甲信越支部地方課胃	大宮市	2017.2.25
土橋　梓	急性期病院の地域連携のあり方～開心術後における申し送りからの一考察～	日本心臓リハビリテーション学会第 1 回関東甲信越支部地方課胃	大宮市	2017.2.25

柴田若菜	術後せん妄のリスクがあった患者に対する理学療法士と家族の連携	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
大野裕司	呼吸不全患者に腹式呼吸を併用した上肢挙上運動を指導した経験について	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
岡野彩花	緩和的リハビリテーション段階の悪性リンパ腫患者に対する ADL 向上を目指した治療アプローチの経験	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
川﨑篤志	脳梗塞再発後に重症片麻痺を呈した症例に対する基本動作獲得を目指した治療アプローチの一考察	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
小林由弥	人工股関節置換術施行症例に対し、荷重アライメントに着目した理学療法を経験して	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
武田　萌	腰椎椎間板ヘルニア術後に下肢の筋力低下が増強した症例の理学療法を経験して	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
戸祭主也	自宅での担当者会議を経て自宅復帰した左大腿骨転子部骨折を呈した重度認知症患者を経験して	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
戸島洋介	冠動脈バイパス術後の呼吸器合併症の予防的理学療法を経験して	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
大塚　俊	脛腓骨遠位端骨折後、足関節背屈制限と疼痛により荷重下での歩行が困難となった症例	第５回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.3.12
武田　萌	TKA 後の術後せん妄を経験して	つくば地域リハ・セミナー・第 23 回症例検討会	つくば市	2016.10.3
大塚　俊	頚椎椎弓形成術と左人工股関節全置換術の同時手術を施行した症例　～歩行獲得を目指して～	つくば地域リハ・セミナー・第 23 回症例検討会	つくば市	2016.10.3
大野裕司	リハビリ介入時の情報を多職種と共有することで、経口摂取に至った症例	つくば地域リハ・セミナー・第 23 回症例検討会	つくば市	2016.10.3
永野智幸	BiPAP の操作が困難だったが自宅退院が可能となった症例～キーパーソン以外の家族に着目して～	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
岡田洋平	Pusher 現象により車椅子座位時に姿勢崩れを認めた患者に対し腹臥位をとることで車椅子座位の姿勢崩れが軽減した一症例	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
村山　潤	意欲的な活動を通して自尊感情の向上に伴い ADL が向上した症例	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
古川奈々美	精神発達遅滞のある患者の環境調整を経験して	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
角田　顕	脳梗塞片麻痺患者に対し歩行感覚提示装置を使用し、歩行能力が向上した症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
杉山　純	くも膜下出血を呈し、視覚的フィードバックを利用した介入を施行した症例	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
飯田沙矢香	創作活動を通し、家族との交流の満足度が向上した症例	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12
神宮史明	中学硬式野球チームに対するトレーナー活動の報告～１年半の活動のまとめと今後の課題について～	つくば地域リハ・セミナー・第 24 回症例検討会	つくば市	2017.3.12

座長・パネリスト

座長・パネリスト名	セッション名	学　会　名	開　催　地	開催年月
山口普己	高次脳機能障害・認知症７	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.29
下田美由紀	チームアプローチ５	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.28
飯塚　陽	退院支援フォローアップ	回復期リハビリテーション病棟協会第 29 回研究大会 in 広島	広島市	2017.2.10 ～ 11
渕田隆洋	セッション C	茨城県理学療法士会第 4 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2016.10.2
藤原祐介	セッション D	茨城県理学療法士会第 4 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2016.10.2
宮崎　仁	業務改善 4	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.29
渡辺　崇	事例報告Ⅳ難病、終末期	第 8 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 東京	江戸川区	1016.6.17
宮本輝明美	業務改善 5	リハビリテーションケア合同研究大会茨城 2016	つくば市	2016.10.29
飯野和徳	ADL、IADL、QOL、参加	回復期リハビリテーション病棟協会第 29 回研究大会 in 広島	広島市	2017.2.10
神宮史明	セッション G	茨城県理学療法士会第 4 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2016.10.2

講師

講師名	テーマ	講演会名	開　催　地	開催年月
西川浩子	小児・重症心身障害児のリハビリテーション	平成 28 年度訪問看護専門分野研修	水戸市	2016.10.16
山倉敏之	認知症の予防とリハビリ	平成 28 年度キャラバンメイト総会　スキルアップ研修	つくば市	2016.6.23
金森毅繁	EPDCA サイクルの実践例および部下の育成について（急性期）	日本理学療法士協会 第 1 回中央研修会	品川区	2016.6.5
中楚聡美	学校訪問から他機関連携へつながった一事例	第 7 回「教育と医療」連携研修会	阿見町	2016.8.25
田中直樹	生活関連－免荷型歩行練習	平成 28 年度茨城県社会リハビリテーション専門職人材育成研修会	つくば市	2016.12.3
田中直樹	「D－3理学療法の研究方法論(EBPT 含む)」	第 16 回新人教育研修プログラム研修会	阿見町	2016.8.30
田中直樹	筋力増強運動	茨城県理学療法士会　骨関節系疾患に対する治療	阿見町	2016.7.17
田中直樹	関節可動域治療の基本	茨城県理学療法士会 運動器系疾患に対する関節可動域治療手技	土浦市	2016.6.12

臨 床 検 査 科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

臨床検査科は、生理検査部門、病理・細胞診検査部門、検体検査部門の３部門に分かれている。臨床検査技師の人員構成は、各々、29 名（非常勤６名を含む)、３名、１１名である。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。

当院の人員として、４月に新卒者２名が、９月に非常勤１名が入職した。

2．業務実績

生理検査部門は､心電図や UCG など循環器系の検査項目が前年度よりも増加した。11 月から､THP のオプション項目として、ABI を採用した。また、2017 年１月より、聴力検査がリハビリテーション部より検査科に業務移行した。

病理・細胞診部門では、細胞診検査は、全て院内実施（健診分も含む）し、増加傾向が継続している。骨髄穿刺時の標本作成、染色、結果の管理などにも関与しており、件数も増加した。

検体検査部門では、検査委託先を変更して５年が経過した。パニック値や院内検査項目見直しのため、各診療科にアンケート調査を実施し検討中である。迅速検査（ＰＯＣＴ）は､昨年から富士フィルムの検査機器を導入し、インフルエンザキットを使用している。今年度からは、更にマイコプラズマやアデノウィルスキットの使用も開始した。院内感染対策の一環として、薬剤感受性試験の変更とアンチバイオグラムの作成を行った。

3．教育実績

持ち回りで講師を決めて、月１回の科内ミーティングで勉強会を実施している。年度末には、科内発表会も開催している。また、認定資格の新規取得実績であるが、消化器領域の超音波検査士２名、表在領域の超音速検査士１名であった。

4．2017 年度の目標

＊血管診療技師、超音波検査士、細胞検査士など各種認定技師の更なる取得を目指す。
＊輸血室を立ち上げ、輸血管理料などの算定をとる。
＊検体検査委託業者と伴に、新規検査項目の検討、実施を行う。
＊診療科から要望のある生理検査項目（ＮＯ測定やＳＡＳなど）の実施を目指す。
＊病理部門システムの構築を行いＣＩＳと連携する。

［文責：大森美恵子］

【業務実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
外来 ECG	872	841	1,006	908	898	837	871	866	915	854	822	948	10,638	887
病棟 ECG	184	209	235	191	206	222	220	202	178	188	228	273	2536	211
24ECG	86	99	118	88	112	91	122	116	120	106	112	133	1,303	109
TET	6	4	6	8	6	6	4	5	5	5	2	6	63	5
UCG	424	451	525	425	437	419	442	448	454	476	477	503	5,481	457
下肢エコー	33	42	58	66	63	54	60	52	58	44	61	64	655	55
ABI※	74	79	110	114	87	99	108	113	103	98	109	121	1,215	101
肺活量	133	125	158	126	136	130	154	138	122	180	181	186	1,769	148
脳波※	33	55	85	72	67	72	85	82	66	71	77	100	865	72
伝速	8	4	7	5	11	6	3	8	6	4	8	11	81	7
ＭＥＰ	2	6	5	3	2	3	1	2	5	3	3	2	37	3
SAS	6	4	6	4	6	7	10	15	9	11	22	21	121	10
UBT	49	69	73	48	50	63	55	51	53	68	63	67	709	59
CGM	1	1	3	3	4	4	2	4	3	3	3	3	34	3

※つくばトータルヘルスプラザのドック件数を含む

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
病理	290	234	368	295	256	302	308	303	257	304	311	345	3,067	256
細胞診※	645	659	941	906	890	1,046	1,075	989	904	903	906	1,055	10,919	910
骨髄穿刺	18	26	26	27	25	30	22	22	22	29	33	27	307	26

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

■は 2015 年度より増加した検査項目

臨 床 工 学 科

【総括】

１．実績報告

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室における手術・検査であるが、ほぼ全てに於いて増加している。ここ数年増加傾向が続いている。

生命維持管理装置で人工呼吸器管理が大幅に増加しているが、これは非侵襲的陽圧管理（ＮＰＰＶ）の使用が増えたことによる。

血液浄化業務は、血液透析（ＨＤ）が昨年に比較し増加している。表には記載されていないが、血液浄化における潰瘍性大腸炎の治療法である顆粒球吸着療法（ＧＣＡＰ）が２０件施行して全体の数を増やしている。

医療機器点検では除細動装置及び患者監視装置が増えている。除細動装置に関しては新たに設置機器が増えたことによるものである。患者監視装置については、緊急時の記録時間の基準として患者監視装置の時計が検討された。従来年２回の定期点検時に時計精度点検を実施していたが、精度を上げるべく日常点検で精度点検を実施した結果、件数が増加した。

２．課題・目標

Ｓ棟病棟が開設して１年が経過し、各病棟の業務が順調になると共に、患者監視装置や人工呼吸等様々な医療機器が必要とされてきている。機器の管理は勿論だが、その時々最も関心がもたれる医療機器を中心に勉強会を定期的に開催することを目標にしていく。

各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、各種資格取得に取り組んでいく。

［文責：島田卓郎］

【業務実績】

技術提供

	2015 年	2016 年
開心術	60 件	84 件
人工心肺	58 件	71 件
大動脈ステント	19 件	50 件
自己血回収	254 件	288 件
心臓カテーテル検査	562 件	618 件
緊急心カテ※	51 件	76 件
ＰＣＩ※	184 件	217 件
緊急ＰＣＩ※	28 件	41 件
アブレーション	73 件	80 件
ペースメーカ植込み	35 件	43 件
ICD 植込み	8 件	5 件
CRT 植込み	1 件	1 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※（緊急）は上位項目に含む

血液浄化施行実績

	2015 年	2016 年
血液透析（HD）	45 件	95 件
持続緩徐式血液濾過透析	47 件	51 件
血液浄化	32 件	47 件
合計	124 件	193 件

生命維持管理装置管理実績

	2015 年	2015 年
VAD	0 件 /0 日	0 件 /0 日
IABP	16 件 /46 日	10 件 /35 日
PCPS	7 件 /10 日	2 件 /3 日
人工呼吸器	554 日	2237 日
ペースメーカ	450 日	512 件
ICD	115 件	101 件
CRT	48 件	40 件

医療機器点検

	2015 年	2016 年
シリンジポンプ	192 台	189 台
輸液ポンプ	296 台	276 台
除細動装置	3798 台	4305 台
人工透析装置	554 台	570 台
患者監視装置	3966 台	6822 台

勉強会

開　催　日	項　　目	対　象	講　　師	内　　容
５月	CARTO3 システム	ＭＥ	Ｊ＆Ｊ	CARTO3 取扱説明
５月	人工呼吸器	病棟	臨床工学科	Servo i　取扱説明
６月　計４回	人工呼吸器	病棟	臨床工学科	Servo i 、V60　取扱説明
８月　計２回	除細動器	病棟	臨床工学科	TEC-5600　取扱説明
９月	患者監視装置	病棟	臨床工学科	DS-7780、DS-8100　取扱説明
１０月	CARTO ４システム	ＭＥ	ＤＶＸ	CARTO ４ 取扱説明
１１月	ＧＣＡＰ	ＭＥ	JIMRO	アダカラム取扱説明
１１月	ＰＣＰＳ	病棟	臨床工学科	エマセブ、560　取扱説明
１２月　計２回	人工呼吸器	ＭＥ	日本光電	HAMILTON-C1 取扱説明
１２月	除細動器	ＭＥ	日本光電	TEC-8300　取扱説明
１２月	生体情報モニタ	ＭＥ	日本光電	BSM-1700 取扱説明
１２月　計２回	自己血回収システム	病棟	臨床工学科	セルセーバー概要説明

資格取得

体外循環技術認定士	２名
人工心臓管理認定士	１名
３学会合同呼吸療法認定士	２名
透析技術認定士	１名
臨床ＭＥ専門認定士	１名

栄　養　科

【総括】

1．2016 年度の実績報告

８月に育児休暇の管理栄養士が1名復帰したが、６月に1名･12月に1名が産休で休職、９月に１名が退職となった。３月から管理栄養士１名が NST 専従となった。そのため、昨年度より３名減の体制となっている。また、９月から顧問が着任した。

・栄養指導対象の拡充

診療報酬改定に伴い、新たに栄養指導項目（がん・摂食嚥下機能低下・低栄養）を追加した。また、当院で実施していなかった内視鏡的治療後の栄養指導を導入した。

・心臓リハビリテーション集団栄養指導の開始

心臓リハビリテーションチームによる集団指導に、新たに管理栄養士が加わった。

・NST 加算算定開始

管理栄養士１名を NST 専従とし、３月より NST 加算の算定を開始した。

2．栄養学臨地実習生受入実績

常磐大学 人間科学部 健康栄養学科　４名

女子栄養大学 栄養学部 実践栄養学科　１名

3．認定取得

静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士　１名資格取得

栄養経営士　２名資格取得

4．2017 年度の課題・目標

・栄養管理計画書の作成率増加

・入院個人栄養指導件数：100 件／月

・NST の介入患者増加

［文責：松川祥子］

【業務実績】

栄養指導件数推移

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
病　　院	栄養指導（個人）	381	415	629
	栄養指導（集団）	6	9	26
クリニック	栄養指導（個人）	863	790	590
	栄養指導（集団）	62	58	48
栄養指導実施件数合計		1312	1272	1293
T　H　P	ドック後の指導	－	269	46
	特定保健指導	－	37	58
	スマートライフプログラム（集団）	－	全３回×２クール	全３回×４クール

【学会・講演・セミナー等】

発表者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
矢部義人	ブレーデンスケールと MNA-SF を用いた、NST 介入患者抽出方法の検討と褥瘡治癒・発生予防の取り組み	第 36 回食事療法学会	高知	2017.3

医療相談室

【総括】

2016年4月より、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの一つとして、地域連携患者サポートセンターが開設された。入院時から医師の判断のもと、MSWや退院支援看護師が本人家族の意思や家庭環境を考慮し、看護師やリハビリ、ケアマネージャー、介護保険サービス事業所と協働して在宅医療への移行を迅速に援助する体制を整えている。医療相談室では、4名の社会福祉士と6名の退院支援看護師、1名の社会福祉主事が所属し、診療報酬改定で新たに設立された退院支援加算1の取得に取り組んだ。退院支援加算の総数としては、2015度485件、2016度944件と大幅に増加している。各病棟に退院支援看護師が配置されたことにより、早期に退院支援が必要と思われる患者を抽出し、在宅復帰に向けた多職種連携に取り組めている。2016年1月には地域包括ケア病棟が開設され、医療の継続を病院から在宅へという地域包括ケアシステムの構築において当院が果たす役割が求められている。今年度は、地域において当院の各病棟の機能を充分発揮できるよう、スムーズな受け入れ体制を構築していく。

2017年度の課題としては、社会復帰援助や経済的問題の解決援助、心理・社会的問題の解決援助、地域活動など、多様化する患者のニーズに沿ったソーシャルワークを目指し、地域ケア会議や各種研修、学会に積極的に参加し、MSW業務の理解を深めていきたい。

［文責：佐藤直子］

【業務実績】

MSW･退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1,503
内　訳	自　宅	990
	病　院	74
	施　設	227
	死　亡	212

退院支援加算

		加算2(4･5月)	加算1(6月～)
総　数		110	834
内　訳	急性期	94	606
	回復期		133
	地域包括		54
	療　養	16	41

相談件数

総　数		9,551
内　訳	退院調整	8,302
	転院相談	814
	医療費相談	44
	苦　情	5
	外来・院外	347
	社会資源	39

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		297	58	97	142
内　訳	急性期	22	15	5	2
	回復期	234	39	67	128
	療　養	41	4	25	12

臨　床　心　理

【総括】

1．2016 年度の実績報告

2016 年度は常勤臨床心理士 2 名体制でスタートし、10 月末より常勤臨床心理士 1 名が育児休暇を終えて業務に復帰したため、以降 3 名での運営となった。臨床心理の業務内容としては心理検査業務･カウンセリング業務･メンタルヘルス業務という 3 領域は変わりないものの、業務実績は各領域で推移が見られた。

心理検査はもの忘れ外来からの依頼による認知症検査の ADAS が 26.4% 増、小児科からの依頼による WISC-Ⅲ知能検査が 68.4% 増で、新版 K 式発達検査に至っては前年度比約 8 倍の実施数となっている。小児科からの依頼のうち 32% が筑波大学付属病院からの検査依頼、9% が坂東市子ども発達センターからの検査依頼と約 40% が他機関からの依頼による実施となっている。一方で精神科からの依頼による人格検査の依頼数は前年度同様減少している。2015 年度で特徴的な動きとしては、数は多くないものの救急外来での認知機能検査の依頼が増えたことが挙げられる。

カウンセリング業務は東京カウンセリングセンターからの業務委託が終了した影響もあり、トータルヘルスプラザでの新規来談者数ならびに継続件数も 62% 減と大幅に減少する結果となった。病棟でのカウンセリング実施は前年度ほどではないものの依頼があり、病棟での実践を得る機会が得られた。

メンタルヘルス業務ではこれまでどおり「こころの相談室だより」は隔月で発行した。3 人体制になってからは徐々に相談者数が増加し、最終的には前年度とほぼ同数の実績となった。研修依頼については前年度に比べ大幅に減少しており、当会における研修のニードが変化してきている可能性が考えられる。

2．2017 年度の課題・目標

業務実績の推移については 2015 年度の体制の不安定さの影響を強く受けていたものと考えられ、体制の安定化を図るとともに各自のスキルアップを引き続き図っていきたい。

これまで同様、すべての業務領域について拡充を図っていくこと、各科からの依頼に対して迅速かつ幅広く確実に応じられる体制づくりを目標とし、特に 2016 年度で大きく業務数の低下したカウンセリング業務について当会内外で周知してもらえるよう PR に努めていきたいと考える。

［ 文責：高橋晶子 ］

【業務実績】

心理検査

病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS- Ⅲ成人知能検査	1
		WISC- Ⅳ知能検査	32
		全訂版田中ビネー知能検査	1
		新版K式発達検査	33
		JART	1
	人格検査	ロールシャッハテスト	3
		バウムテスト	1
		SCT	2
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	296
		リバーミード行動記憶検査	1
		改訂版長谷川式簡易知能評価スケール	14
		MM SE	14
		かなひろいテスト	12
	小計		411
病棟	改訂版長谷川式簡易知能評価スケール		6
	MM SE		5
	かなひろいテスト		2
	小計		13
THP	神経心理検査		559
	小計		559
合計			983

カウンセリング

THP	初回	7
	継続	56
	小計	63
病棟	初回	1
	継続	4
	小計	5
合計		68

メンタルヘルス

相談対応	初回	5
	継続	10
	小計	15
その他	連携・研修会打合せなど	2
	こころの相談室だより発行	6
	小計	8
合計		23

院内研修

種別	研修名	開催年月
石澤美幸	「新入職員対象メンタルヘルス研修」（総務課）	2016.4
高橋晶子	「ストレスマネジメント研修ラダーⅠ」（看護部）	2017.1
高橋晶子	「ストレスマネジメント研修ラダーⅣ」（看護部）	2017.1

地域医療連携部

【総括】

2016年度も引き続き、できるだけ多くの紹介患者を受け入れられるよう病院全体で取り組んだ。疾患別に各診療科の医師に相談依頼をして、救急紹介患者などの受け入れをスムーズに対応する事ができた。

逆紹介も、紹介患者はできるだけ紹介元へ戻し、当院かかりつけではない患者はなるべく地域の医療機関へ逆紹介するよう取り組んだ。

結果的に紹介率・逆紹介率を維持することが出来た。

公開講座や研修会等は開催案内を開催前月と当月に２回送ることで、地域医療機関にも周知されやすくなり多数の参加があった。

2016年度は登録医を24名増員。

来年度も紹介率・逆紹介率の維持、公開講座や研修会の充実、登録医の増員を積極的に取り組んで行きたい。

［文責：生井共和］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
86.0	77.4	79.3	76.1	75.9	75.9	74.4	81.6	80.8	73.0	80.9	76.2	78.1

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
30.2	51.6	42.9	59.4	48.1	60.9	66.1	68.0	80.0	77.9	68.2	70.0	60.3

紹介患者数（筑波記念病院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	141	125	127	128	133	130	117	129	128	142	131	138	1,569	131
（外　来）	85	77	84	84	91	73	67	86	72	70	73	69	931	78
（入　院）	56	48	43	44	42	57	50	43	56	72	58	69	638	53
再診紹介数	56	50	48	48	50	46	51	34	49	46	46	58	582	49
（外　来）	31	29	29	28	26	26	26	17	22	22	20	22	298	25
（入　院）	25	21	19	20	24	20	25	17	27	24	26	36	284	24
紹介状総数	197	175	175	176	183	176	168	163	177	188	177	196	2,151	179
初診割合（%）	71.6	71.4	72.6	72.7	72.7	73.9	69.6	79.1	72.3	75.5	74.0	70.4		73

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
209	221	221	225	217	209	188	206	230	238	244	281	2689	224.1

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

あおやぎ医院	こだま在宅クリニック	成島クリニック
あつしクリニック	コミュニティクリニック・つくば	二の宮越智クリニック
天貝整形外科クリニック	坂根Ｍクリニック	根本クリニック
ありま皮膚科クリニック	酒寄医院	のぐち内科クリニック
飯岡医院	さとうクリニック	のむら耳鼻咽喉科クリニック
飯田医院	柴原医院	花クリニック　南大通り
飯村医院	耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	林医院
池野医院	渋谷クリニック	ひがし外科内科医院
いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	清水こどもクリニック	ヒルトップクリニック
うえの整形外科	仁愛内科医院	広瀬医院
江原こどもクリニック	杉谷メディカルクリニック	広瀬クリニック
太田医院	すぎやま内科皮フ科クリニック	北條医院
大野医院	鈴木医院	ホームオン・クリニックつくば
大穂皮膚科クリニック	高田眼科	ほりかわクリニック
大見クリニック	高田整形外科	緑クリニック医院
岡野産婦人科	竹園ファミリークリニック	みなのクリニック内科呼吸器科
岡野整形外科・内科クリニック	つくば在宅クリニック	南大通りクリニック
小倉医院	つくばシティアすえひろ眼科	宮川内科・胃腸科医院
小田内科クリニック	つくばシティア内科クリニック	宮本内科クリニック
樫村内科消化器科クリニック	つくばシティアビル皮フ科	みらい平クリニック
かつらぎクリニック	つくばセンタークリニック	山中医院
加納医院	つくばねむりとこころのクリニック	渡辺内科クリニック
川井クリニック	寺崎クリニック	ちかつクリニック
菊池内科クリニック	東郷医院	青空ホームクリニック
木村クリニック	東光台内科胃腸科クリニック	せせらぎ在宅クリニック
倉田内科クリニック	中川医院	さくら内科・呼吸器内科クリニック
研究学園いいむら耳鼻咽喉科	長沢眼科	清宮眼科皮膚科
研究学園クリニック	なかざわクリニック	サンシャイン・クリニック

真壁医師会（順不同）

明野中央医院	長倉内科・外科クリニック	あけの元気館前クリニック
阿部田医院	なかはら整形外科医院	ひろせ内科クリニック
飯田医院	中山医院	下館胃腸科医院
大塚医院	仁保内科医院	直江医院
落合医院	根本医院	しもだて中央クリニック
介護老人保健施設マカベシルバートピア	野中医院	さいとう整形外科
かくらいクリニック	秀村医院	おおもり幸町クリニック
菊山医院	古橋医院	のかおい整形外科
菊山胃腸科外科医院	古橋耳鼻咽喉科医院	加納内科胃腸科
ごとうクリニック	松岡整形外科	すわクリニック
坂入医院	三津山クリニック	池田整形外科
砂沼湖畔クリニック	宮本医院	新井内科医院
下條整形外科	山口医院	玉野医院
田崎内科医院	横瀬医院	とみざわハートクリニック
つくし野クリニック	渡辺クリニック	
とやまクリニック	浅田医院	

きぬ医師会（順不同）

荒川医院	耳鼻咽喉科染野クリニック	みぞぐちクリニック
いとう内科胃腸科医院	常総メディカル	横瀬医院
大塚クリニック	須澤醫院	高橋医院
岡本医院	鈴木内科整形外科医院	寺田医院
桜橋クリニック	中島医科歯科クリニック	
しば医院	ふなやま内科クリニック	

（2017 年 3 月 31 日現在）

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

委　　員　　会

運　営　会　議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係わる委員会を統括する。

Ⅱ．会議構成員

◎議長：長澤 俊郎 院長（管理者）

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	9	看護部	1
医療安全推進室	1	感染管理室	1
薬剤部	1	臨床工学科	1
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
本部・事務部	5		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．会議内容

・医療安全委員会、リスクマネージャー部会の報告
・感染対策委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理院内委員会、臨床研修管理委員会の報告
・医療の質向上委員会の報告
・診療情報等の検討

［文責：長澤俊郎］

診　療　協　議　会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、診療の質向上につながる取組に関して検討し実践することを目的とする。

Ⅱ．会議構成員

◎議長：長澤 俊郎 院長（管理者）

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	23	臨床工学科	1
看護部	1	臨床検査科	1
薬剤部	1	栄養部	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	2
リハビリテーション部	1	本部・事務部	8
地域医療連携室	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．会議内容

会議内容

・医事報告

・地域医療連携報告

・地域連携患者サポートセンター報告

・施設基準充足状況報告

・診療に係わる問題の事例について検討

［文責：長澤俊郎］

倫　理　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究及び職域内の規制等について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：柏木平八郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	9※	薬剤部	1
看護部	1	本部・事務部	1

※医局からの委員に病院長が含まれるが、病院長は採決評議には参加できない。

Ⅲ．開催回数（2016 年 4 月～ 2017 年 3 月）

通常開催　10 回　　簡易倫理審査（書類審査）　5 回

Ⅳ．協議事項

通常審査

2016.4.19	身体抑制に関する説明書・同意書
	当会の基本方針の見直しについて
2016.5.10	弁膜症術と冠動脈バイパス術による心臓血管外科手術前後の身体活動量
2016.6.21	摂食嚥下障害に関する継続看護サマリーに必要な情報項目の検討
	筑波記念病院臨床倫理指針の制定について
	血液疾患の治療期間にある入院患者の外出に向けての支援 －介助が必要な状態にある患者の『家に帰りたい』という思いを叶えるために－
	作業の治療的効果の説明がクライアントの作業を使った治療・介入の受け入れに与える影響
2016.8.2	人工股関節形成術の術後鎮痛に対する観察研究
	線維筋痛症の臨床像の研究（仮題）
	歩行感覚提示装置を用いた歩行リハビリテーションが脳卒中患者に与える効果の検証
	弁膜症術患者の退院後の身体活動量に関する因子の検討
2016.9.20	動脈洞交会の形態の左右差に伴う偽性後頭葉血流低下の検討
2016.10.18	摘出組織検体等の研究・学術目的での使用に関する説明書・同意書
2016.11.25	嚥下リハビリテーションにおける多職種連携
	転倒リスクの高い患者とその家族が自宅で安全安楽に過ごすための外泊訓練 －看護師と理学療法士が同行したことによる成果－
	簡略化倫理申請について
2016.12.20	脳脊髄液漏出による低髄液圧症に対する硬膜外生理食塩水持続注入法の実施
	白金製剤抵抗性進行卵巣がんに対する nivolumab 投与
2017.1.31	心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する前向き観察研究（STAR-ACS Study）
	日本における補助人工心臓に関連した市販後のデータ収集（J-MACS）への参加承認
2017.2.28	MRI を用いた慢性疼痛病態特異性の研究（2013 年 6 月）に関する検査追加
	DU-176b 第Ⅲ相臨床試験（非弁膜性心房細動） －既存の経口抗凝固薬の投与が困難な 80 歳以上の非弁膜性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対象二重盲検比較試験－
	脳血管障害による片麻痺患者に対する生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型治療ロボット（HAL-TS01）の下肢体幹運動能力改善効果に関する医師主導治験

簡易審査

2017.1.5	開心術におけるクオリブレスの使い方についての指導の評価と見直し
2017.1.23	第 13 回日本消化管学会総会学術集会 「上部消化管悪性閉塞に対して金属ステント留置後に出血性ショックをきたした IVR で救命し得た 2 症例からの検討」
2017.2.9	第 13 回日本消化管学会総会学術集会 「アダリムマブによる治療を行った腸管ベーチェット病 3 症例の検討」
2017.3.21	第 25 回　日本消化器関連学会週間　第 59 回　日本消化器病学会大会 「機能性消化器障害へのアコチアミドの有効性は、H.pylori 感染の存在に影響されない」
2017.3.30	第 93 回　日本消化器内視鏡学会総会 「ダビガトラン起因性食道炎に心臓カテーテルアブレーション治療が及ぼす影響と背景因子の後方向視的検討」

Ⅴ．他活動内容

2016.4	新入職員対象講義（委員長）　講義『医の倫理』
2017.1	簡易倫理審査を開始した。倫理委員会の審査が学会などで要求され、さらに急増した。これに対応すべく特別な臨床研修を除き単純な症例報告などに関しては書類審査のみで委員が持ち回りで判定を行うようにした。
2017.2	2017 年 4 月から外部委員 1 名が委員に加わることが決定された。

［文責：柏木平八郎］

治験審査委員会

Ⅰ．目的及び機能

委員会は、審査の対象とされる治験が倫理的及び科学的に妥当であるか否か、その他当該治験を実施することが適当であるか否かを審査する。

実施中の治験においては、治験を継続して行うことの適否について審査する。

また、委員会は、GCP 省令及び答申 GCP の掲げる「治験の原則」を尊重し、すべての被験者の人権、安全及び福祉を保護し、社会的に弱い立場にあるものを被験者にする可能性のある治験の場合には、特に注意を払わなければならない。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小林 栄喜

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	筑波総合クリニック	1
看護部	1	本部・事務部	2
薬剤部	2	外部委員	2

Ⅲ．開催回数

0 回

Ⅳ．協議事項

今年度、治験審査案件なしのため委員会開催なし

［文責：小林栄喜］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、医療に係わる医療安全体制の確保、及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	4	看護部	1
本部・事務部	1	臨床工学科	1
薬剤部	1	医療安全管理室	1

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.27	「安全管理部規約」「医療安全管理委員会規約」「リスクマネージャー部会規約」一部改定を承認。 消毒薬用カラーシリンジ（カテーテルチップ）導入提案。
2016.5.25	消毒薬用カラーシリンジ（カテーテルチップ）導入承認。 麻薬のインシデント事例に対する改善策作成
2016.6.29	「医療に起因する予期せぬ死亡事故発生時対応マニュアル」配布
2016.7.28	院内緊急 Call の適応見直しと掲示方法の統一
2016.8.31	経管栄養目的の胃管挿入時のレントゲン撮影導入について提案。 各部署による業務改善計画書の作成報告
2016.9.28	救急カートの施錠管理について承認 経管栄養目的の胃管挿入時のレントゲン撮影承認。導入開始 10 月 10 日「転倒予防の日」啓発ポスター掲示承認
2016.10.26	点滴異物混入事件報道から、当院の薬剤管理、防犯管理についての見直しと対策を実施。 10 月 3 日～ 10 月 10 日「転倒予防の日」啓発ポスター掲示 医療安全推進週間啓発ポスター掲示承認
2016.11.30	緊急Ｃａｌｌ時の時間管理について統一承認 11 月 20 日～ 26 日医療安全推進週間啓発ポスター掲示報告
2016.12.28	保健所立ち入り調査結果報告。医療安全管理体制の名称について提案。 医師オカレンス報告基準提案、承認。 転倒転落対策チームにおいて転倒予防のための DVD 作成提案、承認。
2017.1.25	医師オカレンス報告入力システム導入開始報告
2017.2.22	医療安全管理体制における名称の変更承認 医療安全推進室の今年度の業務改善について報告
2017.3.29	各部署の今年度の業務改善について報告 ipot 不具合事例報告 薬剤アレルギーの登録方法の統一及び改善について協議。

Ⅴ．他活動内容

・医療事故防止マニュアルおよびポケットマニュアルの審議、整備

・医療事故の分析および再発防止策に関する審議、提言。

［文責：神山幸一］

リスクマネージャー部会

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会規程に基づき、リスクマネージャー部会を設置し、医療安全管理委員会からの連絡や各部署で発生した問題事象の報告について、より実効性のある医療安全対策が実施できる体制を整備するために意見交換を行い、再発防止を図る。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	看護部	18
本部・事務部	1	臨床工学科	1
薬剤部	1	放射線部	1

リハビリテーション部	2	臨床検査科	2
栄養科	1	医療相談室	1
医療安全管理室	1		

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.26	「リスクマネージャー部会規約」一部改定を承認。 消毒薬用カラーシリンジ（カテーテルチップ）導入提案。
2016.5.24	消毒薬用カラーシリンジ（カテーテルチップ）導入承認。 麻薬のインシデント事例に対する審議、改善策作成 前期医療安全管理研修開催案報告
2016.6.28	「医療に起因する予期せぬ死亡事故発生時対応マニュアル」配布
2016.7.19	院内緊急 Call の適応見直しと掲示方法の統一協議
2016.8.23	経管栄養目的の胃管挿入時のレントゲン撮影導入について協議 各部署による業務改善計画書の作成
2016.9.27	救急カートの施錠管理について提案 経管栄養目的の胃管挿入時のレントゲン撮影承認。導入開始 10 月 10 日「転倒予防の日」啓発ポスター作成
2016.10.25	点滴異物混入事件報道から、当院の薬剤管理、防犯管理についての見直しと対策を実施。 「転倒予防の日」啓発ポスター掲示報告 医療安全推進週間啓発ポスター作成
2016.11.22	緊急Ｃａｌｌ時の時間管理について統一協議 医療安全推進週間啓発ポスター掲示報告 後期医療安全管理研修開催案報告
2016.12.20	転倒転落対策チームにおいて転倒予防のための DVD 作成提案。
2017.1.24	医師オカレンス報告入力システム導入開始報告。
2017.2.21	医療安全管理体制における名称の変更承認。 医療安全推進室における今年度の業務改善について報告。
2017.3.28	各部署における今年度の業務改善について報告 ipot 不具合事例報告 薬剤アレルギーの登録方法の統一及び改善について協議。

Ⅴ．他活動内容

・インシデント、アクシデントの分析、改善策を報告、討議し職員に周知する。

・院内安全ラウンドを実施し、医療安全に関するルールの遵守を確認する。

・医療安全ニュースの作成、発行

・医療安全管理研修開催（6 月、12 月）

・医療事故防止マニュアルの改定検討。

Ⅵ．実績

ｉ）職員に対する研修

実　施　日	対　　象	内　　容	参加人数
4 月 1 日	多職種　新入職者	医療安全講話	111 人
5 月 17 日	多職種　新入職者	医療安全報告システムの紹介 安全なベッド環境	98 人

6月6日、9日、13日、16日 （DVD） 6月20日～24日	全職員	前期医療安全管理研修 「筑波記念病院の安全への取り組み」	1070人 受講率98.2%
7月1日	多職種　新入職者	安全な身体抑制器具の使い方	47人
8月18日	多職種　新入職者	正しい検体採取と取り扱い	46人
9月15日	多職種　新入職者	放射線の知識、MRIの仕組みと事故	47人
10月17日	多職種	オーダリングシステムと安全	45人
12月12日、15日、19日、22日 （DVD）12月16日、19日～22日	全職員	後期医療安全管理研修 「当院の防犯対策 －点滴異物混入事件から考える」	1031人 受講率94.5%
1月19日	看護師　検査技師	輸液ポンプの使い方	24人

ii）広報活動

緊急医療安全対策ニュース発行　12回

iii）学会発表

平成27年9月3日　第17回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会
茨城県立県民文化センター
演題「車椅子定期点検の標準化が転倒のインシデント報告減少へ及ぼす効果」
　小林朋子　鶴見幸子　久保田静子　矢中豊子　小關　剛　小關　迪

［文責：神山幸一］

感染対策委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内における病原性微生物の感染を防止するための活動の大綱を定め、院内感染管理の万全を記することを目的とする。

病院長の諮問機関として、病院長からの諮問事項、感染対策上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討する委員会で、病院として行うべき感染対策上の政策を病院長に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：右田 琢生

部　門	人　数	部　門	人　数
医局	3	薬剤部	1
看護部	1	臨床検査科	1
本部・事務部	1	感染管理認定看護師	1

Ⅲ．開催回数

12回

Ⅳ．協議事項

＊感染対策チーム会議の報告、および審議である

2016.4.27	感染防止対策加算の院内巡視について疑義解釈内容の提示 4月7日インフルエンザによる面会制限解除を行ったが、職員の発生あり要注意 HBワクチン入荷可能となり、5月16日・17日に追加の3回目ワクチン接種を行う 他施設への見学実習に伴い、ウイルス抗体価測定、ワクチン接種計画 感染対策規約の修正箇所とポケットマニュアルの承認
2016.5.25	HBワクチンの追加接種の実施報告 保健所より水痘、伝染性紅斑の報告数増加のお知らせ 感染症対策マニュアルの大幅改訂の承認
2016.6.29	カルバペネム抗菌薬使用が増加したが、不適切な使用なし 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告 薬剤感受性率（アンチバイオグラム）を作成し、医局会で報告。今後、半年毎に提示 新型インフルエンザ等感染症に係る特定接種対象病院への登録の承認
2016.7.28	感染経路別表示（ピクトグラム）の配布、使用基準の提示 病院機能評価（7月26日、27日）感染部門の指摘事項等の報告
2016.8.31	感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告 感染防止対策加算1同士の相互チェックの日程決定（10月28日、11月11日） 手指衛生サーベイランス（アルコール払い出し量）徐々に増加傾向 感染性医療廃棄物のダンボール容器導入後の報告 8月の健康診断にてウイルス抗体価測定の実施 保健所より、流行性角結膜炎の増加、麻疹発生の報告
2016.9.28	カルバペネム抗菌薬のMEPM使用量が増えたが、適正使用である 感染管理室において毎週火曜日カンファレンスおよびラウンドの実施を開始 職員のウイルス抗体検査結果報告 麻疹抗体価陰性者６名に対して9月23日緊急ワクチン接種 針刺し事故発生時の説明と同意書の書式変更について検討
2016.10.26	職員のインフルエンザ検査（感度評価）協力依頼の承認 感染症マニュアル変更の承認（ICT業務内容、院内巡視、構成員の変更） 針刺し事故発生時の説明と同意書の書式変更（別用紙での運用）の承認
2016.11.30	抗菌薬使用について意見交換 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（大圃病院へのラウンド） 感染防止対策加算1同士の相互チェック結果報告 職員へのインフルエンザワクチン接種（11月15日、16日、21日）
2016.12.28	抗菌薬使用に関する権限をもって適正使用への指導依頼あり 保健所立ち入りの報告 CDトキシンの増加。ディフィシルのマニュアル改訂（診断目的の検査をすること）
2017.1.25	CDトキシンの減少、抗菌薬使用量の減少。 インフルエンザのアウトブレイク報告（筑波記念病院、つくばケアセンター）
2017.2.22	重症患者が多く、カルバペネム抗菌薬の使用量が増加したが不適切使用はない 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（筑西市民病院へのラウンド） 2月8日インフルエンザアウトブレイクの終息報告（流行指数35.60と警報レベル） 血液培養よりセレウス菌検出も症状なし 針刺しサーベイランス報告
2017.3.29	抗菌薬使用量は減少。デスカレーションの確認をしていく 流行指数10以下で面会制限解除とする。（3月31日で解除した） 今年度、2類感染症の粟粒結核、4類感染症のレジオネラ症4例の発生届の報告 保健所より、麻疹の輸入感染に対する注意喚起 来年度以降のワクチン接種計画についての承認

［文責：右田琢生］

感染対策チーム委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。感染対策チーム（以下 ICT）の活動内容は感染対策委員会（以下 ICC）に定期的に報告されるとともに、ICC は ICT の活動内容を担保する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：右田 琢生

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	5	臨床工学科	1
看護部	15	医療安全推進室	1
薬剤部	1	本部・事務部	4
臨床検査科	2	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	ケアセンター	1
栄養科	1	委託業者	2

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.12	感染防止対策加算の院内巡視について疑義解釈内容（4月1日付け）の提示 平成28年度より放射線科、生理・臨床検査室、内視鏡室、薬局のラウンドを追加 4月7日インフルエンザの面会制限の解除
2016.5.10	院内ラウンドの疑義解釈の訂正（4月25日付け）の提示 HBワクチン入荷可能となり、5月16日・17日に追加の3回目ワクチン接種を行う 他施設への見学実習に伴い、ウイルス抗体価測定、ワクチン接種を行う（ICU、2号棟3階看護師対象）
2016.6.14	カルバペネム抗菌薬使用が増加したが、不適切な使用なし 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告 平成28年度前期感染対策研修「手指衛生について」開催 保健所より、感染性胃腸炎の注意喚起あり 院内感染対策マニュアル（大幅改訂）とポケットマニュアルの配布
2016.7.12	感染経路別表示（ピクトグラム）の配布、使用基準の提示 新型インフルエンザ等感染症に係る特定接種対象病院への登録の報告
2016.8.9	感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告 厚生局適時調査、病院機能評価の報告 手指衛生サーベイランス（アルコール払い出し量）徐々に増加傾向 8月の健康診断にてウイルス抗体価測定の実施
2016.9.13	カルバペネム抗菌薬のMEPM使用量が増えたが、適正使用である 感染管理室において毎週火曜日カンファレンスおよびラウンドを行う 保健所より麻疹、インフルエンザ集団発生のお知らせ 職員のウイルス抗体検査結果報告 麻疹抗体価陰性者６名に対して9月23日緊急ワクチン接種 ICTラウンド結果を各部署に書面で提示し、改善箇所をフィードバックしてもらう
2016.10.11	MDRP8月・9月に1件ずつ検出あり（保菌） 10月28日、11月11日に霞ヶ浦医療センターとの相互チェック決定 職員のインフルエンザ検査（感度評価）協力依頼

2016.11.8	MRSA減少、MDRP2件あり 11月15日、16日、21日インフルエンザワクチン接種 感染症マニュアルの差し替え（ICT業務内容、院内巡視、構成員の変更） 針刺し事故発生時の説明と同意書の書式変更（別用紙での運用） インフルエンザとノロウイルスの予防、咳エチケットのポスター配布
2016.12.12	CDトキシン12件と増加し、接触予防策の注意喚起 CDトキシンのマニュアル改訂 11月30日保健所立ち入り結果報告 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（大圃病院へのラウンド）
2017.1.10	CDトキシンの減少。抗菌薬使用量の減少 インフルエンザのアウトブレイク報告（1月10日保健所へ報告） アルコール使用量は横ばい
2017.2.14	重症患者が多く、カルバペネム抗菌薬の使用量が増加したが不適切使用なし 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（筑西市民病院へのラウンド） 2月8日インフルエンザアウトブレイクの終息報告（流行指数35.60と警報レベル） 血液培養よりセレウス菌検出も症状なし 針刺しサーベイランス報告
2017.3.14	MDRP2件。CDトキシンは4件と減少 抗菌薬使用量は減少。デスカレーションの確認をしていく 流行指数10以下で面会制限解除（3月31日で解除した） 感染症法届出一覧の配布、マニュアルへの差し替え依頼 今年度、2類感染症の粟粒結核、4類感染症のレジオネラ症4例の発生届の報告 保健所より、麻疹の輸入感染に対する注意喚起

Ⅴ．他活動内容

1．感染防止対策加算に係る年４回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

開 催 日：6月2日（木）、9月1日（木）、12月1日（木）、3月2日（木）

参加施設：筑波大学付属病院、取手北相馬保険医療センター医師会病院、守谷慶友病院、筑波学園病院

参 加 者：右田医師、佐藤医師、長山医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者

2．感染防止対策加算１に係る感染防止対策加算２の施設との合同カンファレンス

開 催 日：5月31日（火）、7月29日（火）、11月29日（火）、1月31日（火）

参加施設：大圃病院、筑西市民病院

参 加 者：右田医師、佐藤医師、長山医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者、相馬看護師

3．感染防止対策加算地域連携加算に係る相互チェック

連携施設：筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、国立霞ヶ浦医療センターの三施設

今年度は霞ヶ浦医療センターとの相互チェック（ラウンド）の実施

開 催 日：10月28日（金）、11月11日（金）

4．院内ラウンド

1）ラウンド回数　５０回、ラウンド人数　延べ２１８名

今年度より薬剤部、放射線科、内視鏡室、臨床・生理検査室のラウンドを実施した。

2）毎週火曜日　ICTミーティングにて感染症サーベイランス、抗菌薬適正使用について検討した

5．従業員に対する研修

実　施　日	対　象　者	内　容	参加人数
2016.4.5	新入職員	感染症対策	110 名
2016.4.5	新入職（研修医）	病院における感染対策の基本	6 名
2016.4.12	新入職員（看護師）	感染予防　現場ですぐに実践するために	53 名
2016.5.17	新・中途入職者	血液・体液曝露対策	98 名
2016.6.6、6.9、6.13、6.16 DVD：5 日間	全職員	前期医療安全管理研修：感染部門 手指衛生について	1070 名 （受講率 98.2%）
2016.6.20	放射線科	安全な造影剤注射の管理 血液・体液曝露対策	15 名
2016.822	看護師ラダーⅢ	患者を守る感染対策（医療器具関連）	25 名
2016.10.19、10.21	医師、看護師、検査技師等	血液培養の基礎知識	51 名
2016.10.13、10.27	看護補助者	環境整備のプロになろう	27 名
2016.11.21	看護師ラダーⅤ	リーダーシップにおける感染管理	17 名
2016.11.21	全職員	N95 マスクフィットテスト体験	62 名
2016.12.16	看護師ラダーⅣ	キャリア開発	13 名
2016.12.12、12.15、 12.19、12.22 DVD：5 日間	全職員	後期医療安全管理研修：感染部門 麻疹、風疹について	1031 名 （受講率 94.5%）

6．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加している。

2016 年 1 月 1 日より検査部門への参加をしている。

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	１９件	１件
感染率	1.75‰	0.09‰

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

※感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルは JANIS 対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	７３件
検出率	6.72‰

［文責：右田琢生］

医療の質向上委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療の質の要素である、診療の質（技術・能力）、設備・機器の質、付帯サービスの質（接遇・その他）、提供体制の質（制度・組織・運営）に関し、各担当から指標となる項目の報告をもらい、さらにこれらの改善に向けての院内での体制を整える。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：鯨岡 結賀

部　門	人　数	部　門	人　数
医局	9	地域医療連携室	1
看護部	4	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	
臨床検査科	1	訪問看護ステーション	1
本部・事務部	4		

Ⅲ．開催回数

８回

Ⅳ．協議事項

2016.4	臨床指数（QI）、2015 年度年報の進捗状況。 委員会規約の改定と承認について協議。
2016.5	臨床指数（QI）、2015 年度年報の進捗状況。 今年度の取り組みについて協議。
2016.7	臨床指数（QI）、2015 年度年報の進捗状況。 今年度の取り組みについて協議。
2016.9	機能評価での指摘事項、委員会の方向性について協議。
2016.11	委員会組織の見直しについて協議。
2017.1	委員会設置等に関する規約、委員会組織図の分類、次年度の委員会の構成委員について協議。
2017.2	委員会管理規約の確認。委員会組織図について協議。
2017.3	委員会組織図、委員会の統合や見直し、年報作成までのタイムスケジュール、臨床指数（QI）の更新、病院機能評価チーム会議での検討事項について協議。

［文責：鯨岡結賀］

臨床研修管理院内委員会

Ⅰ．目的及び機能

初期研修のプログラム、研修医の採用計画、研修課程の評価、研修医の服務など研修医の臨床研修に関する業務全般をつかさどる。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：坂本 俊樹

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	14	本部・事務部	2

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4	研修医日当直について 平成 28 年度研修医募集人数について 茨城県「シミュレーション機器巡回指導」について 臨床研修管理院内委員会規約について 中心静脈カテーテル・肺動脈カテーテル挿入に関する説明書について 病院説明会報告 病院ホームページについて 内科学会指導医について
2016.5	研修医ローテについて 2017 年度初期臨床研修医採用試験について 専門研修プログラム申請状況について
2016.6	研修医が希望する講習会について 病院説明会について 筑波大・2 年目研修医について ハンガリー学生実習について 国家試験対策について 筑波大学医学群医学類クリニカル・クラークシップ連絡会議資料 来年度からの研修医ローテについて
2016.7	研修医ローテについて 研修医が希望する講習会の修了報告 病院説明会報告 国試対策について 2017 年度初期臨床研修医採用試験について 臨床研修管理院内委員会の委員追加について 必修内科ローテについて 選択必修外科ローテについて 病院としての必修ローテについて 臨床研修管理委員会への研修医・コメディカルの参加について 研修医からの指導医評価について 夏休みについて 学生見学について 勤務体制について
2016.8	筑大 2 年目研修医からのアンケートについて 2017 年度初期臨床研修医採用試験について 研修医ローテについて つくば研修医学術集会について 臨床研修管理院内委員会の委員追加について 勤務体制について 研修医の処方権について 研修医が単独で行ってよい行為、行ってはいけない行為について 病院機能評価後の検討内容として 多職種のよる外部委員会・内部委員会への参加について

2016.9	研修医のローテについて 2017 年度初期臨床研修医採用試験について 研修医が希望する講習会について 茨城県主催・実力派講師教育回診事業について 土浦一高病院見学会について 研修医症例発表会について 地域医療：協力施設追加・小豆畑病院 今後の外科ローテについて
2016.10	研修医のローテについて マッチング結果 土浦一高病院見学について 研修医症例発表会について プログラム責任者養成講習会案内 指導医養成講習会案内 研修医の処方権について 今後の外科ローテについて
2016.11	研修医のローテについて 研修医症例発表会について 年末年始の勤務体制について 現在 1 年目の 2 年目ローテ希望 土浦一高病院見学終了報告 研修医の処方権について
2016.12	研修医ローテについて 研修医学術集会の結果報告 年末年始の勤務体制について 現在 1 年目の 2 年目ローテ希望 CPC 予定表配布 各診療科指導医に EPOC にて研修医の評価入力、レポートの承認依頼 救急症例発表会について 臨床研修管理委員会開催案内 茨城県・シミュレーション機器病院巡回事業（1 月～ 3 月） 研修医の処方権について 研修医処方勉強会について ハンガリー学生実習について 今後の外科ローテについて
2017.1	研修医ローテについて 2017 年度他大学からのローテについて CPC について EPOC にて研修医の評価入力、レポートの承認について 救急症例発表会について 初期臨床研修修了認定式について 研修管理委員会規約改訂について 当直後の勤務時間について インシデント報告について 研修医の処方権について 研修医処方勉強会について
2017.2	研修医ローテについて 2017 年度他大学からのローテについて 臨床研修管理委員会について 救急症例発表会について EPOC にて研修医の評価入力・レポートの承認について 初期臨床研修修了認定式について 病院説明会報告 今後の外科ローテについて 研修医の処方権について 研修医処方勉強会について

2017.3	初期臨床研修修了認定式について 今後の進路について 研修医ローテについて 救急症例発表会終了報告 EPOC にて研修医の評価入力・レポートの承認について CPC について 病院説明会報告 地域医療について 当院にマッチングした学生 6 名の国家試験結果について 勤務体制について

Ⅴ．他活動内容

2016.7.16	東京大学病院まるごと探訪フェス 2016（東大病院にて）
2016.7.17	レジナビ 2016 東京（東京ビッグサイトにて）
2017.2.26	レジナビ 2017 金沢（金沢流通会館にて）
2017.3.5	レジナビ 2017 福岡（マリンメッセ福岡にて）
2017.3.12	茨城県臨床研修病院合同説明会（イーアスつくばにて）
2017.3.19	レジナビ 2017 東京（東京ビッグサイトにて）

［文責：坂本俊樹］

臨床研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

研修医の管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。研修修了に際しては、研修医の評価を行い管理者に対し当該研修医の評価を報告する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：坂本 俊樹

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
筑波記念病院	10	筑波総合クリニック	1
つくばケアセンター	1	筑波大学附属病院	1
JA とりで総合医療センター	1	福島県立医科大学附属病院	1
日本医科大学附属病院	1	東京医科大学茨城医療センター	1
つくば在宅クリニック	1	茨城県つくば保健所	1
外部委員	1		

Ⅲ．開催回数

1 回

Ⅳ．協議事項

2016.3	2016 年度臨床研修活動報告 2015 年度初期臨床研修修了者一覧 2016 年度採用結果報告 今後の研修プログラムについて 研修医の勤務体制について

［文責：坂本俊樹］

労働安全衛生委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険又は健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	3	つくばトータルヘルスプラザ	2
看護部	1	つくばケアセンター	1
薬剤部	1	臨床心理士	1
リハビリテーション部	2	放射線部	1
臨床工学科	1	リクルートセンター	1
筑波総合クリニック	1	在宅介護支援センター	1
臨床検査科	1	本部・事務部	3

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4	院内暴力対応マニュアル、2 月実施健康診断について協議
2016.5	有休休暇取得、院内暴力対応マニュアルについて協議
2016.6	週休・有休・残業状況、禁煙教育、刺股訓練について協議
2016.7	8 月実施健康診断、禁煙教育について協議
2016.8	良い行動を行った職員への表彰制度について協議
2016.9	良い行動を行った職員への表彰制度、ストレスチェック制度について協議
2016.10	良い行動を行った職員への表彰制度、ストレスチェック制度について協議
2016.11	良い行動を行った職員への表彰制度について協議
2016.12	良い行動を行った職員への表彰制度について協議
2017.1	職員満足度調査、2 月実施健康診断について協議
2017.2	2 月実施健康診断、職員満足度調査、ストレスチェック集団分析結果について協議
2017.3	職員満足度調査分析結果について協議

［文責：長澤俊郎］

防火・防災委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能を出来る限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などを通して強化していく。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小關 剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	3	つくばケアセンター	1
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	リハビリテーション部	1
栄養科	1	本部・事務部	5
筑波総合クリニック	1		

Ⅲ．開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2016.4.28	・メンバーの確認、規約、前年度活動内容、トリアージ訓練の各部署への結果報告 ポケットマニュアル掲載内容確認、消防訓練内容、熊本地震被災地への支援
2016.9.15	・日本医療マネジメント学会報告、消防訓練
2016.10.20	・消防訓練、災害訓練（twitter 確認及びメール返信）、全日本病院協会学会報告、優先行動計画訓練
2017.2.23	・全日本病院協会災害訓練、AMAT 隊員養成研修、大規模災害訓練 DMAT 連絡会議出席報告、トリアージ訓練アンケート途中集計、消防訓練について

Ⅴ．他活動内容

2016.4.14	熊本地震支援（全日本病院協会を通じて食料、義援金等）
2016.4.21	平成 28 年第 1 回消防訓練実施
2016.6.3	第 5 回つくば保健医療圏災害医療連絡会議への参加
2016.6.4	第 1 回災害時の病院管理者等の役割研修への参加（AMAT 研修）
2016.7.9	要小学校での地震訓練への参加
2016.8.26	第 6 回つくば保健医療圏災害訓練への参加（ロジスティクス研修）
2016.9.3	日本医療マネジメント学会　演題発表 「関東・東北豪雨災害を経験して～災害時の EMIS の必要性～」 「BCP（事業継続計画）策定までの過程と今後の課題」
2016.10.8	全日本病院協会学会 in 熊本　演題発表 「BCP をもとに実施した災害訓練から見えてきた当院における DMAT の意義」
2016.10.20	平成 28 年第 2 回消防訓練実施
2016.11.20	茨城 DPAT 隊員研修会への参加
2016.12.3	第 2 回災害時の病院管理者等の役割研修への参加（AMAT 研修）
2016.12.7	日本 DMAT 隊員養成研修への参加
2017.1.19	筑波記念病院　DMAT 指定医療機関に指定
2017.2.5	全日本病院協会救急災害訓練 in 徳島への参加（AMAT 訓練）
2017.2.14	DMAT 連絡会議 in 名古屋への参加

2017.2.18	AMAT 隊員養成研修への参加
2017.3.11	大規模災害訓練実施（優先行動計画見直し）

［文責：小關　剛］

医療ガス安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療法人筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	本部・事務部	5
看護部	2	筑波総合クリニック	1
臨床工学科	1	委託業者	1
薬剤部	1		

Ⅲ．開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2016.9	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2016 年 3 月～ 9 月にかけての修理報告
2017.3	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2016 年 10 月～ 2017 年 3 月にかけての修理報告

Ⅴ．他活動内容

2016.4.27	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 9 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 3 ヵ月人工空気製造装置定期保守点検実施
2016.7.20 ～ 23	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 12 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 6 ヵ月人工空気製造装置定期保守点検実施
2016.10.31	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 3 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 9 ヵ月人工空気製造装置定期保守点検実施
2017.1.27 ～ 31	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 6 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 12 ヵ月人工空気製造装置定期保守点検実施

［文責：神山幸一］

教育研修委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内全職員を対象とした教育研修活動を検討し答申する。また、地域医療連携の視点に立ち、院内のみならず、地域の医療従事者の技術・知識向上のためのさまざまな活動を支援する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：坂本 俊樹

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	6	地域医療連携室	1
看護部	1	本部・事務部	2

Ⅲ．開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2016.4	地域医療関連、感染管理、今後の予定。 接遇・法令関係などの全体研修、図書室について協議。
2016.5	委員会規約の見直し。 部署別教育研修、全体講習会について協議。
2016.6	委員会規約の確認。 全体講習会、地域医療連携公開講座について協議。
2016.8	病院機能評価受審報告。 地域医療連携公開講座について協議。
2016.12	全体講習会、地域医療連携公開講座について協議。
2017.2	全体講習会、竹園高校施設見学、市民公開講座について協議。
2017.3	全体講習会、竹園高校施設見学について協議。

Ⅴ．他活動内容

院内研修

全職員向け講習会

①患者の権利、医療の倫理、個人情報の保護、ハラスメント関連法規とその遵守

講師：檜垣総合法律事務所　檜垣直人　弁護士

日時：平成 28 年 5 月 31 日（火）、6 月 2 日（木）　17 時 45 分より

　　平成 28 年 12 月 2 日（金）、12 月 9 日（金）　18 時 00 分より

場所：S 棟 2 階大会議室・講義室

②接遇

講師：㈱ベターコミュニケーション

日時：平成 28 年 5 月 31 日（火）、6 月 2 日（木）　18 時 45 分より

　　平成 29 年 3 月 10 日（金）、3 月 27 日（月）17 時 45 分より

場所：S 棟 2 階大会議室・講義室

③個人情報保護について

講師：㈱アイ・ビー・エム

日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）、12 月 16 日（金） 18 時 00 分より

場所：S 棟 2 階大会議室・講義室

［文責：坂本俊樹］

輸血管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項。輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討する委員会で、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	薬剤部	2
看護部	3	本部・事務部	1
臨床検査科	1		

Ⅲ．開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2016.6.1	自己血オーダリング・輸血マニュアルについて確認
2016.10.5	輸血同意書について見直し・機能評価結果報告について
2016.12.7	輸血部立ち上げ・輸血マニュアルの確認・修正
2017.3.8	輸血マニュアルの確認・修正、輸血廃棄率報告

［文責：佐藤祐二］

褥瘡対策委員会

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策委員会は、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては、的確な対応が出来ることを目標とする。医療スタッフが連携し、協力して行う。チーム医療を基本として、褥瘡予防対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：照沼 篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	1	栄養部	2
看護部	12	リハビリテーション部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.13	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 マニュアル作成
2016.5.11	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 昨年度の振り返り　今年度の活動確認
2016.6.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 エアマット勉強会（業者）
2016.7.13	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 マニュアル最終確認
2016.8.24	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 コンパテック研修伝達
2016.9.14	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 ニュートリューションセミナー伝達
2016.10.12	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 看護協会研修伝達　エアマット一括管理へ移行
2016.11.9	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 メビレックスの効果と使用方法
2016.12.14	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 シーティング研修（幸和技研）
2017.1.11	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 MNA の評価方法
2017.2.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 役割分担　１．褥瘡予防（ポジショニング・栄養管理・スキンケア等） ２．褥瘡治療（処置方法等） ３．評価方法（DESIGN-R・ブレーデンスケール　OH スケール）
2017.3.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告 ブレーデンスケール勉強会　マニュアル追加

Ⅴ．他活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理していくこと、リスクのある患者をチームで関わり、予防策を検討、実施、NST と連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。

褥瘡対策委員会メンバーのスキルアップに務める。

［文責：大和田加代子］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：飯田 要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	5	薬剤部	3
看護部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.5	新規採用医薬品採用審議　4 件 医療改正について　その他
2016.5.10	新規採用医薬品採用審議　7 件　その他
2016.6.7	新規採用医薬品採用審議　3 件 医薬品集について
2016.7.5	新規採用医薬品採用審議 2 件 後発医薬品採用について モルヒネ塩酸塩注メーカー変更について　その他
2016.9.6	新規採用医薬品採用審議　5 件
2016.10.4	新規採用医薬品採用審議　6
2016.11.1	新規採用医薬品採用審議　8 件 後発医薬品採用について
2016.12.6	新規採用医薬品採用審議　9 件
2017.1.10	新規採用医薬品採用審議　5 件　その他
2017.2.7	新規採用医薬品採用審議　7 件
2017.3.7	新規採用医薬品採用審議　2 件 オキシコドン徐放錠メーカー変更について

Ⅴ．他活動内容

以下の事項を審議する

①医薬品採用の可否に関すること。

②医薬品の適正な使用及び管理に関すること。

③陳旧した医薬品の取り扱いに関すること。

④医薬品副作用等の情報に関すること。

⑤薬局業務に関すること。

⑥その他薬事に関すること。

［文責：飯田　要

］

栄　養　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養委員会は、当院における栄養管理業務の適正化をはかるために行う。栄養管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：坂本 俊樹

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	本部・事務部	3
看護部	2	栄養科	2
薬剤部	1	委託業者	4

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.04	昨年度栄養指導実績報告、委員会規約の改定、構成メンバー変更 摂食嚥下チーム）3 食すべて手作りの嚥下食へ変更
2016.05	栄養科業務の見直し
2016.06	カジキの調理法、栄養管理計画書と栄養指導件数増加について NST）経腸栄養剤の新規採用、NST 加算について
2016.07	嗜好調査結果の周知、栄養指導オーダー、栄養管理計画書追加報告
2016.08	嗜好調査アンケート用紙改訂、インシデント報告 栄養管理計画書および栄養指導の医局会配布資料の検討
2016.09	箸スプーンの予備セット運用開始、インシデント報告 NST）経腸栄養剤の選定について
2016.10	医局会周知と運用開始報告、インシデント報告 NST）経腸栄養剤の企業プレゼンテーション会実施報
2016.11	インシデント報告、嗜好調査アンケート結果報告、残食状況の把握
2016.12	インシデント報告、残食状況の把握についての追加報告 NST）経腸栄養剤に関するアンケート実施報告と選定品承認
2017.01	インシデント報告、栄養科業務の見直し NST）経腸栄養剤に関するアンケート結果と運用報告
2017.02	インシデント報告、病院外来での栄養指導、下膳時間について 摂食嚥下チーム）摂食機能療法加算算定について
2017.03	インシデント報告 NST）NST 実施加算算定開始報告

［文責：坂本俊樹］

NST 委員会

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者の最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治癒・回復・退院及び社会復帰を図る

Ⅱ．委員構成

◎委員長：藤原 淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	1	栄養科	2
看護部	15	薬剤部	1
リハビリテーション部	3	本部・事務部	1

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4	・年度の予定の協議 ・年度の達成目標設定「NST 加算算定開始」
2016.5	・症例報告 ・NST 依頼方法の見直し ・NST スクリーニング方法の検討
2016.6	・症例報告
2016.7	・新規経腸栄養剤導入の検討
2016.8	・新規採用経腸栄養剤を「2kcal/ml 半消化態栄養剤」と「消化態栄養剤」の 2 つに決定 ・NST 加算算定のための「栄養サポートチーム担当者研修会」受講の報告 ・CIS 電子カルテ内に「NST 加算システム」導入を検討
2016.9	・候補に挙がった経腸栄養剤のプレプレゼンテーション会を実施 ・上半期の振り返り
2016.10	・当院における経腸栄養剤のニーズ再調査結果の報告
2016.11	・NST 回診方法の再検討
2016.12	・新規採用経腸栄養剤が「メイバランス 2.0」、「ペプタメンスタンダード」に決定 ・栄養科 2 名、看護部 1 名が研修を終え NST 専任要件を満たしたことを報告
2017.1	・医局会にて、新規経腸栄養剤の採用を周知 ・NST 回診前の事前回診を実施開始
2017.2	・NST 専従を栄養科から選出し、2017 年 3 月から NST 加算の算定を開始することを決定 ・NST マニュアルの改定について
2017.3	・今年度の振り返り ・褥瘡患者の NST スクリーニングについて ・医事課・オーダリングヘルプデスク協力のもと NST 加算システムの導入 ・診療報酬における NST 加算について再周知

Ⅴ．他活動内容

・毎週水曜日　15 時から対象患者の回診を行い、栄養状態の改善のための検討を行い、その方法を提案する

・毎月 1 回　委員会を開催し、関連する書類の検討や勉強会、事例検討を行う

・外部の研修に参加し、知識を深める

代表者が参加し、その後伝達講習を行う

［文責：藤原　淳］

救急診療運営委員会

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：榎本 強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	11	本部・事務部	5
看護部	3	放射線部	1

Ⅲ．開催回数

年 11 回

Ⅳ．協議事項

2016.05.16	委員会の見直しについて
2016.06.13	救急車受け入れ体制について
2016.07.11	救急車受け入れ不可症例について
2016.08.08	非常勤医へ対するバックアップについて
2016.09.12	多忙時の救急車受け入れについて
2016.10.17	救急患者の振り分けについて
2016.11.14	救急での対応可能・不可能症例について
2016.12.12	救急搬送患者の再来院について
2017.01.16	救急車受け入れの協力体制について
2017.02.13	救急患者の診療体制について
2017.03.13	医療機器の点検時の救急車受け入れについて

Ⅴ．他活動内容

・つくば・常総地区メディカルコントロール協議会への参加

［文責：榎本強志］

外来診療運営委員会

Ⅰ．目的及び機能

患者さんに質の高い医療を継続して提供するために、筑波記念病院に付属する筑波記念会関連の施設間での外来診療をスムーズに行うことを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	16	本部・事務部	8
看護部	5		

Ⅲ．開催回数

年７回

Ⅳ．協議事項

2016.06.22	発足，本委員会の趣旨，各施設間の問題点について
2016.08.24	各施設間の問題点（外来受診患者の動線等）
2016.09.21	各施設間の問題点（老健入所者の受診方法等）
2016.10.19	各施設間の問題点（ウォークイン患者のトリアージ場所等）
2016.12.21	各施設間の問題点（患者からの外線電話の対応等）
2017.02.15	各施設間の問題点（下血患者の対応等）
2017.03.29	各施設間の問題点（クリニック→病院の診察場所等）

［文責：小關　剛］

手術部運営委員会

Ⅰ．目的及び機能

1）手術部運営は、関係する各診療科の外科手術をはじめとし、インターベンションや観血的診断、治療が安全かつ迅速に行なわれるように、運営することを基本的な考え方とする。

2）手術部の運営は院長の指名する手術部長が、手術室看護師長と共に行なう手術部長は必要に応じ、手術部運営委員会を招集し、手術部が十分に機能を発揮できるよう運営上の諸問題を検討、改善・解決を行なっていく。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	17	看護部	1

Ⅲ．開催回数

定例：毎週水曜日　17：30 ～

臨時：手術部部長が招集した時

Ⅳ．協議事項

毎週	週間手術の調整及び確認（日時、曜日、時間帯の調整）
	麻酔科医の調整（担当麻酔科医の確認、大学への依頼麻酔の確認、ICU 帰室症例の確認）
	手術使用機械、物品の確認：使用重複確認（内視鏡用モニター、関節鏡モニター、C アーム透視装置、マイクロ顕微鏡、腹臥位用支持台、砕石位用レッグホルダー等）

Ⅴ．他活動内容

手術部運営会議

手術部運営会議は手術部部長が手術室の管理、運営に必要と判断した時、手術部部長の招集によって開催される

［文責：神山幸一］

ＩＣＵ運営委員会

Ⅰ．目的及び機能

内科系外科系を問わず、回復もしくは治癒の期待しうる重篤な急性機能不全の患者を収容し、強制かつ集中的に治療を行うことを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：田島 啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	9	臨床工学科	1
看護部	3	本部・事務部	3

Ⅲ．開催回数

年６回

Ⅳ．協議事項

2016.05.16	ＩＣＵ運営規程の見直しについて
2016.07.11	病院機能評価受審へむけての検討について
2016.09.12	病院機能評価機構からの指摘事項について
2016.11.14	ＩＣＵの稼働状況について
2017.01.16	ＩＣＵの設備における問題点について
2017.03.13	ＩＣＵの運営における問題点について

［文責：田島啓一］

臨床検査管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査科の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：井川 昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	1	医事課	1
看護部	3	本部・事務部	2
臨床検査科	3	委託業者	1

Ⅲ．開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2016.5	委員会規約及び委員の確認。診療報酬改定関連の問題はない。
2016.8	機能評価の結果報告。 ①パニック値の再確認。院内でのアンケート調査を実施する。 ②検査終了後の検体保管体制の確認。患者への周知や承諾に関する方法の検討。
2016.11	①パニック値のアンケート調査報告。現状のままで良いとの結果となり、委員会でも承認される。 ②残検体の保管に関する表示は継続して検討。
2017.3	①メンバー交代の承認 ②院内検査項目の見直しを推進。 ③病棟心電図の CIS への取り込み方法の検討。 ④ SAS 検査の充実を図ってほしいと複数の診療科から要望がある。詳細を検討していく。

［文責：井川昌幸］

クリティカルパス委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院内におけるクリティカルパスの普及をはかる。

クリティカルパスの作成・運用、バリアンス評価の方法に関する啓蒙活動及び指導を行う。

効率的な「標準的治療」を目指し、質の高い診療の普及に努める。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小關 剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	5	リハビリテーション部	1
看護部	3	本部・事務部	2
薬剤部	2		

Ⅲ．開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2016.05.17	クリティカルパス運用の現状について
2016.08.23	病院機能評価受審での指摘事項について
2016.10.18	パス運用の必要性について
2017.01.17	新規パス（整形外科）の内容について
2017.03.28	オーダリングシステムでのパス運用について

Ⅴ．他活動内容

日本医療マネジメント学会（全国総会・支部会）への参加

［文責：小關　剛］

がん化学療法検討委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．委員構成

◎委員長：中原 朗

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
がん化学療法に携わる診療科代表医師	4	薬剤部	3
看護部	4	本部・事務部	1

Ⅲ．開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2016.7.11	化学療法レジメン使用数の報告、外来化学療法室からの問題提起
2016.11.24	エルプラット点滴静注液

［文責：中原　朗］

補助人工心臓管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

補助人工心臓装着の適応の検討及び、補助人工心臓管理に関わる治療・看護及び情報を共有して統合的な管理を行うことで、補助人工心臓装着患者の安全かつ適切に管理することにより QOL の向上に努めることを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：末松 義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	リハビリテーション部	1
看護部	6	本部・事務部	2
臨床工学科	1		

Ⅲ．開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2016.5	委員会メンバーの確認。 植込み型補助人工心臓実施施設認定の登録完了報告と委員会規約及び管理マニュアルの追加修正。
2017.3	管理マニュアルの追加修正と J-MACS 説明会参加の確認。

［文責：助川　節］

地域医療従事者研修委員会

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	薬剤部	1
看護部	1	リハビリテーション部	1
放射線科	1	地域医療連携室	1
臨床検査科	1	本部・事務部	3
栄養科	1		

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.1	委員会設置規約・構成委員名簿変更の報告 前年度に行われた公開講座についての反省と今後の課題を協議 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 今年度の予定を協議
2016.5.6	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明
2016.6.3	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明

2016.7.1	前回に行われた公開講座、ESD/ 病理カンファランスについて、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 一般向け市民公開講座についての検討
2016.8.5	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明
2016.9.2	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 茨城シーティングセミナー 2016、内視鏡ライブセミナーについて、案内・説明
2016.10.7	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明
2016.11.4	前回に行われた公開講座、PEG の会、茨城シーティングセミナー、内視鏡ライブセミナーについて 参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 つくば市以外での一般向け市民公開講座についての検討
2016.12.2	前回に行われた公開講座、茨城シーティングセミナーについて、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明
2017.1.13	前回に行われたインターネット講演会についての報告 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 来年度の公開講座についての検討
2017.2.3	委員の変更について 前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 来年度、公開講座の担当部署決め及びその他検討 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明
2017.3.3	前回に行われた公開講座について、参加人数や内容、反省事項 今月予定及び次回予定の公開講座について、詳細内容説明 来年度の公開講座（施設向け・一般市民向け）についての検討

［文責：長澤俊郎］

地域連携患者サポートセンター委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院を利用するかたの医療、介護、福祉、介護予防など、当院の機能と地域の医療、介護サービスを一体化し、利用者のニーズに合わせて切れ目のない支援体制を構築することを目的とする。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	1	居宅介護支援事業所	1
看護部	3	訪問看護ステーション	1
リハビリテーション部	1	訪問リハビリテーション	1
本部・事務部	1	障害者相談支援事業所	1
地域医療連携室	1	つくばケアセンター	1
医療相談室	2		

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.18	地域連携患者サポートセンターの設置、退院支援業務について
2016.5.16	各部署実績報告、退院支援加算算定に向けた取り組み
2016.6.20	退院支援加算の取得状況、居宅介護支援事業所の問題点、改善点
2016.7.11	訪問看護利用者の受診の対応について
2016.8.15	目標設定管理料算定に向けた取り組み、在宅医療体制について
2016.9.12	目標設定管理料の算定方法について、介護保険被保険者の確認方法
2016.10.17	退院支援看護師の病棟配置について
2016.11.14	他院からの転院受け入れ方法について
2016.12.19	医療費未収及び経済的支援が必要な患者への対応について、地域包括ケア病棟の開設について
2017.1.16	施設入所した患者の把握方法について
2017.2.20	地域包括ケア病棟の実績報告、地域連携公開講座について
2017.3.13	各部署実績報告、来年度の各部署の体制について

［文責：長澤俊郎］

DPC 委員会

Ⅰ．目的及び機能

以下のことを検討し答申することを目的とする。

（1）適切な DPC コーディングに関すること。

（2）診断及び治療方法の適正化、標準化に関すること。

（3）DPC の運用方法に関すること。

（4）その他 DPC 業務に係る課題に関すること。

（5）DPC 参加の要件である提出データの作成に関すること。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小關 剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	5	リハビリテーション部	1
看護部	3	本部・事務部	4
薬剤部	2		

Ⅲ．開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2016.05.17	今年度のＤＰＣ係数について 救急医療管理加算と様式１の救急医療の項目不整合について
2016.10.18	夜間看護配置による係数変更について 脳梗塞のコーディング精緻化について
2017.01.17	肺炎のコーディングの精緻化について

2017.03.28	部位不明コードの対策について

Ⅴ．他活動内容

新人オリエンテーション

研修医オリエンテーションでのＤＰＣ指導

［文責：小關　剛］

診療録管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：小關 剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	7	リハビリテーション部	1
看護部	2	栄養部	1
医療安全推進室	1	入退院調整室	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
臨床工学科	1	本部・事務部	6
臨床検査科	2		

Ⅲ．開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

退院要約完成状況の報告、オーダリングシステム更新内容の確認、各部署からの連絡

2016.4	診療録管理員会規約の確認
2016.5	各種書類に関する同意書について協議
2016.6	リハビリテーション実施計画書の運用開始について検討
2016.7	クリニック初診時の外来カルテ（病院・クリニック）準備について協議
2016.8	診療録の監査方法について協議
2016.9	各種同意書の移行について報告
2016.10	職員針刺し事故に関連した説明書について協議
2016.11	診療録カルテ綴り順について協議
2017.1	各種検査オーダー時の施設選択デフォルト設定について協議
2017.2	診療録の記載方法（手書き・シール）について協議
2017.3	摂食機能療法実施計画書の運用開始について協議

Ⅴ．他活動内容

・2016/6/20　診療録監査（消化器内科）

・2016/7/19　診療録監査（消化器外科）

［文責：小關　剛］

地域医療サービス委員会

Ⅰ．目的及び機能

地域医療展開に関する環境整備、医療サービスの充実、状況把握の調査･改善などを目的に、患者満足度調査、待ち時間調査、院内環境巡視などを行う。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：右田 琢生

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	薬剤部	1
看護部	2	放射線部	1
リハビリテーション部	2	臨床工学科	1
栄養部	1	地域医療連携部	1
本部・事務部	3	筑波総合クリニック	2
委託業者	1		

Ⅲ．開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2016.4	2016 年度の活動予定および構成員の確認。
2016.5	患者満足度調査結果の検討。携帯電話利用規程の見直し。
2016.6	ご意見用紙の見直し。
2016.7	ＱＣ活動（品質管理向上に向けた取組み）実態調査。
2016.8	病院機能評価受審後の報告。
2016.9	病院食についてのご意見への協議。
2016.10	病棟デイルームへの電化製品の設置について調査と検討。
2016.11	掲示物ルールの作成。
2016.12	自転車置き場の見直しと新設。
2017.1	インターネット環境の見直し。
2017.2	検査待ち時間についてのご意見対応の協議。
2017.3	置き傘の撤去方法について協議。

Ⅴ．他活動内容

・患者さんからのご意見（「ご意見箱」投函内容）に対する事実確認と対策協議。（毎月）

・院内巡視の実施。（毎月）

［文責：右田琢生］

ITセキュリティ委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内におけるＩＴ関連設備を整理し、情報関連の安全性を確保することを目的に活動し、同時に個人情報保護対策などの活動を行う。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：右田 琢生

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	3	本部・事務部	4
看護部	2	リハビリテーション部	2
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
臨床工学科	1	つくばトータルヘルスプラザ	1

Ⅲ．開催回数

1回（他必要に応じて随時）

Ⅳ．協議事項

2016.7	院内規則等の文書の見直し。

［文責：右田琢生］

企画広報委員会

Ⅰ．目的及び機能

本委員会は、病院長の諮問に基づき、以下のことを検討し答申することを目的とする。

(1) 病院の院内広報紙の制作と配布に関すること。

(2) 院外広報誌の制作と配布に関すること。

(3)「病院パンフレット」、「入院案内」の制作について。

(4) その他、診療に関する以外の制作印刷物に関すること。

Ⅱ．委員構成

◎委員長：右田 琢生

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
看護部	3	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	1	事務部	3
放射線部	1		

Ⅲ．開催回数

13 回

Ⅳ．協議事項

2016.4.11	規約についての確認、2015 年度年報の内容について 記念樹つくば Vol.47 について、記念樹設置場所について
2016.5.9	記念樹つくば Vol.47 について、病院案内・入院案内について 記念樹つくば Vol.48 について
2016.6.13	記念樹つくば Vol.47 について、入院案内について 記念樹つくば Vol.48 について
2016.7.11	入院案内について、記念樹 Vol.48 について 記念樹設置場所について
2016.8.8	記念樹 Vol.48 について、パンフレットについて 記念樹 Vol.49 について
2016.9.12	記念樹 Vol.48 について、記念樹 Vol.49 について ホームページのトップページについて
2016.9.30	ホームページのトップページについて
2016.10.17	記念樹 Vol.49 について、ホームページの修正について
2016.11.14	記念樹 Vol.49 について、ホームページの修正について 入院案内について
2016.12.19	記念樹 Vol.50 について
2017.1.16	記念樹 Vol.50 について
2017.2.13	記念樹 Vol.50 について、災害医療についての報告 記念樹のターゲットについて、記念樹 Vol.51 について
2017.3.13	記念樹 Vol.50 について、記念樹 Vol.51 について、その他

Ⅴ．他活動内容

2016.4　記念樹 Vol.46 発行

2016.7　記念樹 Vol.47 発行

2016.10　記念樹 Vol.48 発行

2017.1　記念樹 Vol.49 発行

［文責：右田琢生］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

外来患者数は昨年度比較にて、若干の減少がみられた。

外科系の対応を広げるとともに予約患者に影響を及ぼさないように、一般外科を別枠にて診療を始め準救急患者の受け入れを充実させた。

また、以前より要望が多かった泌尿器科の医師数を増員した。

来年度は、総合外来・形成外科・リウマチ科・呼吸器内科等の医師数を増員し、総合案内や医療・介護相談窓口を充実させ減少した患者数を大幅に増加に転ずるよう努力する。

［文責：岡田光司］

【業務実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	2,532	2,470	2,599	2,397	2,572	2,464	2,502	2,356	2,572	2,498	2,373	2,701	30,036
消化器内科	1,180	1,140	1,296	1,175	1,241	1,233	1,205	1,140	1,239	1,162	1,243	1,359	14,613
血液内科	291	280	278	258	308	241	289	257	284	264	234	255	3,239
神経内科	275	306	268	296	301	305	284	287	286	296	278	290	3,472
代謝内科	1,076	990	1,171	1,092	1,030	1,088	1,007	952	1,045	959	1,023	1,067	12,500
呼吸器内科	415	353	471	419	416	458	432	436	464	416	417	414	5,111
消化器外科	691	679	748	726	771	709	723	634	713	611	671	699	8,375
呼吸器外科	319	283	405	362	332	347	346	347	318	295	285	332	3,971
心臓血管外科	255	190	323	295	293	273	282	274	304	240	265	325	3,319
脳神経外科	1,525	1,404	1,513	1,518	1,536	1,315	1,532	1,328	1,456	1,366	1,397	1,573	17,463
整形外科	1,832	1,888	2,126	1,864	2,012	2,039	1,911	1,773	2,025	1,777	1,793	2,181	23,221
婦人科	799	686	881	809	763	830	853	820	801	760	725	868	9,595
眼科	1,194	1,045	1,385	1,203	1,003	1,299	1,209	1,164	1,200	1,119	1,116	1,288	14,225
耳鼻咽喉科	951	917	1,113	941	923	939	999	951	986	791	975	1,167	11,653
皮膚科	505	491	582	542	614	578	595	519	526	511	479	512	6,454
小児科	244	193	243	259	278	215	306	299	262	225	236	250	3,010
精神科	235	241	239	250	219	233	234	263	223	226	236	261	2,860
リウマチ･アレルギー科	320	299	357	318	291	375	321	293	337	288	302	327	3,828
形成外科	61	62	68	84	61	44	31	35	74	64	71	54	709
血管専門外来	20	29	23	22	30	31	39	43	33	21	21	28	340
腎臓内科	104	111	114	118	106	107	113	83	125	112	93	113	1,299
乳腺甲状腺外科	319	275	398	354	310	304	338	313	342	266	314	346	3,879
泌尿器科	324	283	321	320	391	305	319	342	347	354	312	367	3,985
内　　科	241	208	279	292	365	402	354	324	338	368	291	331	3,793
一般外科	5	9	8	9	7	22	13	14	8	10	10	6	121
クリニック合計	15,713	14,832	17,209	15,923	16,173	16,156	16,237	15,247	16,308	14,999	15,160	17,114	191,071

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2016 年度の実績報告

2015 年度と比べ、全体的に受診者数は増加した。特に巡回健診受診者数は、2015 年が大きく伸びたので、2016 年度の増加は難しいと考えていたが、2.5％の増加があった。主な要因としては、新規の事業所が増えたことが挙げられる。また、2016 年度よりストレスチェック事業がスタートして、産業医先の事業所を対象にストレスチェックを行った。2016 年度の目標であった 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数 900 名／月に対しては、2 月と 3 月に達成することができ、1 月も 883 名で目標に近づくことができた。

フェニックスの延べ来館者数は、2015 年度に比べて 11.6％増加した。1 日平均延べ来館者数は 92.0 名と目標である 100 名には届かなかった。通所リハビリテーションは、19 名と利用者が増えてきている。引き続き広報活動に力を入れていきたい。

学会や講演活動は、日本総合健診医学会学術大会に 1 演題を発表した。今後も継続して学会発表できるよう取り組んでいきたい。2016 年度は各企業を対象に保健師、理学療法士、トレーナーが密に連携を図り講演活動も開始した。産業医先や巡回健診先に広報活動をしていきたい。

2．2017 年度の課題・目標

2017 年度は新規オプション項目を増やしていきたい。また、閑散期である 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数を 1000 名／月とし、フェニックスの延べ来館者数を 100 名／日とする。通所リハビリテーションについては、利用者の増加に対応できるよう日数を増やしていきたい。学会活動についても、日本人間ドック学会と日本総合健診医学会にそれぞれ演題発表を行っていく。

［ 文責：福原圭介 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		代謝内科	常（HP）
福本　浩太		血液内科	非（THP）
真家紘一郎		血液内科	非（THP）
馬場　直子		血液内科	非（THP）
宮内　　卓		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）
一戸　貴子		循環器内科	非（THP）
中森　　容		消化器内科	非（THP）
福田由紀子		消化器内科	非（THP）

岡田　純代		代謝内科	非（THP）
金津　赫生		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）
柳　　久子		内科	非（THP）
江辺　厚子		内科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）
野中美喜子		小児科	非（THP）
佐藤　　泉		リウマチ・アレルギー科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	612	845	1,182	1,106	1,047	1,047	1,092	1,042	975	824	912	808	11,492
	一泊	0	0	0	4	8	1	1	2	1	2	5	1	25
	脳ドック	10	36	56	54	39	50	57	57	51	51	56	50	567
	レディース	26	12	26	28	25	23	28	17	27	32	35	114	393
ドック		640	860	1,229	1,139	1,085	1,079	1,147	1,091	1,012	877	973	931	12,063
院　内		463	821	1,256	1,343	1,393	1,343	1,360	1,500	1,383	1,357	1,352	1,105	14,676
巡　回		4,034	2,254	2,671	1,372	1,540	1,518	2,068	2,522	710	158	951	460	20,258

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	247	237	273	298	333	296	301	324	308	297	321	352	3,587
乳腺エコー検査	246	229	444	453	478	470	433	436	440	442	443	458	4,972
マンモグラフィ検査	139	178	382	404	387	420	451	407	400	436	450	411	4,465
子宮頸部細胞診	234	309	619	737	682	819	789	756	671	739	717	632	7,704

（件）

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	マンモグラフィ	子宮細胞診
精検指示者数	2015年度	831	73	662	1,157	1,306	229	211	391
	上半期	419	41	298	669	624	131	68	171
精検実施者数	2015年度	180	98	180	76	291	110	66	36
	上半期	71	53	101	44	152	62	41	24

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,148	2,025	2,424	2,291	2,588	2,372	2,340	2,140	1,957	2,130	2,167	2,385	26,967

フェニックスイベント

名　　称	件数	開催日
ハム・ソーセージ作り体験ツアー（通所リハ・障害者対象）	6名	2016.5.9
ノルディックウォーキング体験会	19名	2016.5.28
ノルディックウォーキング体験会	17名	2016.6.26
ノルディックウォーキング体験会	13名	2016.7.31
ノルディックウォーキング体験会	12名	2016.8.28
ノルディックウォーキング体験会	7名	2016.9.25
ノルディックウォーキング体験会	13名	2016.10.30
ノルディックウォーキング体験会	15名	2016.12.25
ノルディックウォーキング中上級者向け	15名	2017.1.29
ノルディックウォーキング中上級者向け	9名	2017.2.26

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
中原　朗、山根一秀、設楽佐代子、本橋　歩、細川芳江、坂本真樹、鈴木美帆、大賀由美子、野口須美子、興野千春、古澤　弦	当院における健康教室の効果と現状 ～女性対象者における食事指導の工夫～	第45回大会 日本総合健診医学会	千葉　舞浜	2017.1
設楽佐代子	ストレスチェック制度について	講演	エステック㈱	2016.5
設楽佐代子、坂本真樹、関澤智光	疾病予防「生活習慣病と言われたら」 ・栄養指導“食事摂取で知っておいてほしいこと” ・運動指導“運動による減量のためのヒントとトレーニングのポイント”	講演	㈱安藤・間技術本部技術研究所	2016.5
坂本真樹、関澤智光	・栄養指導“食事摂取で知っておいてほしいこと” ・運動指導“運動による減量のためのヒントとトレーニングのポイント”	講演	日立化成㈱	2016.7
中原　朗	熱中症	講演	三菱製紙㈱	2016.7
中原　朗	最近の話題（感染性胃腸炎、ノロウイルス感染ルート、食中毒、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザ、麻疹、はしか、風疹、ストレスチェック、電通過労自殺事件など）	講演	東洋インキＳＣホールディングス㈱	2016.1
本橋　歩、鈴木美帆、二瓶久美子	疾病予防「生活習慣病と言われたら」 ・栄養指導“食事摂取で知っておいてほしいこと” ・運動指導“運動による減量のためのヒントとトレーニングのポイント”	講演	大陽日酸㈱ つくば研究所	2016.11
中原　朗	禁煙について	講演	住友化学㈱筑波開発研究所	2016.12
神宮史明	フィジカルトレーニング、身体機能評価	出張指導	学園ボーイズ（元上郷高校グラウンド）	2016.4 ～ 2017.3（月1回程度・計14回）
二瓶久美子	ストレッチ、エアロビクス、ピラティス	出張指導	いきいき体操クラブ（下妻保健センター）	2016.4 ～ 2017.3（月2回程度・計25回）
塚田優子	ストレッチ、頭の体操、低強度の筋トレ、チェアエクササイズ	出張指導	豊里クラブ（大宿公民館）	2016.4 ～ 2017.3（月1回・計10回）

山口可奈、古徳卓也	集団でのボール運動、模倣ゲーム、ストレッチ体操等・つくば市在住障害のある小学生	出張指導	つくば市のびのびスポーツ教室（つくば市いきいきプラザ）	2016.6 ～ 2017.3（月1回･計10回）
関澤智光	糖尿病重症化予防教室（運動）・常総市在住	出張指導	常総市保健福祉部健康保険課（水海道公民館）	2017.2
二瓶久美子、関澤智光	ピラティス、柔軟性チェックと腰痛や肩こり予防体操	出張指導	ダイキン福祉サービス㈱	2016.7 ～ 2017.2（計 3 回）
関澤智光	生活習慣改善のためのヒントと職場でできる運動実技	出張指導	日立化成㈱	2016.7
二瓶久美子	運動を続けるためのヒントとトレーニングのポイント	出張指導	太陽日酸㈱	2016.11
関澤智光	肩こりの予防・改善とウォーキングのポイント	出張指導	東洋インキ SC ホールディングス㈱	2016.11
関澤智光	職場フィットネスルームでのサーキットトレーニング	出張指導	㈱安藤・間技術本部技術研究所	2016.5 ～ 2017.3（月 2 回程度・計 19 回）
秋山泰蔵、古澤弦、山口可奈、（椎名勇人）	介護予防、肩こり・腰痛・膝痛予防	出張指導	つくば市「健幸長寿日本一をつくばから」事業　多世代交流出前教室（出張先はつくば市内）	2016.10～2017.3（月 2 回程度・計 12 回）
神宮史明、雨澤隆穂、古徳卓也	体力測定、ウォーキング教室、パンチングエクササイズ、柔軟体操・	出張指導	住友化学㈱筑波開発研究所	2016.4
古澤　弦、神宮史明	特定保健指導（運動の集団・個別指導）	出張指導	住友化学㈱筑波開発研究所	2016.7 ～ 12（計 3 回）
神宮史明、関澤智光	体力測定・20～50歳代	出張指導	㈱エス・ディー・エス　バイオテック	2016.7（計 2 回）
神宮史明、二瓶久美子	腰痛、転倒予防のためのエクササイズとセルフケア	出張指導	エヌ・イー・ケムキャット㈱	2016.10 ～ 11（計 4 回）

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

1．2016 年度の実績

昨年度、当施設ではご利用者またはご家族の希望に沿った看取り介護の実施に向けて、施設医との 24 時間の連絡体制、併設医療機関である筑波記念病院との連携、吸引等の看護処置体制を整備し、看取り介護を実施した。また、入所希望の方を一人でも多く受け入れることに努めた結果、昨年７月から満床の状態が続いている。今年に入ってからは、従来型から在宅支援型を目指し、満床を維持しつつ在宅復率 30％を達成するべく努めている。

一方、通所リハビリテーションでは利用者数が昨年度と比べて 7％減少しており、増員が課題となった。

訪問リハビリテーションでは、前年の介護報酬改定で明確に示された「SPDCA サイクルに沿った訪問リハビリテーションの実施」と、「利用者の活動と社会参加の獲得に向けた取り組み」について、勉強会を通して考え方をスタッフ間で共有する取り組みを行った。

2．2017 年度の課題・目標

入所では、満床を維持しつつ在宅支援型を実践することを目標とし、在宅強化型も視野に入れて運営に取り組む。また、ご利用者とご家族の満足度向上を目指し、職員の研修等も積極的に行っていきたい。通所では、デイケアの特徴を活かしつつ、ご利用者が楽しめるプログラムを行い利用者数の増加を目指す。訪問リハビリでは、さらに勉強会開催や研修会参加などを積極的に試み、より質の高いサービス提供が実践できるように取り組む。

［文責：磯山誠次］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	98	97	99	103	101	101	103	103	101	106	105	105	1222
ショートステイ（予防含む）	12	10	8	14	13	8	8	7	7	8	7	9	111
通所リハビリ（予防含む）	90	85	88	86	87	87	81	79	80	78	83	83	1007
訪問リハビリ（予防含む）	253	254	250	253	255	248	253	250	262	257	255	252	3042

（単位：名）

【資格保有者数】

正看護師	12 名
准看護師	4 名
介護福祉士	30 名
社会福祉士	2 名
ケアマネジャー	10 名
ヘルパー 2 級	0 名
理学療法士	27 名
作業療法士	7 名
言語聴覚士	9 名

（2016 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容	備　　考
4 月	お花見会	
5 月	母の日会	
6 月	父の日会	
7 月	七夕会	
9 月	納涼祭	ご家族参加者:大人181名、ボランティア26名
	祝寿会	
10 月	運動会	
11 月	演奏会	
12 月	クリスマス会	
1 月	新年会	
2 月	豆まき会	
3 月	ひなまつり会	

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2016 年度の実績報告

訪問看護ステーションでは 4 月に看護師が 1 名配属され、看護師 6 名、法人内兼務の理学療法士 1 名、作業療法士 2 名、事務 1 名（医事課兼務）でスタートした。

実績を見ると、訪問看護延べ利用者数、訪問看護利用件数、訪問看護利用時間とも 2015 年度より上回っている。2016 年度の傾向としては、新規利用者 51 名のうち 19 名が（約 55%）筑波記念病院退院患者で昨年より倍増した。これは、在宅部門カンファレンス等を通して病院との連携が深まり、在宅での看取りやターミナル患者の一時退院が増えたためと考える。

2016 年 9 月には、訪問看護満足度調査を実施した。アンケートの結果、利用者や家族への基本的な関わりや緊急時の対応については満足度が高かった。一方で、訪問する看護師による差や、他職種との連携、看護師からの説明については満足を得られなかったという意見もみられた。

2．2017 年度の課題・目標

2017 年度は、誰が訪問しても差のない看護が提供できるよう、個人のレベルアップとチームワークの強化を図ると共に、院外の他職種との連携に努めていく。訪問看護利用件数は、4000 件を目指す。（毎月 6 件増）

［文責：鈴木房江］

【業務実績】

	引用資料	2015 年度	2016 年度
訪問看護延べ利用者数	利用実績表（期間）：全体［実人数］	681	707
訪問看護利用件数	訪問職員別実績一覧表（実績回数）	3629	3948
訪問看護利用時間	訪問職員別実績一覧表（訪問 / 業務時間）	3910 時間 31 分	4098 時間 23 分

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2015	260	264	223	265	269	250	218	265	278	264	323	253	3,132
	2016	242	246	204	212	225	169	165	190	220	266	219	196	2,554
消化器内科	2015	664	675	731	826	743	710	748	735	778	833	856	796	9,095
	2016	722	773	804	765	866	829	806	784	853	957	854	846	9,859
血液内科	2015	402	377	307	409	416	489	469	437	469	489	457	526	5,247
	2016	459	483	474	493	455	504	496	492	534	639	496	541	6,066
神経内科	2015	138	134	146	150	152	115	149	126	134	112	132	120	1,608
	2016	111	107	114	120	148	127	126	99	96	86	79	75	1,288
代謝内科	2015	40	16	15	29	40	47	50	44	40	68	53	64	506
	2016	39	41	47	66	37	43	48	62	69	87	46	64	649
呼吸器内科	2015	43	56	32	50	56	41	46	42	34	51	48	46	545
	2016	42	48	38	65	57	52	38	29	23	34	24	38	488
消化器外科	2015	222	242	220	250	249	208	221	210	219	191	188	220	2,640
	2016	222	169	220	235	167	171	180	175	190	179	181	164	2,253
呼吸器外科	2015	61	71	62	70	78	63	81	76	73	90	60	72	857
	2016	84	84	55	80	72	68	93	80	91	63	80	73	923
心臓血管外科	2015	118	109	125	125	116	137	164	153	165	158	177	201	1,748
	2016	140	117	161	169	152	151	117	109	132	148	120	142	1,658
脳神経外科	2015	152	134	156	152	139	184	167	175	213	147	166	181	1,966
	2016	190	175	180	172	165	169	144	152	174	171	139	188	2,019
整形外科	2015	504	499	545	555	527	483	518	451	429	445	402	504	5,862
	2016	468	440	427	426	487	484	460	431	465	497	437	433	5,455
婦 人 科	2015	30	37	24	33	27	32	44	32	30	20	28	20	357
	2016	31	23	23	18	25	15	33	22	17	15	13	16	251
眼　　科	2015	15	6	18	12	10	14	19	12	13	17	26	27	189
	2016	19	19	28	14	10	14	17	23	21	19	21	14	219
耳鼻咽喉科	2015	26	25	40	40	37	38	34	37	51	20	30	32	410
	2016	44	36	43	37	45	38	49	45	32	28	36	32	465
皮 膚 科	2015	5	3	11	2	4	5	6	8	4	1	4	0	53
	2016	2	1	2	1	2	2	0	4	2	2	1	2	21
小 児 科	2015	415	439	453	442	442	448	464	453	489	521	453	488	5,507
	2016	460	444	486	499	560	560	549	565	588	561	578	662	6,512
精 神 科	2015	629	571	650	622	652	632	609	578	670	598	579	662	7,452
	2016	657	558	640	634	626	626	621	582	623	575	552	626	7,320
麻 酔 科	2015	25	25	33	36	27	32	28	32	31	37	32	51	389
	2016	54	37	46	35	58	55	45	37	32	36	41	51	527
放射線科	2015	35	20	27	25	43	38	43	40	37	38	42	40	428
	2016	51	42	46	44	44	41	38	40	35	30	43	34	488
リハビリテーション科	2015	11	10	6	14	8	8	5	5	7	3	2	4	83
	2016	2	10	11	2	6	26	30	49	73	68	81	107	465
リウマチ・アレルギー科	2015	9	12	19	12	15	10	17	20	12	3	6	3	138
	2016	7	5	8	3	3	5	4	3	3	1	2	2	46

形成外科	2015	5	8	8	22	14	16	18	10	15	10	11	11	148
	2016	7	6	8	11	11	9	1	1	8	10	7	10	89
血管専門外来	2015	2	0	1	0	2	0	1	0	1	2	7	5	21
	2016	4	3	4	2	4	1	6	2	3	8	5	0	42
腎臓内科	2015	13	9	5	7	9	1	5	4	2	5	6	4	70
	2016	3	4	5	6	3	5	5	4	2	2	4	5	48
乳腺甲状腺外科	2015	178	111	196	175	168	148	208	203	209	191	208	213	2,208
	2016	188	174	209	184	187	163	188	186	171	174	202	193	2,219
泌尿器科	2015	8	8	9	12	13	18	41	28	47	28	26	43	281
	2016	34	21	30	27	21	20	30	34	38	31	34	29	349
内　　科	2015	82	84	67	84	47	66	81	54	58	57	61	58	799
	2016	52	24	83	53	46	94	33	11	8	9	26	7	446
合　　計	2015	4,092	3,945	4,129	4,419	4,303	4,233	4,454	4,230	4,508	4,399	4,383	4,644	51,739
	2016	4,334	4,090	4,396	4,373	4,482	4,441	4,322	4,211	4,503	4,696	4,321	4,550	52,719

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2015	210名	224名	182名	228名	154名	207名	204名	205名	229名	208名	228名	210名	2489名
			207台	222台	180台	225台	147台	204台	202台	199台	224台	207台	225台	210台	2452台
		2016	220名	216名	203名	182名	230名	224名	206名	227名	252名	317名	264名	300名	2841名
			217台	215台	201台	179台	227台	221台	202台	224台	246台	314台	259台	296台	2801台
症度別	入　院	2015	83名	88名	69名	84名	59名	87名	97名	97名	97名	98名	113名	102名	1074名
			40%	39%	38%	37%	38%	42%	48%	47%	42%	47%	50%	49%	43%
	外　来		127名	136名	113名	144名	95名	120名	107名	108名	132名	110名	115名	108名	1415名
			61%	61%	62%	63%	62%	58%	53%	53%	58%	53%	50%	51%	57%
	入　院	2016	96名	105名	90名	84名	95名	100名	99名	112名	132名	183名	162名	195名	1453名
			43.6%	48.6%	44.3%	46.2%	41.3%	44.6%	48.1%	49.3%	52.4%	57.7%	61.4%	65.0%	51.1%
	外　来		124名	111名	113名	98名	135名	124名	107名	115名	120名	134名	102名	105名	1388名
			56.4%	51.4%	55.7%	53.8%	58.7%	55.4%	51.9%	50.7%	47.6%	42.3%	38.6%	35.0%	48.9%
診療科別	内科系	2015	124名	132名	114名	148名	102名	123名	123名	120名	139名	141名	143名	138名	1547名
			0.59	0.589	0.626	0.649	0.662	0.594	0.603	0.585	0.607	0.678	0.627	0.657	0.622
	外科系		86名	92名	68名	80名	52名	84名	81名	85名	90名	67名	85名	72名	942名
			0.41	0.411	0.374	0.351	0.338	0.406	0.397	0.415	0.393	0.322	0.373	0.343	0.378
	内科系	2016	137名	143名	128名	119名	159名	97名	72名	105名	119名	150名	122名	145名	1496名
			62.3%	66.2%	63.1%	65.4%	69.1%	43.3%	35.0%	46.3%	47.2%	47.3%	46.2%	48.3%	52.7%
	外科系		83名	73名	75名	63名	71名	76名	74名	57名	70名	90名	77名	82名	891名
			37.7%	33.8%	36.9%	34.6%	30.9%	33.9%	35.9%	25.1%	27.8%	28.4%	29.2%	27.3%	31.4%
	救急科	2016						51名	60名	65名	63名	77名	65名	73名	454名
								22.8%	29.1%	28.6%	25.0%	24.3%	24.6%	24.3%	16.0%
交通事故		2015	31名	38名	24名	31名	21名	33名	29名	30名	29名	21名	29名	18名	334名
			15%	17%	13%	14%	14%	16%	14%	15%	13%	10%	13%	9%	13.4%
		2016	21名	20名	26名	20名	25名	29名	27名	34名	15名	33名	25名	33名	308名
			9.5%	9.3%	12.8%	11.0%	10.9%	12.9%	13.1%	15.0%	6.0%	10.4%	9.5%	11.0%	10.8%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2015	14名
2016	17名

平均在院日数（一般病棟）

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平　均
循環器内科	2015	12.7	16.1	14.4	10.5	12.1	9.7	11.6	12.3	11.9	11.8	6.7	6.7	11.4
	2016	11.6	10.2	11.4	11.0	9.7	12.4	12.7	10.1	10.0	11.4	10.5	12.0	11.1
消化器内科	2015	14.3	15.5	13.4	15.4	17.2	15.5	15.6	13.9	14.0	16.8	2.1	2.1	13.0
	2016	13.1	13.2	15.8	15.6	14.5	16.4	18.4	15.8	13.0	14.4	15.4	14.0	14.9
血液内科	2015	26.4	24.7	21.6	22.5	20.0	21.7	25.1	22.8	21.1	26.8	4.2	4.2	20.1
	2016	25.0	20.4	19.3	21.2	20.9	21.6	22.0	22.9	18.6	21.8	22.8	20.1	21.3
神経内科	2015				4.0			12.0	1.0	30.0				
	2016			2.0					8.0					6.0
代謝内科	2015	8.7	2.7	3.0	20.6	16.3	11.1	13.7	11.2	14.7	16.1	2.9	2.9	10.3
	2016	14.9	11.9	20.6	10.0	17.2	16.4	18.0	16.4	11.1	13.0	18.8	11.7	14.6
呼吸器内科	2015	31.5	18.8	19.0	22.2	12.3	15.8	13.7	22.7	17.1	20.4	7.9	7.9	17.4
	2016	11.0	23.2	18.0	10.6	15.2	16.1	16.4	16.0	16.5	22.7	24.4	21.0	17.4
消化器外科	2015	12.0	13.2	14.5	13.9	16.3	14.6	13.5	13.0	14.6	13.9	1.3	1.3	11.9
	2016	11.5	17.1	18.0	13.7	15.1	17.3	18.3	13.2	15.3	15.2	14.6	15.5	15.3
呼吸器外科	2015	11.6	18.1	15.0	15.0	9.4	11.8	13.9	14.9	13.0	8.9	3.3	3.3	11.5
	2016	7.7	11.1	17.7	11.9	13.5	11.5	15.4	11.5	12.2	13.2	13.0	18.6	12.8
心臓血管外科	2015	7.5	7.6	8.0	6.3	8.4	8.0	6.6	7.4	11.4	7.5	0.0	0.0	6.5
	2016	10.8	8.4	7.8	8.5	8.8	7.4	8.3	9.0	8.5	10.3	7.8	7.7	8.5
脳神経外科	2015	16.4	20.7	25.9	16.1	29.5	19.7	19.4	21.3	20.7	20.4	13.5	13.5	19.8
	2016	17.7	21.2	21.7	22.3	14.7	21.7	21.1	25.3	21.1	18.7	16.9	14.8	19.2
整形外科	2015	22.4	23.0	27.4	26.3	20.3	28.0	24.7	31.3	23.7	25.2	2.4	2.4	21.4
	2016	21.3	24.2	23.4	23.5	17.3	18.7	22.1	21.5	22.1	22.7	22.1	18.6	21.4
婦人科	2015	3.4	5.3	5.6	6.4	4.7	7.2	4.9	4.4	6.9	7.6	0.0	0.0	4.7
	2016	12.0	7.5	9.8	8.8	6.4	8.7	6.6	7.0	8.0	6.8	8.9	5.7	8.1
眼　科	2015	1.5	2.1	1.9	1.5	1.2	1.9	1.8	1.7	2.0	2.0	0.0	0.0	1.5
	2016	1.0	1.0	1.4	2.5	1.2	1.2	2.3	1.2	1.2	1.3	1.4	1.8	1.5
耳鼻咽喉科	2015	6.1	5.4	4.2	6.5	7.5	7.9	8.4	4.4	5.4	7.0	2.3	2.3	5.6
	2016	5.2	7.5	6.8	9.5	9.9	7.3	5.6	5.7	4.8	4.7	5.9	5.9	6.4
皮膚科	2015			1.0			8.0	18.0	6.7					
	2016							10.0	2.0					6.7
合　計	2015	16.0	15.8	15.1	15.4	14.4	15.7	16.4	17.4	15.7	16.5	16.6	14.7	15.8
	2016	14.7	15.0	15.5	14.9	14.0	15.5	16.4	15.0	14.0	15.6	14.8	14.0	14.9

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2015	1,709	1,785	1,558	1,354	1,161	1,134	1,295	1,210	1,293	1,531	1,410	1,599	17,039
	2016	1,375	1,407	1,274	1,208	1,114	1,312	1,357	1,252	1,293	1,479	1,285	1,512	15,868
消化器内科	2015	1,035	1,182	1,200	1,276	1,356	1,418	1,423	1,354	1,343	1,416	1,577	1,547	16,127
	2016	1,259	1,487	1,498	1,724	1,647	1,758	1,796	1,521	1,364	1,747	1,785	1,874	19,460
血液内科	2015	1,796	1,704	1,571	1,410	1,253	1,171	1,416	1,464	1,387	1,579	1,698	1,838	18,287
	2016	1,639	1,719	1,602	1,460	1,559	1,586	1,665	1,680	1,616	1,849	1,598	1,958	19,931
神経内科	2015	492	421	360	349	211	157	133	155	182	136	98	104	2,798
	2016	113	128	167	135	109	67	73	68	94	108	82	90	1,234
代謝内科	2015	13	4	3	103	106	89	123	73	85	134	112	188	1,033
	2016	171	133	143	215	220	295	255	279	167	211	232	211	2,532
呼吸器内科	2015	134	345	229	313	263	237	349	450	380	516	493	417	4,126
	2016	369	411	415	300	365	343	367	385	381	620	643	628	5,227
消化器外科	2015	913	856	1,017	1,036	1,006	856	849	892	1,076	974	829	688	10,992
	2016	750	965	909	961	899	832	1,075	758	773	708	898	987	10,515
呼吸器外科	2015	396	375	275	279	275	231	346	481	391	280	285	271	3,885
	2016	182	346	289	305	331	283	237	266	299	189	225	279	3,231
心臓血管外科	2015	198	186	183	223	261	221	268	324	379	329	263	394	3,229
	2016	352	335	397	405	349	363	377	411	421	391	431	452	4,684
脳神経外科	2015	842	1,116	1,285	1,480	1,617	1,682	1,843	1,909	2,106	2,016	2,043	2,286	20,225
	2016	2,427	2,550	2,304	2,224	1,901	1,833	1,955	1,852	1,839	1,810	1,614	1,713	24,022
整形外科	2015	2,235	2,140	2,310	2,516	2,359	2,145	1,974	2,181	2,181	2,131	1,949	2,267	26,388
	2016	2,327	2,313	2,292	2,428	2,004	2,090	2,359	2,399	2,402	2,388	2,528	2,508	28,038
婦人科	2015	27	32	28	35	42	43	54	11	55	0	50	43	420
	2016	60	46	80	63	16	54	33	25	41	61	32	32	543
眼　科	2015	30	42	55	28	22	37	37	41	42	53	48	38	473
	2016	41	46	40	49	29	38	42	48	28	38	40	79	518
耳鼻咽喉科	2015	116	81	72	127	109	134	105	42	97	60	110	141	1,194
	2016	61	93	110	99	163	136	137	104	87	61	132	146	1,329
皮膚科	2015	30	31	31	31	31	38	23	10	0	0	0	0	225
	2016	0	0	0	0	0	3	31	52	62	62	56	0	266
リハビリテーション科	2015	30	31	51	34	25	1	35	47	31	31	30	14	360
	2016	0	0	49	199	356	599	548	647	747	696	619	724	5,184
泌尿器科	2015	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2016	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
内　科	2015	2	4	1	3	4	1	2	8	4	3	2	1	35
	2016	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合　計	2015	9,998	10,335	10,229	10,597	10,101	9,595	10,275	10,652	11,032	11,189	10,997	11,836	126,836
	2016	11,126	12,023	11,613	11,870	11,089	11,649	12,338	11,790	11,725	12,663	12,388	13,373	143,647

新入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2015	81	72	70	80	55	85	78	75	81	94	81	84	936
	2016	83	98	78	67	82	72	60	77	84	88	89	103	981
消化器内科	2015	62	70	83	76	63	84	68	85	77	87	94	98	947
	2016	77	101	88	99	105	95	73	83	83	126	98	102	1,130
血液内科	2015	57	53	59	56	52	47	52	57	49	58	68	67	675
	2016	49	68	72	54	67	70	63	59	62	83	59	81	787
神経内科	2015	0	1	0	2	0	1	1	1	2	0	1	0	9
	2016	0	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	1	8
代謝内科	2015	2	1	1	6	5	11	9	7	7	8	11	9	77
	2016	11	8	7	18	10	11	9	11	5	11	9	13	123
呼吸器内科	2015	7	18	9	13	0	13	20	17	15	18	19	13	162
	2016	23	15	19	21	21	16	24	19	17	21	15	21	232
消化器外科	2015	61	51	69	60	48	46	49	67	58	69	63	54	695
	2016	61	55	49	60	51	45	51	48	46	54	59	58	637
呼吸器外科	2015	25	17	14	13	22	12	21	23	17	20	18	12	214
	2016	15	17	14	19	23	18	14	21	23	10	16	16	206
心臓血管外科	2015	29	23	25	34	31	22	36	41	30	43	44	45	403
	2016	34	42	55	46	45	43	45	47	50	41	49	55	552
脳神経外科	2015	34	31	23	39	21	44	40	38	46	39	41	42	438
	2016	43	45	35	29	42	35	35	35	36	48	58	62	503
整形外科	2015	64	52	64	73	75	54	58	60	52	66	59	74	751
	2016	78	57	60	58	65	80	69	72	63	74	66	71	813
婦人科	2015	7	6	5	7	7	7	10	3	7	5	9	11	84
	2016	4	7	11	7	2	8	6	6	6	14	4	7	82
眼　科	2015	18	22	29	17	18	21	19	25	20	29	26	19	263
	2016	25	28	20	21	18	21	19	25	19	18	23	26	263
耳鼻咽喉科	2015	17	16	17	21	14	15	10	10	15	6	15	17	173
	2016	9	13	14	10	17	15	25	17	16	14	22	24	196
皮膚科	2015	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
	2016	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
リハビリテーション科	2015	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	5
	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内　科	2015	4	5	2	4	2	2	5	4	3	4	1	3	39
	2016	1	3	6	1	1	1	0	0	0	0	0	0	13
合　計	2015	469	438	472	501	413	466	478	514	479	546	551	548	5,875
	2016	513	558	530	511	550	531	493	522	510	602	567	640	6,527

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	入院	20	27	40	34	25	38	28	27	22	38	29	41	369
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	入院	29	24	47	39	50	44	36	32	39	41	47	53	481
	外来	37	37	48	46	36	57	35	52	51	39	48	52	538
血液内科	入院	2	2	2	1	1	1	0	2	0	1	1	4	17
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	入院	34	37	42	35	43	33	41	32	36	32	35	45	445
	外来	17	4	16	17	10	12	7	13	6	13	14	8	137
呼吸器外科	入院	5	9	6	6	5	7	4	8	3	5	5	13	76
	外来	7	7	4	8	0	6	6	4	4	8	3	6	63
心臓血管外科	入院	25	28	40	38	32	28	40	41	41	31	36	34	414
	外来	9	8	5	10	20	4	7	3	10	8	8	10	102
脳神経外科	入院	13	22	10	22	17	14	13	10	17	23	19	20	200
	外来	4	3	3	3	2	4	2	4	2	4	2	5	38
整形外科	入院	70	56	58	52	58	69	69	66	69	61	64	73	765
	外来	12	8	6	11	23	15	5	9	7	9	10	8	123
婦人科	入院	5	6	10	8	2	7	6	3	5	12	4	6	74
	外来	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	2	6
眼　科	入院	25	28	20	18	22	20	18	26	20	18	23	26	264
	外来	17	17	18	10	7	10	17	17	13	14	20	12	172
耳鼻咽喉科	入院	5	3	5	5	11	7	19	18	5	4	14	10	106
	外来	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4
皮膚科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	2	0	1	1	0	1	0	3	2	1	0	0	11
形成外科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	6	5	8	12	13	6	0	0	8	8	7	10	83
合　計	入院	233	242	280	258	266	268	274	265	257	266	277	325	3211
	外来	112	90	109	118	112	116	81	105	103	106	112	113	1277

※手術室・血管造影室・内視鏡室・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	日勤	18	26	36	33	23	37	27	26	21	38	27	41	353
	緊急	2	1	5	2	1	1	1	1	0	0	1	0	15
消化器内科	日勤	28	22	44	37	49	41	35	29	33	38	45	49	450
	緊急	1	2	3	2	1	3	1	2	7	2	3	4	31
血液内科	日勤	2	2	2	1	1	1	0	2	0	1	1	2	15
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	日勤	33	34	41	33	42	32	40	28	35	31	35	41	425
	緊急	1	3	1	2	1	1	1	4	1	1	0	4	20
呼吸器外科	日勤	5	9	6	6	5	6	4	8	3	5	5	13	75
	緊急	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
心臓血管外科	日勤	23	25	40	38	32	28	35	37	38	30	33	31	390
	緊急	2	3	0	0	0	0	5	4	3	1	3	3	24
脳神経外科	日勤	13	19	9	21	16	13	12	9	15	21	15	18	181
	緊急	0	3	1	1	1	1	1	1	2	2	4	2	19
整形外科	日勤	70	56	57	51	55	66	68	64	66	60	64	71	748
	緊急	0	0	1	1	3	3	1	2	3	1	0	2	17
婦人科	日勤	5	6	10	8	2	7	5	3	5	12	4	6	73
	緊急	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
眼　科	日勤	25	28	20	18	22	20	18	26	20	18	23	26	264
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	5	3	5	5	11	7	19	18	5	4	14	10	106
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	日勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	日勤	227	230	270	251	258	258	263	250	241	258	266	308	3080
	緊急	6	12	11	8	7	10	11	14	16	7	11	15	128

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2015	82.8%	84.2%	87.2%	87.6%	82.3%	74.5%	79.3%	86.0%	86.2%	84.6%	84.6%	90.2%
	2016	83.2%	87.7%	87.3%	87.1%	80.1%	82.4%	82.4%	81.2%	78.6%	85.6%	96.9%	94.8%
特定集中	2015	86.7%	86.3%	98.3%	84.7%	82.3%	100.0%	91.9%	103.3%	108.1%	92.5%	92.5%	91.5%
	2016	87.1%	78.6%	84.6%	74.2%	71.0%	52.1%	72.2%	76.7%	73.4%	89.5%	81.3%	88.3%
回復期リハ	2015	95.9%	94.1%	92.9%	92.9%	89.7%	90.4%	86.8%	92.0%	96.1%	96.3%	96.3%	97.5%
	2016	97.3%	93.6%	94.0%	92.7%	88.5%	89.9%	94.2%	93.8%	95.5%	95.2%	97.7%	94.0%
地域包括ケア	2015	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	2016	–	–	–	–	–	–	–	–	–	86.8%	87.0%	87.2%
療養病棟	2015	90.7%	85.6%	86.2%	87.1%	91.7%	86.2%	88.0%	87.0%	88.6%	64.7%	64.7%	68.5%
	2016	77.4%	84.0%	82.6%	82.8%	78.9%	85.3%	90.5%	88.5%	85.1%	88.7%	93.1%	92.2%
合　計	2015	86.1%	85.9%	88.0%	88.3%	84.2%	78.4%	81.7%	87.0%	87.1%	81.7%	81.7%	86.4%
	2016	83.6%	87.4%	87.0%	86.6%	80.6%	83.3%	85.2%	84.0%	81.6%	87.2%	95.3%	93.1%

主な指導料・管理料算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
救急医療管理加算1	437	660	552	626	431	569	496	599	658	975	845	858	642
救急医療管理加算2（その他）	237	79	38	38	7	51	29	67	286	319	480	543	181
夜間休日緊急搬送医学管理料	90	70	75	71	93	86	77	72	79	121	100	118	88
特定集中治療室管理料3(7日以内)	135	141	144	121	119	100	132	133	127	138	160	170	135
特定集中治療室管理料3(14日以内)	25	22	21	21	27	18	37	16	32	36	11	28	25
麻酔管理料1（閉鎖循環式全身麻酔）	89	83	95	85	83	93	111	101	97	85	105	117	95
麻酔管理料1（脊椎麻酔）（硬膜外麻酔）	2	2	0	0	1	3	1	0	3	0	1	1	1
病理組織標本作製	271	224	211	271	257	282	260	284	259	260	284	310	264
画像診断管理加算1(単純撮影)	773	872	840	808	854	844	840	854	825	902	897	897	851
画像診断管理加算2（CT，MRI）	856	863	901	869	883	871	916	898	875	959	928	1,010	902
外来化学療法加算2（ベルケイド含む）	71	66	78	62	58	66	58	60	63	83	72	72	67
外来栄養食事指導料　初回・2回目	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1
入院栄養食事指導料1　初回・2回目	38	44	34	63	42	41	56	62	48	48	64	61	50
集団栄養食事指導料	0	0	0	0	0	2	4	3	0	3	3	8	2
薬剤管理指導料　※1・2含む	752	855	965	904	917	861	862	829	754	743	874	931	854
退院時薬剤情報管理指導料	183	196	168	189	122	173	185	191	184	148	224	213	181
薬剤情報提供料	316	312	263	338	330	346	317	303	416	530	368	288	344
無菌治療室管理加算	146	215	177	168	187	159	130	139	142	174	185	189	168
無菌製剤処理料1	2	0	0	9	11	12	102	99	164	183	154	233	81
無菌製剤処理料2	169	144	130	149	215	264	424	346	205	197	214	220	223
リハビリ総合計画評価料	586	584	627	624	631	601	615	600	610	508	608	645	603
退院時リハビリテーション指導料	136	134	133	153	159	147	156	158	186	128	161	168	152
在宅患者訪問リハビリ指導料	23	19	24	25	19	25	25	23	25	18	21	24	23
医療機器安全管理料	21	27	19	18	16	11	21	25	26	32	28	22	22
初診料	437	455	432	483	520	487	451	465	546	828	479	498	507
選定療養費（初診）※自費 2,160円	162	213	168	221	226	205	193	178	262	479	201	178	224
診療情報提供料（Ⅰ）	211	218	195	232	223	213	190	209	232	239	255	289	226
診療情報提供料（Ⅱ）	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1
退院前訪問指導料	11	20	16	21	24	20	21	20	32	15	27	27	21
在宅療養指導料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅患者訪問診療料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護指示料	2	3	6	2	3	4	2	1	3	0	0	1	2
在宅自己注射指導管理料	14	18	14	18	13	17	14	21	25	20	20	21	18
在宅人工呼吸指導管理料	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
在宅悪性腫瘍患者指導管理料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅寝たきり患者処置指導管理料	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
悪性腫瘍特異物質治療管理料	144	147	159	147	145	159	145	123	133	155	146	154	146
特定薬剤治療管理料	34	35	44	25	55	26	22	30	27	37	34	29	33
特定薬剤治療管理料（4箇月目移行）	4	7	4	9	6	6	4	3	6	6	9	12	6
特定薬剤治療管理加算（臓器移植）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
特定薬剤治療管理加算（臓器移植以外）	16	18	20	13	14	8	10	16	14	22	17	9	15
肺血栓塞栓症予防管理料	89	96	88	88	93	85	100	90	86	93	89	100	91
褥瘡評価実施加算（療養病棟）	1,155	1,487	1,494	1,534	1,485	1,538	1,684	1,546	1,557	1,509	826	1,005	1,402
介護支援連携指導料	11	6	10	5	7	4	11	11	13	8	7	8	8
退院支援加算2（～H28.05）	44	66											55
退院支援加算1（H28.06～）一般病棟			54	59	40	41	51	92	116	98	119	116	79
退院支援加算1（H28.06～）療養病棟			9	8	4	2	6	5	4	6	1	3	5
救急・在宅等支援療養病床初期加算	478	263	202	209	211	185	181	251	188	279	358	142	246

地域がん登録部位別件数

部位名	第１段階　ICD-O-2　形態コード	第２段階　ICD-O-3　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	0
食道		C15	6
胃		C16	91
小腸		C17	5
結腸		C18	93
直腸		C19	28
肝臓		C22	22
胆嚢・胆管		C23-24	19
膵臓		C25	23
喉頭		C32	1
肺		C33-34	53
骨・軟部			0
皮膚（黒色腫含む）		C44	0
乳房		C50	8
子宮頚部		C53	0
子宮体部		C54	0
子宮		C55	0
卵巣		C56	0
前立腺		C61	2
膀胱		C67	0
腎・他の尿路		C67,C64-66,C68	0
脳・中枢神経系		C700,C71,C722-C729,C751-753	0
甲状腺		C73	1
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	33
多発性骨髄腫	973,976	骨髄腫	19
白血病	980-994	白血病	24
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	11
その他（原発不明）		その他	6
			445

研修・講演会一覧

医局（内科カンファレンス）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
症例発表「溶血性連鎖球菌敗血症による死亡例」	垣野内航	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.4.13	17
レクチャー「輸血マニュアル改訂にあたって、確認点」	佐藤祐二	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.4.20	18
症例発表「重症下肢虚血膝窩動脈以遠における血管内治療での救肢成功例」	石川陽子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.4.27	19
抄読会「A Trial of Calcium and Vitamin D for the Prevention of Colorectal Adenomas」	横山昌平			
抄読会「Cryoball or Radiofrequency　Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation」	黒江崇史	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.5.11	20
抄読会「Aliskiren,　Enalapril, or Aliskiren and Enalapril in Heart Failure」	石川陽子			
抄読会「Eculizumab in Pregnant Patients with Paroxysmal Nocturnal Hemogl binuria」	垣野内航	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.5.18	17
症例発表「血球貧食症候群を合併し潰瘍性大腸炎類似の病理組織像を認めたサルモネラ腸炎の一例」	横山昌平			
死亡症例検討会「94 歳　女性」	藤原　淳	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.5.25	22
死亡症例検討会「91 歳　女性」	岩井健太郎			
死亡症例検討会「49 歳　男性」	佐藤祐二			
死亡症例検討会「64 歳　男性」	石川宏明			
レクチャー「放射線科における安全管理（2）～造影剤の使用～」	鯨岡結賀	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.6.8	16
抄読会「Long-Term Colorectal-Cancer Mortality after Adenoma Removal」	大河内咲波	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.6.15	15
抄読会「Ventricular Tachycardia Ablation versus Escalation of Antiarrhythmic Drugs」	黒江崇史			
抄読会「Eluxado line for Irritable Bowel Syndrome with Diarrhea」	石川陽子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.6.22	9
抄読会「Amiodarone,Lidocaine,or Placebo in Out-of-Hospital Cardiac Arrest」	垣野内航			
症例発表「糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）によって意識障害をきたした２型糖尿病の一例」	柴田靖美			
抄読会「Effect of PCI on Long-Term Survival in Patinets with Stable Ischemic Heart Diseasel」	大河内咲波	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.6.29	16
※予演「インフルエンザ迅速検査まで 32 日間を要した悪性リンパ腫例」	黒江崇史			
死亡症例検討会「主訴　腹部膨満、腹痛」	田岡賢一	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.7.6	18
抄読会「Body-Mass Index in 2.3Million Adolrscents and Cardiovascular Death in Adulthood」	園部藍子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.7.13	17
症例発表「1 穿刺で 2 本のドレナージチューブを留置し持続灌流を行った肝腫瘍の一例」	岡本千尋			
抄読会「Symptoms and quality of life patients with chronic obstrucive pulmonary disease treated with aclidinium in a real-rife setting」	柴田靖美	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.7.20	10
抄読会「Routine pre-procedural rectal indometacin versus selective post-procedural rectal indometacin to prevent pancreatitis in patients undergoing endoscopic retrograde 」	岡本千尋	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2016.7.27	13

予演「心電図による診断が困難であった起始異常を有する左回旋枝を責任病変とする急性冠症候群の1例」	大河内咲波	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.9.7	12
レクチャー「MEPM適正使用について」	佐藤祐二			
抄読会「Olanzapine for the Prevention of Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting」	大河内咲波	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.9.14	18
症例発表「α-streptcoccusによる化膿性門派炎の一例」	垣野内航			
抄読会「Liraglutide and Cardiovascular Outcomes in Type 2 Diabeter」	粕谷英暢	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.9.21	8
抄読会「Multitarget Stool DNA Testing for Colorectal-Canser Screening」	黒江崇史			
死亡症例検討会「医師法20条/21条を考える」	池澤和人	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.9.28	16
75歳　男性	佐藤祐二			
80歳　男性	石川宏明			
レクチャー「肺結核の診断」	大塚盛男	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.10.5	22
抄読会「Efficacy of the Herpes Zoster Subunit Vaccine in Adults 70　Years of Age or Older」	岩元博史	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.10.12	15
抄読会「PD-1 Blockade with Nivolumab in Relapsed or Refractory Hodgkin’sLymphoma」	横山昌平	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.10.19	7
レクチャー「Q10、80歳　男性　Q11、64歳　男性」	佐藤祐二	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.10.26	14
レクチャー「糖尿病について」	藤原　淳	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.11.2	16
抄読会「Semaglutide and Cardiovasculr Outcomes in Patients with Type 2 Diabetes」	石塚幹太郎	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.11.9	13
死亡症例検討会「73歳　男性」	佐藤祐二	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.11.30	15
大動脈弁置換術後に突発性間質性肺炎の急性増悪を発症し、加療中に死亡に至った一例	沼田るり子			
79歳　男性	藤原　淳			
研修医学術集会「急性心筋梗塞におけるDoor to balloon timeを短縮できた一例」	粕谷英暢	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.12.3	
研修医学術集会「心電図による責任血管の推測が困難であった起始異常を有する回旋枝を責任病変とする急性冠症候群の一例」	大河内咲波			
研修医学術集会「インフルエンザ迅速検査陰性化まで32日間を要した悪性リンパ腫例」	黒江崇史			
研修医学術集会「原発巣切除後3ヶ月で肝転移が出現し、急激な経過をたどった胃肉腫の症例」	石川陽子			
研修医学術集会「播種性骨髄癌症を合併した胃神経内分泌腫瘍の一例」	横山昌平			
剖検　症例検討会「胸部大動脈瘤人工血管術後の心タンポナーゼ解除後、肺炎を来した症例」	臺　勇一	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.12.7	13
剖検　症例検討会「胆嚢癌リンパ節が疑われた症例」	添田敦子			
剖検　症例検討会「多発肝転移と考えられた症例」	添田敦子			
症例発表「モンスターペイシェントへの対応」	岩元博史	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2016.12.21	12
症例発表「ダサチニブによる多発大腸ポリープをきたした一例」	小和田恵以			
レクチャー「インフルエンザとER診断」	池澤和人	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2017.1.18	33
剖検　症例検討会「好酸球増多症と右肺腫瘍を認めた多発性脳梗塞の症例」	神野和志	筑波記念病院 S棟2階大会議室	2017.1.25	37

抄読会「Prevalence of Pulmonary Embolism among Patients Hospitalized for Syncope」	石塚幹太郎	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.2.8	12
抄読会「Genetic Risk, Adherence to Healthy Lifestyle, and Coronary Disease」	矢口拓実			
メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の一例	粕谷英暢	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.2.15	5
剖検　症例検討会「大動脈弁置換術後に間質性肺炎急性増悪をきたした一例」	岩元博史 榎本強志	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.2.22	25
剖検　症例検討会「慢性心不全、腎不全を背景に原因不明の腹水貯留をきたした一例」	倉橋果南			
死亡症例検討会「72 歳　女性」	北澤晴奈	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.3.8	12
死亡症例検討会「78 歳　男性」	福田匡芳			
死亡症例検討会「76 歳　男性」	大塚公一朗			
救急症例検討会「初発の発作性上室性頻拍に対して頸動脈洞マッサージが有効であった一例」	黒江崇史	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.3.15	28
救急症例検討会「腸回転異常症を起因とする絞扼性イレウスの一例」	大河内咲波			
救急症例検討会「初期トリアージで緑であった外傷性心タンポナーデ患者から見えてきたもの」	横山昌平			
救急症例検討会「意識障害で搬送され、解離性障害と診断し精神科病院に転送した患者の一例」	石川陽子			
救急症例検討会「心筋逸脱酵素陽性を伴わなかった心筋梗塞の一例」	小和田恵以			
救急症例検討会「テグレトール（カルバマゼピン）により過鎮静をきたした一例」	粕谷英暢			
剖検症例検討会「濾胞性リンパ腫からびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に悪性転化した症例」	柴田靖美 佐藤祐二	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.3.22	6

看護部

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
看護倫理 1	看護部管理室 星　豪人	筑波記念病院会議室	2016.4.11	50 名
感染予防対策 1	星　典子	筑波記念病院会議室	2016.4.12	53 名
看護過程と看護支援システム	業務管理検討会	筑波記念病院会議室	2016.4.15	54 名
生活支援技術	太田和子・星　典子・高橋久美子・小竹久美子・遠藤育代	筑波記念病院会議室	2016.4.12	49 名
技術研修（心電図・吸引・導尿）	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.4.13	47 名
輸液ポンプ・シリンジポンプの扱い方	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.4.14	47 名
採血技術	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.4.15	47 名
医療安全 1	小林朋子　医療安全検討会	筑波記念病院会議室	2016.4.12	53 名
看護必要度研修	業務管理検討会	筑波記念病院会議室	2016.5.9	55 名
プリセプターシップ研修 1	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.5.21	48 名
看護教育（スタッフ教育と実習指導）	小林千恵・西田香織・瀬能直子	筑波記念病院会議室	2016.5.30	16 名
看護研究 4	小林純子	筑波記念病院会議室	2016.6.17	25 名
プリセプターシップ研修 2	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.6.18	ティ 39 ／ ター 38
看護技術研修 2-①	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.6.25	43 名
看護倫理 2	岡部恵子	筑波記念病院会議室	2016.6.27	32 名
看護技術研修 1-②（摂食嚥下）	阿部真由美	筑波記念病院会議室	2016.7.4	43 名

看護研究 3	茨城県立医療大学教授 吉良淳子	筑波記念病院会議室	2016.7.8	31 名
看護管理 2（メンバーシップ）	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.7.11	41 名
看護研究 2	茨城県立医療大学准教授：富田美加	筑波記念病院会議室	2016.7.22	34 名
医療安全 3	医療安全検討会	筑波記念病院会議室	2016.7.25	19 名
救急看護研修 1	星　豪人	筑波記念病院会議室	2016.8.2	43 名
ストレスマネジメント 2	髙橋晶子心理士	筑波記念病院会議室	2017.1.30	12 名
感染対策 2	星　典子 感染対策検討会	筑波記念病院会議室	2016.8.22	32 名
看護管理 5	矢中豊子	筑波記念病院会議室	2016.8.29	17 名
コミュニケーション 1	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.9.6	40 名
看護論研修 1	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.9.12	18 名
プリセプターシップ研修 3	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.9.17	ティ 39 ／ ター 26
看護補助者研修 (感染対策)	星　典子	筑波記念病院会議室	2016.10.13	14 名
看護倫理 3	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.9.26	17 名
看護補助者研修 (感染対策)	星　典子	筑波記念病院会議室	2016.10.27	12 名
コミュニケーション 2（傾聴スキル）	大東文化大学大学院＆ 青山学院大学兼任講師：渡部富栄	筑波記念病院会議室	2016.10.20	27 名
ストレスマネジメント 1	髙橋晶子心理士	筑波記念病院会議室	2017.1.16	44 名
看護管理 4		筑波記念病院会議室	2017.1.13	23 名
感染予防対策 3	星　典子・相馬　悟・ 富田浩美	筑波記念病院会議室	2016.11.21	19 名
看護過程 2	業務管理検討会	筑波記念病院会議室	2016.12.5	39 名
看護教育 2（コーチング）	医療コーディネーター ウエルネスコーチ 平沢栄子	筑波記念病院会議室	2016.12.9	28 名
キャリア開発 1	星　豪人・星　典子・ 木内亮子・阿部真由美	筑波記念病院会議室	2016.12.16	12 名
看護管理 3（リーダーシップ）	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2016.12.19	30 名
医療安全 2	医療安全検討会	筑波記念病院会議室	2017.1.23	38 名
看護補助者研修（医療安全）	医療安全検討会	筑波記念病院会議室	2017.2.6	13 名
看護補助者研修（医療安全）	医療安全検討会	筑波記念病院会議室	2017.2.13	14 名
看護研究 1	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2017.2.20	
プリセプターシップ研修 4	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2017.2.25	ティ 39 ／ ター 27
コミュニケーション 3（アサーション）	目白大学教授 : 沢崎達夫	筑波記念病院会議室	2017.2.27	29 名
次年度プリセプター研修	教育担当者会	筑波記念病院会議室	2017.3.18	
看護技術 1-③	皮膚・排泄ケアチーム	筑波記念病院会議室	2016.10.3	43 名

リハビリテーション部

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 小児領域 A コース	岸本光夫	筑波記念病院	2016.9.3・4	28
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 小児領域 B コース	岸本光夫 根本浩則	筑波記念病院	2016.12.17・18	20
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「茨城シーティングセミナー 2016」 第 1 回『 シーティングの基礎 』	山崎泰広	筑波記念病院	2016.10.25	162

茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「茨城シーティングセミナー 2016」 第 2 回『 シーティングによる骨盤の傾きへの対応 』	山崎泰広	筑波記念病院	2016.11.8	142
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「茨城シーティングセミナー 2016」 第 3 回『 褥瘡予防・再発防止、重度障害者への対応 』	山崎泰広	筑波記念病院	2016.11.22	121
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「茨城シーティングセミナー 2016」 第 4 回『 シーティングの実践① 』	山崎泰広	筑波記念病院	2016.12.6	104
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「茨城シーティングセミナー 2016」 第 5 回『 シーティングの実践② 』	山崎泰広	筑波記念病院	2016.12.20	87
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「PT・OT・ST のための姿勢や呼吸をベースとした摂食・嚥下リハビリテーション」	小椋　脩	筑波記念病院	2016.12.8	93
茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター事業 「患者さんとよりよい関係を築くために 　－こころがけたい援助のポイント－」	大塚　文 佐々木千穂	筑波記念病院	2016.12.8	78
茨城県指定地域リハ・ステーション事業 つくば地域リハ・セミナー第 23 回症例検討会		筑波記念病院	2016.10.2	73
茨城県指定地域リハ・ステーション事業 つくば地域リハ・セミナー第 24 回症例検討会		筑波記念病院	2017.3.12	74
茨城県指定小児リハ・ステーション事業 第 47 回小児リハビリテーションネットワーク会議 小児ネットワーク会議について、各施設の新年度体制の紹介（病院、学校、福祉施設）		筑波記念病院	2016.5.12	32
茨城県指定小児リハ・ステーション事業 第 48 回小児リハビリテーションネットワーク会議 仮想事例での事例検討会		筑波記念病院	2016.7.14	24

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
当院におけるＮＯＡＣの使用状況	榎本強志	筑波記念病院	2016.4.22	62
心原性脳塞栓症に対する地域医療連携 ～日立での心房細動連携パスへの取り組み～	筑波大学附属病院 小松洋治			
口腔リハビリテーション －摂食嚥下障害を中心として－	志村大宮病院 鈴木規子	筑波記念病院	2016.5.27	89
第 5 回つくば ESD/ 病理カンファランス	越智大介 臺　勇一	筑波記念病院	2016.6.10	15
気管支喘息とＣＯＰＤ　最新の話題	筑波大学医学医療系 檜澤伸之	筑波記念病院	2016.6.24	59
循環器疾患におけるＢＮＰと高感度心筋とトロポニン測定の意義	アボットジャパン株式会社 青木和雄	筑波記念病院	2016.7.15	46
リハビリテーション栄養～サルコペニアの嚥下障害～	大久保病院 御子神由紀子	筑波記念病院	2016.7.22	60
感染制御を巡る最近の話題 ～市中に広がる耐性菌（ESBL、MRSA など）の話題、標準予防策について～	国立がん研究センター 中央病院 馬場尚志	筑波記念病院	2016.8.5	49
医療事故後の対応について	仁邦法律事務所 桑原博道			
当院におけるイーケプラの使用経験からの考察	星野幸子	筑波記念病院	2016.8.26	61
てんかんの診断と治療の最新情報	つくばセントラル病院 青木　司			
糖尿病における動脈硬化促進因子とその制御	順天堂大学大学院 三田智也	筑波記念病院	2016.9.9	25

第８回地域連携ＰＥＧの会	伊佐地隆	つくば国際会議場	2016.10.1	43
摂食・嚥下へのリハビリテーションの関わり 摂食・嚥下障害の評価と訓練の実際	東京医科歯科大学 戸原　玄			
当院における睡眠薬の適正使用に関する取り組み	東京女子医科大学病院 髙橋結花	筑波記念病院	2016.10.7	54
安易な睡眠薬投与がもたらすもの ～依存と転倒の問題～	埼玉医科大学病院 上條吉人			
難治性高血圧症について	薗部藍子	筑波記念病院	2016.10.28	46
臨床研究いろはにほ　～循環器領域を中心に～	東京大学医学部附属病院 山崎　力			
第８回つくば内視鏡ライブセミナー	手稲渓仁会病院 真口宏介	筑波記念病院	2016.10.29	83
ＢＰＳＤの病態と対応	筑波大学医学医療系 新井哲明	筑波記念病院	2016.11.11	49
乳がんの画像診断検査について	吉原　桂	筑波記念病院	2016.11.24	54
乳癌検診の現状と動向	鯨岡結賀			
アレルギー検査の最近の話題 重要抗原の変化とアレルゲンコンポーネントの活用	サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社 中村詩織	筑波記念病院	2017.1.20	21
当院におけるサムスカの使用経験から	新居秀郎	筑波記念病院	2017.2.24	45
インターベンショナリストが求める利尿薬治療 ～腎機能障害抑制の観点から～	水戸協同病院 小島栄治			
静脈血栓塞栓症の治療とインフォームドコンセント	北浜法律事務所 長谷部圭司	筑波記念病院	2017.3.24	44
静脈血栓塞栓症　最近のトピック	筑波大学附属病院 木村泰三			

医療法人社団 筑波記念会 2016年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
http://tsukuba-kinen.or.jp/